

オンガクイチエンのダイ

エイ  
コ



# 目次



オンガクイチエンのジダイ

エイゾウ

はじめに

このホンでよんサツメとなる。イチネンイッサクで、ニセンジュウゴネンからよんサクメとなる。サンサクメからは、マンネンヒツでかいている。コウキュウブランドものではないが、まあきにいつている。インクもビンでヨウイしている。ほぼサンサクでふたつつつかいきるようだ。パソコンにチョコセツうってしまえば、というかんがえかたもあるが、わたしはこれできにいつている。このやりかたはしばらくくずさないでつづけたい。

ニセンジュウなネンジュウニガツふつか

イチ

ソレンはカイサンしてそのゴどうなったか。なぜカイサンすることになったかという、ビョウドウすぎたときく。グタイテキには、はたらかないでキュウリヨウをもらうひとにあわせて、よくはたらくひとや、ユウノウなひとがはたらかなくなったからだという。たしかに、あまりはたらかないひとに、ケイザイをあわせると、とんでもないことになる。これは、どこかのくにのケイザイセイサクににている。そうだ、「ザンギョウ」をキセイしようというセイサクのことだ。たしかに、はたらきすぎてしんでしまったり、もえつきてしまったりするのはこまるが、みんながみんなそうなるわけではない。だからザンギョウをとめるのは、コベツにやるべきだろう。はたらきざかりがはたらかなくなったら、やはりケイザイはコンランするのだ。ソレンカするニホンではしょうがないとおもう。

ニ

キュウジュウネンダイゼンハンまでの「バブルケイザイ」は、チカ（トチのカカク）がたかくなったというインショウがあるが、イッポウ、「モノ」がやすくなったというメンがある。それはエンだかがすすみ、ユニウヒンがやすくなったからだ。ケイサンができるひとは、ますますあがるであろうトチをあずけておかねをかりて、やすくなったユニウヒンをかえばもうかるとかんがえるだろう。それでどうシウエキをあげるかはしらないが、たかいカカクのもので、ひくいカカクのものをかえればニバイおいしい。ただそれがつづかなかったから、「フリョウサイケン」だなんだいいだした。ようするに、

トチのカカクがさがってあずかっているところはソンがでたのである。

しかし、エンだかはずついた。だから、ユニウヒンをかえば、おなじキングクをだしてのセイカツがゆたかになった。イゼンだったら、ヒャクエンでは、カジュウサンジュツパーセントのオレンジ（みかん）ジュースをのむのがせいぜいだったが（わかいひとは、カジュウサンジュツパーセントのジュースをしらないかもしれない。）、ヒャクパーセントのものがのめるようになった（[アメリカ] ガッシュウコクのひとつのドリヨクがおおきい。）。モチロンこれはユニウものだったりするから、コクナイケイザイのカイゼンにはならない（しいれてうるショウバイはできるが）。しかしながら、そういうセンタクもできるようになったというのが「バブルケイザイ」ゴである。だからユニウものばかりでセイカツしていたら、かなりシシュツをへらしたセイカツができたことだろう。

しかし、コンゴもそれがつづくとはかぎらない。ユニウものがたかくなることもあるのだ。コクナイケイザイのモンダイではないというテンでギャクバブルといおう。たとえば、セキユのねだんがあがれば、ユソウにかかるヒヨウがふえる。そうすると、モノのねだんがたかくなってしまふのである。エンやすにふれてもそうだろう。ユニウカカクがたかくなってしまふ。だからそういうこともあろうとおもっておくことは、ダイジかとおもう。

サン

ジョセイのシャカイシンシュツという。これは「シャカイ」に「シンシュツ」していなかった「ジョセイ」がおおかったからそういうのだろう。いってみれば「ダンセイチュウシン」テキだったと。しかし、ダンセイの「カジシンシュツ」とはあまりいわない。ダンセイがカジをするのはめずらしかっただろうけど、まあそういわない。おとこのメイヨにかかわるから、そういうことはいわないのかもしれない。ただそのブン、おとこがカジをするジカンがへってしまうようなきがする。そうすると、ジョセイがつよくなり、ダンセイはいえでのいバショをうしなわないか。ひどいいかたがあつたはずだ。「おおきなハイキブツ」といったいいかたである。そういうのをよりつよめることはないとおもう。しっかりカジをするダンセイは、ダンジョビョウドウテキにうまくやるのだろう。

よん

エーからビーにすすむのに、イチビョウかかれば、イチビョウカンかかったという。くるまにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキウジョウでソクドのはやいブルイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくったようだ。

ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットネンリョウである。それはどうショウヒされるか。おおきいものをうごかす

と、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブッシツをつくれれば、ひかりよりはやくイドウできるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキュウジョウのリヨウだけでも、ジョウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

ゴ

わたしがまえにかいたホン『よろこぶゲンシジン』に、わたしがかんがえたジカンリョコウ（タイムトラベル）のゲンリをかいた（●『よろこぶゲンシジン』イカ、『よ』、ニジュウイチ）。ゲンリだけでなく、セツケイもカンタンだが、セッチがむずかしい。コンカイはそのカイゼンバンについてかく。

カンタンに言えば、イチネンマエをみるために、ハンコウネンさきに（オウフクでイチネン）かがみをおくのではなく、チキュウジョウにかがみをおくのだ。そのかがみは、イチネンまえのひかりがみえるように、タイリョウのかがみによるハンシャをくりかえして、イチネンブンドウするようにハイチする。これでイチネンまえがみえるわけだ。ただ、カコのひかりとゲンダイのひかりでコンランしないように、カコのひかりはしろくろにするなどのショリをしたホウがいいとおもう。

ロク

なぜモノがいのちへとなくなっていったのか。「シンカ」みたいなはなしである。なにかリユウというかがあったのだろう。かりにそれを「いのちシ」ということにする。モノにいのちシがくわわるといのちになるということだ。いのちシとはなにか。ひとつかんがえられるのが、キョウギョウである。モノがそれぞれ、わたしはわたしとっていたのではいのちはできない。しかし、キョウリョクしてブンギョウするようになれば、カガクショリなどもやりやすくなる。

どうしてキョウギョウするようになったのかはわからないが、ダイジなヨウソだろう。レーニンによるロシアカクメイは、ケイザイテキにはシツパイしたかもしれないが、セイブツガクテキにはただしかったのだとおもう。キョウリョクするのはセイメイのキホンであろうから。キョウリョクをするままとまりのおおきさがわかったのかもしれない。

なな

サイキン、わたしはあまりもちをたべていない。ショウテンでうられていたいそべまきをみるまでは、たべていないことにすらきづかなかった。ショウガツに、ちいさなかがみもちはヨウイするし、ぞうにもたべる。しかし、フダンはたべていない。もちをつく

のはひとサギョウだが、そういうことをしなくても、きりもちがうられている。いいしごとだとおもう。

ハチ

ゼンチョで、ジカンとはエネルギーわるシツリョウといった（●『よ』、ニジュウハチ）もっとタンジュンにいえば、エネルギーわるシツリョウがコウゾクキョリである。それをセイリするとシツリョウがはじきだせる。そんなことをしなくてもはかりではかれればシツリョウはだせるだろうが、それでだせるのは、チキユウジョウでのおもさである。つきでそのはかりをつかってはかれれば、スウジがかわってくる。

シツリョウはエネルギーわるジカンである。エネルギーがおおきくても、ジカンがレイ（ジリキでうごけないといえよいだろう。）ならばシツリョウもレイになる。これはどういうことか、あなたのいえのジシヨはジリキでうごけないから、シツリョウがレイということになる。おもさはあるじゃないかだが、ウチュウにおいておけば、なにかちからをくわえないかぎり、うえにもよこにもうごかないということだろう（コウセイからのうずまきリョク [インリョク、●『アルクカラカンガエル』、イカ、『ア』、ヒャクロクジユウサン、ニヒャクサンジュウ、『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』、イカ、『む』、ハチジュウハチ、『よ』ヒャクハチジュウサン] でひっぱられるとおもうが。)。しかし、チキユウがうごいているために（このレイでいえばエンジンだ。）ジカンがレイではない。そのためにシツリョウがあるとなる。

おもしろいのが、ジカンがレイかレイでないかである。フツウ、ニンゲンが「モノ」というモノは、ジリキでうごけないから、シツリョウはレイである。しかし、セイタイだと、レイイジョウになる（たとえば、チキユウジョウであしをつかってうごくだろう。ウチュウでは、てあしをうごかしてもすすめないかもしれない。）そうやって、セイタイとモノをハンベツできる。モノでもロボットはうごくから、シツリョウがレイイジョウになる。だから、ランボウないかたをすると、ロボットはセイタイといえるかもしれない。だから、ロコモティブ（うごき）をはかっても、シツリョウをはかってもセイタイかどうかはソクテイできるのである。

わたしがギロンする「タイミック（●『よ』ニジュウハチ）」はジカン（ティ）イコールティイチワルティシー（タイミック）のティシーである。つまり、ジカンにまつわるシツリョウ（イドウにかんするシツリョウ。たとえば、つきのインリョクなど。）をわりだせば、ゼツタイテキなジカン（イドウのイッテイセイ [キョリ]）がはじきだせるというものだ。タンジュンにいえば、ウチュウヒョウジュンジができるというわけだ。

ただ、ジカンイコールゼツタイジカンわるインリョクのシキはインリョクがレイになると、レイになってしまう。そんなことはありうるかであるが、ウチュウのなかではそういうジョウケンはないとおもわれる（ヨダンだが、たとえばみつのコウセイのまんなかに、ハイチされるなにかがあつたばあいに、ジカンがレイになることはあるかもしれない。これをわたしはデッドロックとよぶ。）。だからこれでいいとかんがえている。わたしは、ウチュウはサイセイ（リサイクル）されたホウが（いまやるということでは

い。) いいとおもっているので、そうかんがえる。

## キュウ

エイゴでコフィンというとかんおけである。それにあるシヨクリヨウをいれてはこんだ。それでコーヒーというようになったのか。いや、そうかもしれないが、そうだとすると「ミツユ」だろう (かんおけのなかはあらためられなかったのかもしれない)。コファアという、はこである。ゴゲンはかわらないとおもうが、はこにつめてはこぶものといえば、コーヒーだったのだろう。ベツにコウチャをはこにいれてもよかったのだろうが、コーヒーのホウがよかったのだろう。ホントウかはわからないが。

## ジュウ

エーアイがたまにワダイになる。シハンのキカイにもトウサイされたものがある。もっとすごくなると、リョウリのこんだてとか、むだづかいのガクを、ケイサンしてくれるのだろう。そういうエーアイとたたかうのがかしこいのであろうか。あるコウコウセイ、ダイガクセイのチシキは、カキュウのエーアイにうちまかされてしまうだろう。キョウイクにゴヒャクマンエンかけるのなら、エーアイをサンビャクマンエンでかったホウがやすいとなる。キョウイクはジョセイキンでなりたつようなキョウソウができないギョウカイである。だから、そういうエーアイとカカクキョウソウをしたら、キョウイクギョウカイがまけるのはめにみえている。まけるとはどういうことか。キョウイクギョウカイのあかじがふえるということだ。あかじをだすまいと、ねだんをあげるかもしれない。そうするとますますキョウイクギョウカイにおかねをはらうのが、ばかばかしくなってくる。そういうミライがみえたからか、わたしはコウコウにいかなくなった。エーアイとサバイバルゲームをするきはなかった。

どうすればいいか。エーアイをつくるホウにまわれれば、もうかるだろう。ニジュウネンまえばコンピューターがそうだった。コンピューターがリュウコウしていたときは、コンピューターをつくっていれば、もうかっただろう。テレビゲームでハンドウタイやガメンになれていたこともがおおかったから、パソコンにもなじみやすかっただろう。いまは、リュウコウからセイジユクしていき、ハードウェアは、そうそうもうからなくなっているようだ。しかし、パソコンをつかうひとはそんなにへっているわけではないだろう。ソフトウェアはまだまだもうかるかかもしれない。

エーアイはわりとあたらしいソフトウェアである。もし、チシキだけがヒツヨウとすれば、エーアイにかなうひとはそうそういないだろう。ニンゲンはどうすればいいか。うごけばいいのである。このブンのようにかくしごとは、やがてエーアイにうばわれるかもしれない (かといっててぬきをしているわけではない。わたしジシンのユニークさでショウブしているつもりだ。)

しかし、ものをはこぶとかリョウリをつくるのは、エーアイにはできない。ロボットがや

りは始めるかもしれないが、そこのところはキョウソウしてもいいかもしれない。リョウリはつくってたべなきゃニンゲンがしんでしまうからだ。そういうキソテキなことではないから、エーアイはかるくみられている。しかし、ガッコウでまなんだことがチシキだとしたら、ニューシャシケンでは、「おかえりください。うちにはエーアイがいますんで。」になってしまう。そういうわけで、チシキよりギジュツがダイジになっているジダイなのだとおもう。エーアイとキョウソウするくらいなら、つぎにひかえているロボットとキョウソウするのがかしこいといえるかもしれない。

## ジュウイチ

アインシュタインはテンサイといわれる。ゲンバクをつくりやがって。なにがテンサイだ。ではあるが、セイヒンはつかいかたシダイである。(アメリカ) ガッシュウコクセイフのつかいかたがモンダイだったのだろう。なんとなくおもうのが、アインシュタインはウチュウがみえていたのではないかというきがする。そして、アインシュタインもウチュウのイチブである。だからウチュウがわかるのであったのではないか。あとはそれをセツメイするだけである。そのセツメイはわからないひともおおいかもしれないが、それはアインシュタインのセツメイリョクのモンダイだ。しかし、すくなくともゲンバクつくったのだから、そのつかいかたがわるかったにせよすごい。

## ジュウニ

サイキンのウチュウシヨク(ウチュウでたべるごはん)はしらないが、パックされたエキタイやコタイをチューブですうというシヨクジであるときいたことがある。それがかりにステーキだとしても、チューブにとおるテイドにきりわけられているのだろう。そうやってたべないとウチュウにたべかすがちらばるからだ。だからウチュウにいいおいしいものをたべるというのはむずかしかったかもしれない。しかし、ウチュウヨウのシヨクジテーブルをつかえばおいしいさらリョウリがたべられるであろう。カイテンシキのテーブルといすのセットである。ジッケンしていないので、おいしくたべられるかはわからないが。

## ジュウサン

わたしたちのすんでいるあたりを「アジア」という。もともとチュウトウあたりにあったくにをそうよんだために、それをカクダイしてつかっているようだ。しかし、コウゾウシユギシャ(●『よ』イチ)はそれでいいのかとおもう。なぜなら、そのガンソアジアは、シヨクミンチにされていたのだ(ゾッコクといったホウがいいかもしれない)。そんななまえをみとめてしまったから、ジュウゴセイキコウのトウシュウ(レイのなま

えはつかわないホウがいいだろうから、かりにトウシュウとしておく。)は、シヨクミンチにされてしまったといえるかもしれない。ことばの(こういういかたはすきではないが)マリオクというやつである。かといってトウシュウといっても、そうそうつうじるわけではないだろうが、ジブンたちのことはそういえるだろう。ゾッコクじゃしょうがない。

#### ジュウよん

ハチジュウネンダイからデンキセイヒンをキバンをチュウシンにつくるようになってきた。そのまえからあったかもしれないが、そういうものがふえてきた。ハチジュウネンダイのオーディオアンプのふたをあけると、てサギョウでくみたてられていたことがわかる。ケーブルをハンダづけするのだ。しかしサイキンのものは、キバンをいくつかつなげただけというのがおおい。またキバンにはブヒンがおさまっているが、てサギョウでくみこみがヨウイなほどそのブヒンがおおきくない。ブヒンメーカーにつとめていたちちも、パソコンのブヒンをみてカンシンしていた。だから、こまかくブヒンをコウカンしてシュウリするのはむずかしい。しかし、こわれていないキバンをチョウタツできればなおせてしまう。そういうわけで、フリオウヒンでもブヒンどりのやくにたったりする。そういうギジュツもダイジかとおもって、わたしはサイキンシュミでシュウリをはじめた。

#### ジュウゴ

あるしなものエーがあったとする。エーのほかにエーダッシュもあるとする。エーダッシュだから、エーとはちがうか。それはなんともいえないが、ブツリテキにはまったくおなじものというのはむずかしいから、やはりちがうといえそう。しかし、それだと、エーイコール エーダッシュ、エーダッシュ イコール ビーだからエー イコールビーといういかたができなくなってしまう。つまり、エーもエーダッシュもビーもちがうということだ。

ロンリはヒャクパーセントとかレイパーセントとかのものだから、ニジュッパーセントゴサがありますではこまってしまう。でもゲンジツはそんなものだからしょうがない。トウケイガクのようにゴパーセントゴサがあります。でいいとおもう。つまり、エーイコールビーであるが、ニジュッパーセントのゴサがあると。ギャクからいえば、エーイコール ビーではないが、ハチジュッパーセントのゴサでまちがえだと。

シーさんいったディは、コウテイされたり、ハンロンされたりするが、サンジュッパーセントまちがいだというようにスウチカすれば、ギロンもハクネツしないのでないか。

#### ジュウロク

まじめにしごとをしていると、わたしはやすみがほしくなる。ニクタイテキにというよりセイシンテキにである。そこで「どっかーん。」と試してみたり。「なにが『どっかーん』だ。」ではあるが、もっともそういうひとがイッテイスウいるから、おわらいゲインとかピエロがしごととしてセイリツする。みているひとがリラックスできるからだ。これらはもはやサンギョウとしてセイリツしているメンがあるが、カイダン（こわいはなしがおおいとおもうが）みたいなのもいいとおもう。いまどきおばけとかいうと、おかしいひとのおもわれてしまうかもしれないが、それはいきすぎなのではとおもう。よなかにキシヤがはしっているようなおとがするので、みにいったら、たぬきがキカンシャのまねをして、センロをはしっていたとかのはなしはおもしろいのである。そういうはなしは、むかしはホウフにあったのではないか。チホウによっていろいろあっただろう。ムリヤリゼンコクホウソウでトウイツすることはないのである。ショウセツだってジツタイがなければ、「おばけ」なんだから、そういうたのしみでいいとおもうのである。

#### ジュウシチ

てらでセイカツしているソウのことをボウズという。また、かみをかりあげているこどものこともボウズという。そういうかみがたをボウズあたまという。どうもブッキョウのエイキョウがつよかったようで、ガッコウでもボウズあたまをもとめられることがあったようだ。あったようだというのは、わたしはボウズあたまにしたことがないからだ。しかし、チュウガッコウにはいるのがナンネンかはやければ、ボウズあたまにしたのだろう。それかそういうキソクがないシリツガッコウにいったかだ。

なぜ、ボウズあたまにするのか。ガクセイはシュギョウチュウみたいなものだからかもしれない。そんなかんがえがあったか、ほかのなにかがあったから、ガッコウにそういうキソクがあったのだろう。しかし、かならずしもみんながブッキョウトではない。だから、シュギョウをキョウセイするのはおかしいから、そういうのはなくなってきたのだろう。ジハツテキにするボウズあたまのこもあまりみなくなった。そういううつりかわりがニジュウゴネンほどまえにあったのだろう。ひょっとしたら、ボウズあたまがソウシツされたニジュウネン（●『ア』ニヒャクニジュウロク、『よ』ヒャクヨンジュウニ、ヒャクななジュウロク）だったのかもしれない。

#### ジュウハチ

ものがタクサンあるホウがゆたかだろうか。タブン、そういうひとがおおいにちがいない。ゆたかなくらしとは、ものにかこまれたセイカツだと。しかし、わたしはサイキン、クウゲンをかんがえる（●『ア』ニヒャクニジュウキョウ）。クウゲンとはわたしのゾウゴで、「からっぽ」というシゲンである。つまり、どこかにもものがないホウがジュウとも

いえる。なにかものをおいてもよいし、おこななくてもよい。しかしそれはフドウサンである。ようするにあきちドウヨウだ。ケッキョクはフドウサンがダイジなのではないかということだ（ヘヤのイチブとしても）。

そういうわけで、わたしはフドウサンをうったわけではないが、かいもどしている。そうすると、ゆとりがでてくる。そうニホンジンのいえはせまいのだ。わたしのおやじもおふくもヨケイなものはおかなかった。わたしはそうではなかったが、ものがふえるにつれ、どうもジブンがうごけるハナイがせばまってくるのにきづいた。だから、ものをかたづけるといいかたもあるかとおもうが、フドウサンをかいもどすのである。かねもちのいえはタブンヨウユウがあるだろう。けっしてソウコのようにはないとおもう。

ジュウキュウ

ショウグンケとブシのカンケイを「ごオンとホウコウ」とおそわった。ショウグンケとはかぎらない。なにかセワになったらヘンレイをする。それはよくあることだとおもう。だが、わたしはリョウシンからうけたなにかなどを、なかなかかえせるようになっていないようなきがする。そうしようとはがんばるのではあるが、そのなにかするあいだにも、やっぱりセワになってしまったりする。しかし、わかいときよりは、ホウコウができるようになってきた。それでもまだまだである。しっかりつとめねばとおもう。それができればヘイワになるわけだから。

ニジュウ

わたしがだれかのかいたブンをよんでいて、「わたしにとってのセカイ」というところを、「セカイは～」とリヤクしていつていることがあつてきになることがある。たとえば、「わたしにとってのセカイは、まっくらやみです。」というところを、「セカイはまっくらやみです。」ということだ。コウシャのばあい、それはちがうとハンロンするだろう。「わたしにとって」がつくのなら、そうなのかであるが、「わたしにとって」がつかないばあいは、イッパンの「セカイ」のことをさすわけだから、そうじゃないとなる。「わたし」、「わたし」というとうるさがられるが、「わたし」をつけたホウがいいだろうとおもう。イチメンテキにはまちがえではないが、ゼンブをさすわけでないということだ。

「わたし」をショウリヤクするつかいかたもある。エイゴの「サンキュー。」とかである。これは、だれからでもそういえるだろうから、あえてシュゴをつけていないのだとおもう。あえていうと、「ウィサンキュー。」であろう。だれもがカンシャしていますと。

わたしもわたしでジセツをいろいろいつているから、よんでおられるかたにしてみれば、おまえも「わたし」をぬいているといわれるかもしれない。ジッショウされているものをのぞき、カセツをのべているくらいにおもってゴヨウシャいただきたい。

ニジュウイチ

コトシのショウガツにわたしは、ぞうにばかりをたべた。なぜかという、わたしがもちをつくったからだ。セキニンをもってたべたということだ。ケッしてまずくないフツウのもちだ。おふくろにいわせると、サイキンうられているもちは、もちごめだけではなく、ふつうのこめもまざっているらしい。だから、もちごめヒャクパーセントだとおいしいという。わたしにはそのサがわからなかった。でも、もちをつくったことでなにかショウガツカンがでた。いつもは、ぞうにがたべられるキュウジツというかんじだった。しかし、モンダイもある。それはわたしのつくるぞうにだけだと、エイヨウブソクなのである。さんがにちは、ねていることがおおかった。ねるというよりエイヨウブソクで、おとなしくしていたということだ。だから、よりよいショウガツをむかえるために、カテイのあじがくずれるが、ぞうにに、さかなでもいれようとおもっている。

## ニジュウニ

わたしがチュウコウセイのころ、ほとんどジタクではベンキョウしなかった。テレビゲームをしたり、からだをうごかしてウンドウしたり、ガッキをひいたりした。テレビゲームというあそびは、いまのわたしにとってなにもなっていないが、あえていうなら、レキシにキョウミをもったことだ。カンレンボンもよんだ。もうイッテンは、ハンドウタイのハッテンのためになった(●『よ』ヒャクナナジュウサン、ヒャクハチジュウサン)。ウンドウはシンタイのケンコウにつながっているし、ガッキはシュミになっている。でも、サイキン、ベンキョウなり、ケンキョウもいいシュミではないかとおもえる。ホンとヒッキグテイドにしかおかねがかからないからだ。ホンはゴヒャクエンからかえるが、ガッキはナンジュウマンとする。やすくてもスウマンだ。だから、ショミンにとって、ベンキョウはいいシュミだとおもうのである。それをおそわったのはいいシュウカクであった。

## ニジュウサン

「サンドウィッチ」というのは、どうもギユウニクをはさんだりするようだが、ザンネンながらわたしはレンカバンのぶたのハムをはさんだようなものしかたべたことがない。タブンほんものはローストビーフなんかをはさむのだろう。わたしがたべたものでイチバンいいのがトンカツサンド。コンビニでもハムサンドなどがうられている。よくおもいだせば、サン、ヨンジュウネンまえのニホンのサンドウィッチは、チーズがイチマイはさんであるだけだったり、ハムがイチマイはさんであるだけだったりだとおぼえている。ホテルなどでチュウモンすれば、もっといいのがでてきたらうが、せいぜいそのテイドのものだった。まだそれはましなホウで、ツナのあぶらづけや、タマゴ、そしてきゅうりだけというのがあった。タブン、かっぱまきのかんがえかたなんだろう。そんなにはゆたかではなかったが、そういうのはきにしなかった。かっぱまきでも、か

んびょうまきでもとにかくたべていた。わたしのリョウシンがセンチュウのケイケンがあるからシツソだった。わたしがショウチュウガクセイのころ、おふくろがつくってくれたベントウにモンクをいったことがあるが、いまかんがえると、よくできたベントウだったとおもう。おごるヘイケはひさしからずなのであるが、いまのようなちょっとゼイタクというのができなくなってしまうと、ちょっとかなしい。

#### ニジュウよん

なぜテンにめされるといういいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウがいいからである（と、わたしはかんがえる。）。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけているという。ベツにそんなおおきかんがえなくてもいい。タイヨウのもっているすべてのシザイをホウシュツしてしまったらどうなるか（ひかりもシザイである。）。タイヨウはもえなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもともとのシゲンはおくについてしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもったらどうか。またシザイをあつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンにめされたホウがよいのだ（あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするのならだが。）。そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいのである。

#### ニジュウゴ

ニンゲンがうごくとうどうなるか。そのひとからみたフウケイがかわるし、そのひとをみているだれかがみるフウケイもかわる。そういういきものをドウブツという。うごけるのである。そして、そのノウリョクはショクリョウをとるためにハッキされる。そうしないとゲンシシャカイではしんでしまうであろう。そうやってニンゲンは、うごいてみえるえ（ここでは「ドウシゾウ」とよぶ。）にしたしんだ。ゲンダイシャカイになって、あまりうごかなくてよくなっても、ニンゲンはうごくえをみたいのだろう。ドウシゾウでなくて、ドウガをハツメイした。そのひとがうごいているのではないが、うごいてみえるえである。

どうもそれは、（アメリカ）ガッシュウコクやニホンでニンキがあるらしい。ゲンシジンのときに、たべものをとるためにうごいていたから、コウフンするのかもしれない。ナンマンネンとそうしてきたのだから、それをやめることはカンタンでない。キカイじかけで、うごいているとサッカクさせるのはどうかとおもうが、シンカしたニンゲンができたのだろうか。

#### ニジュウロク

ショウガツにはニホンシュをかってくる。ショウガツくらいはおもうからだ。いつもはよんゴウビンをかってくるのだが、あまりそれではあじわえない。めでたくないというのもこまるので、コトシはイッショウビンのものをかってきた。さすがにのみごたえがある。ショウガツチュウめでたそうだ。

あるものにはわけがある。ベツにそれをセツメイするヒツヨウはないが、イッショウというタンイがあるのである。むかしからなのだろうか。まあメイジのころからとしても、トウジはコウツウがハッタツしていなかったのだろう。いまではちかくのショウテンですぐにかえるが、トウジはてにいれるのにケッコウあるいたんだらう。それなら、あるテイドまとめてかったホウがいい。それでイッショウなのではないか。つきにイッポンぐらいのんだのだろうか。わたしがニホンシュだけをのむとしたらそんなかんじだらう。ほかにウィスキーをのんでいる。ドがつよいのもほしくなるのだ。わたしのおやじは、よんリットルのショウチュウをのんでいた。なんとなくそれもわかってきた。わたしのばあいイッテンハチリットルのウィスキーだらうが。

#### ニジュウシチ

なぜニンゲンにははかがヒツヨウなのか。サイキンは「ウチュウソウ」とか「サンコツ」とかもあるときく。しかし、それはカソウしたあとのはなしだ。カソウしていないシタイをウチュウにもって行ってほうりだしたら、きもちがわるいとおこられそうだし、そこらへんにシタイをほうってもやっぱりおこられるだらう。だからフツウは、つちにうめる。そうすると、やがてブンカイして、つぎのいのちにつながるのであろうが、いしのなかにうめることもある。これだとシタイをホゴすることになる。えらいひとだとシタイをなにかにたべられないようにするのがダイジなんだろう。どうもニホンでは、いしづくりのはかがふえたから、それだけえらいひとがふえたんだらう。どうえらいのかよくわからないが。

#### ニジュウハチ

わたしがダイガクにいていたとき、アルバイトをはじめた。それでそのうちダイガクのガクヒをジブンではらうようになった。ゲンエキでニューガクしたならともかく、おくれてはいったので、シュミでガッコウにいておもうようになった。だから、ジブンではらったホウがいいだらうと。それがあったから、コウギはやすまずにうけた。セイセキはまあまあだった。

しかし、ガクヒをだすのはそうカンタンでなく、おかねのやりくりをケイサンするようになった。イチガツにいくらためて、シガツにいくらはらってといったものである。そのときはカイキブンセキ（あるスウジをタンジュンなイチジシキでヨソクするギジュツ）をあまりしらなかったが、イチジシキで、チョクセンテキなスウシキで、それからのみこ

み、ガクヒのブンのおかねのたまりぐあいをケイサンするようになった。ワイ（ジブンのジンセイ [ガクヒのたまりぐあい]）イコール エーエックス（マイツキのキュウリョウ [ジキュウ かけるキンムジカン]）マイナスビー（セイカツヒ）といったぐあいである。エーエックス（キュウリョウ）がふえればすごくゆたかだが、そうカンタンではない。トウジはそれにもかかわらず、それをタッセイしようとした。しかし、つとめさきではケイエイゴウリカで、アルバイトジウギョウインのキンムジカンをへらしていた。これではガッコウにいけなくなるとわたしはかんがえ、ベツのアルバイトをはじめた。しかしである、エックス（キンムジカン）をのばそうというのは、わたしのみがってなかんがえだ。コヨウぬしとのカンケイできるものであるのに、そうしてアルバイトをテンテンとした。

ケッカは、おかねはたまったがシュクダイをやるジカンがなくなってしまったので、これはソツギョウできないとおもい、ジネインコウのケイカクをかんがえた。しかし、このトチュウでジブンのみがってさになやまされる。かせげるかはわたしだけがきめるものではない。そこでうまくいかなかった。いまなら、スウシキのヘンスウをイッコ、ニコふやしたらいいとおもう。つまり、ワイ（わたしのジンセイ）イコール エーエックス（ジブンのドリョク）プラスシーゼット（カイシャのギョウセキ）プラス ディエイチ（シジョウのケイキ）マイナスビー（セイカツヒ）のようである。さきのシキよりはまともなヨソクができるだろう。

## ニジュウキュウ

ショウバイにはコストとリエキがあるとされる。うりあげ イコール コストたすりエキというやつだ。うりあげをいくらあげても、リエキがないのではもうかっているとはいえない。だから、うりあげでなく、リエキをあげることをスイショウしたりする。コストをこまかくいうと、ゲンザイリョウをかうコストやジンケンヒなどがある。だから、コストをさげようとおもったら、ジンケンヒ（ジウギョウインのキュウリョウ）をさげるヒツヨウもでてくる。そういうリユウで、カイガイのジンケンヒがすくなくすむところでセイヒンをつくったりする。そのホウが、リエキがおおきいからだ。これはシホンシュギのシュダンといえるかもしれない。

ところでジウゴセイキくらいのヨーロッパでは、センキョウシをカイガイにおくりだしはじめた。シンタイリクがみつかったのがリユウのひとつだろう。また、そういうチイキをヨーロッパのくにはちからずくでショクミンチカしようとした。なぜショクミンチカするか。あるセイヒンやゲンリョウをやすくてにいたかったからだろう。そうすればヨーロッパでのセイヒンカカクがひくくおさえられるか、リエキがおおくのである。センキョウシをカイガイにおくりこむことも、コストをさげるためだとおもう。どういふことかという、ヨーロッパでシュウキョウにかかわるひとをイクセイしようとする。それにはコストがかかる。かりにひとりあたりイッセンマンエンかかったとしよう。シュウキョウにうりあげのガイネンをもちこむのはどうかだが、そのひとたちがそれぞれニセンマンエンうりあげたとする。そうすると、ひとりあたりリエキはイッセ

ンマンエンとなる。しかし、シヨクミンチでひとをそだてれば（ヨーロッパよりブッカがやすいとカテイする。）、ニヒャクマンエンでひとりそだてられる。それなら、コストはゴブンのイチだから、うりあげをおなじスイジュンでかんがえれば、センハッピークマンエンのリエキ（そのひとをキョウイクゴにヨーロッパにまねいたばあい。）、うりあげがすくないとしても（たとえばヨンヒャクマンエン。）、ちいさなキンガクでキョウイク、センキョウができるのである。こういうわけだから、やっぱりセンキョウシも、ジンケンヒがやすいところに行くのだ。これをシュウキョウのホウホウとよぶことにする。シホンシュギのシュダンとシュウキョウのホウホウはどちらがさきにできたかわからないが、おなじようなものなのである。ただことばのかべがあるから、カイガイでやすつくるのはカンタンではない。しかし、エイゴのフキウでそれはやさしくなっているし、ホンヤクキもセイドがあがっているだろう。だからカイガイでつくるのもやさしくなっているかもしれない。

#### サンジュウ

「いいニュースがある。シホンカとロウドウシャのタイリツがおわったんだって。」といえるひはいつのことだろう。たしかにそれは「おわる」かもしれないし、「おわら」ないかもしれない。エーアイとロボットギジュツがハツタツしている。なにかのセイヒンのコウジョウでも、それらをつかたりするだろう。それがキョウゲキにすすむとどうなるのか。ニンゲンのロウドウシャがいらなくなるのである。「いらぬ」とはどういうことか。「やとわぬ」。、「リストラ」というやつである。エーアイやロボットがセイサンするから、ニンゲンのロウドウシャはいらぬということである。

シホンカはエーアイやロボットにまかせてセイサンする。リストラされたロウドウシャは、いえではたけをたがやしたり、ザツヨウのしごとをしたりするようになるかもしれない。ロウドウシャにとってよくないようだが、むかしはそうやってくらしているひとがおおかったのではないか。それでまあまあやっていけるのなら、さきにいった、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわりである。リョウシャともジツサイにはつきあわないわけであるから。

しかし、シホンカがノウチをタクサンかったばあい、ロウドウシャは、そこではたらくようになるかもしれない。コサクニンになるというわけだ。なんのことはない、またシヨウエンセイになるというだけだ。それであまりにロウドウジョウケンがわるいとどうなるか。ガッシュウコクのナンボクセンソウのようになるかもしれない。

ナンブではドレイをつかったノウギョウをしていて、ホクブではコウギョウセイサンをしていた。ナンブがドクリツしようとして、センソウになったというシジツだ。やはり、シヨウエンのロウドウシャが、うらみつらみをいうようではセンランになるかもしれない。イッポウ、コウギョウセイサンをするひとや、ドクリツテキにくらすひともあるだろう。こういったシャカイをナンボクタイセイとっておこう。

ただ、ガッシュウコクのばあいには、ホクブはコウギョウセイサンをしていたからシキンはあった。しかし、このヨソウのばあいはそうではないかもしれない。シホンカはノ

ウギョウもコウギョウもおさえているかもしれない。ニクダンセンでたたかうことはできるが、ショウエンがわがグンとなかよくしていたら、ショウエンセイはながくつづくだろう。ホクブはホクブでジキュウジソクやコウギョウセイサンをしていれば、まあモンダイはない。そうやって、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわる。かわって、シホンカとコサクニンのタイリツがおこるかもしれない。

#### サンジュウイチ

ロウドウシャのチンギンをあげる。そのひとがロウドウシャならうれしい。しかし、そのドがすぎてしまうと、ロウドウシャドウシのキュウリョウのうばいあいになり、リストラされることになる。また、さきにいった（●ホンブン、イカ、ヒョウキなし、サンジュウ）エーアイとロボットのカツドウもあるから、キュウリョウがあがるといっても、すなおによろこべない。タンジュンに言えば、ニンゲンのロウドウシャにはらうキュウリョウより、エーアイ、ロボットのイジヒのホウがやすければ、ニンゲンのロウドウシャは、リストラのタイショウになる。

ニホンジンよりナンボウのほうのくにのひとにつくらせるとかをいままでやっていたが、それらのくにのひとより、エーアイやロボットのホウがやすければ、そうやってセイサンするカノウセイがおおきい。エーアイより、ロボットのホウが、うごきがあるブン、つくるのがむずかしいだろうから、ニクタイロウドウならば、とりあえずはリストラにはならないかもしれない。しかし、ジカンのモンダイというきがする。

#### サンジュウニ

ゲキヤショウセツには、ながれというかキャクホンがある。イチバンしられているそれをみじかくしたものは、「キショウテンケツ」だろう。「シコウサクゴ」では「ゴ」がサイゴだから、ハッピーエンドとはいえない。だから「シコウカイゼン」などにしたホウがよいとおもう。「ゼン」がサイゴならいいおわりかただろう。そのようにおもうひとはおおいのではないか。しかし、そうやっていいことばをつかおうとするあまり、あることをイシキしないようにしている。それは「シ」である。なかなかしんでおわるキャクホンはすくない。

しかし、それはシンジツである。しなないひとはいないだろうから。そうやって、イシキからとおぎけるあまり、たまにそれをいうひとがでてくるだろう。それがハチジュウ、キュウジュウネンダイのオンガクにある。「シのロック」とでもいうといいロックだ。それはイッパンテキなひとからは、たかいヒョウカはえられない。しかし、すきなひとはいるのである。そうやって「シンジツ」をみることもよいのだろう。

#### サンジュウサン

「コウコウ、ダイガクにはいなくてもよいのでは。」というテンについてのべた（●ジュウ）。それはなぜか。そこでおぼえるチシキはそこらへんにあるし、ヒツヨウなどきにネットワークからよびだすことができるからだ。タンジュンにいうと、「チシキ」へのアクセスカカクがやすくなったのだ。それはネットワークカンキョウがととのったことによる。パソコン（ネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをやすくしたわけだ。もっというと、もはや、ただとおもわれているかもしれない。それなら、ガッコウにたかいかねをはらうことはない（しかし、ケンキョウシヨクなどチシキでシヨウブするしごとだったら、ガッコウにいくのがいいだろう。）。

「チシキ」へのアクセスカカクがさがったのだから、ガッコウのガクヒもやすくなるのがシジョウのジョウシキである。ゲンにダイガクなどはテイインわれがでているときく。しかし、どうもゼイキンをトウニュウするようだから、やすくはならないというか、ガッコウがオンゾンされる。まあ、（キョウシ、キョウジュにタイする）シツギョウタイサクもあるからだろうが、ガッコウがシンボするのかうたがってしまう。こんなだから、コクサイキョウソウリョクのあるダイガクがでてこないのだろう。

サンジュウよん

パソコン（とネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをさげた（●サンジュウサン）。いまはもっとそれがすすんでいる。それはそうだ。パソコンがフキョウして、ニ、サンジュウネンたつからだ。コンドは「エーアイ」によって、ズノウロウドウがやすくなるだろう。ズノウロウドウという、キョウジュウネンダイから、ニホンキギョウがジュウシしていたブンヤだ。セツケイがニホンでおこなわれて、セイゾウがカイガイというセイヒンのつくりかたが、そのレイである。ほかには、ホンヤクとかキヤクホンとかケイリとかそういうシヨクシュである。ガッコウのキョウシもそうかもしれない。そういったシヨクシュのロウドウのカカクがさがる（さがっている）だろう。カンタンにいうと、エーアイがもちいられて、ひとはベツのしごとをするようになるということだ。それもまたゼイキンをトウニュウしてロウドウシャをまもるのがキョウミぶかい。

サンジュウゴ

「エーアイによって、ズノウロウドウがやすくなる（●サンジュウよん）。」のつぎはなにか。ロボットのリヨウである。これはいますすんでいて、タンジュンなうごきのニクタイロウドウはつぎつぎとおきかえられるであろう。たとえばシヨウテンのハンバイイン、インシヨクテンのテンイン、タクシーのウンテンシュ、セイソウインなどがロボットにおきかえられる。やっぱり、これでシツギョウするひとをどうささえるのが、キョウミぶかいところであるが、さきのふたつのおきかえ（コンピューター、エーアイ）をふくめてまだニンゲンのロウドウシャが、はたらきつづけられるはたらきかたがある。それはシヨクニンになることである。つまり、トクテイのブンヤで、コンピューター、エーアイ、ロボットをタクエツするギジュツをもっていけば、はたらきつづけられると

いうことだ。ジンリキでなにかをするひとをアーティストという。ニホンでアーティストというと、サッカー、ゲイノウジンであるが、アート（てサギョウ）をさきのみつつにまけないスイジュンまでたかめられれば、シツギョウしない。しかし、ジブンがへたなアーティストだとおもうのなら、いまからジュンビしておいたホウがいいかもしれない。エーアイやロボットにおしえられるくらいじゃないときびしいだろう。

#### サンジュウロク

コンピューター、エーアイ、ロボットのハッタツのためにチシキへのアクセスのカカクがさがり（●ジュウ）、ズノウロウドウのカカクがさがり（●サンジュウよん）、ニクタイロウドウのカカクがさがる（●サンジュウ、サンジュウイチ、サンジュウゴ）。そうすると、たいしたしごとをしないぶらさがりロウドウシャはいらなくなってくる。

これまでは、シャカイシュギにサラリーマンがホゴされていたカンがあるが、もうそれもおわりだろう。ひとつでも、それらみつつにまけないギジュツがなければ、はたらくキギョウにとってやとうカチはすくない。これまでは、しごとがカイガイのロウドウシャにおきかえられたが、いまではそのみつつにおきかえられる。じぶんにギジュツがないとすれば、ロウドウシュウヤクテキなしごとをハッテントジョウコクなみのチンギンでやるようだろう。そのときに、サイテイチンギンというホウリツテキしぼりがジャマになる。そのキセイカンワがヒツヨウかもしれない。しごとがないよりむしろとおもうのである。

#### サンジュウなな

なんのためにダイガクに行くか。わたしはチュウコウセイのころ、サラリーマンになるためだとおもっていた。コウコウ、ダイガクとすすんでシュウシヨクすると。でもそうではなかったとおもう。シケンハチュウゴクノギョウセイカンヲサイヨウスルためのものだときく。つまり、イチギテキにいうと、コッカコウムインになるために、ダイガクへいくのだ。さらにほかにも、イシャ、ベンゴシなどコッカシケンヲウケルためにいくのだろう。トウジのわたしはそういうカンカクがなかったので、トチュウでやめてしまった。しかし、いまごろになって、シュミで、よなよなガイコクゴのブンヲヤクしたりしている。ラジオをききながらそれをするのもいいものだとおもう。

#### サンジュウハチ

ピアノ（フォルテ [●『よ』ジュウ]）は、ニホンではショウワのジダイにフキユウしたらしい。わたしのしるかぎりでも、いえにピアノがあるこはそこそこいた。しかし、テレビとおなじように、イッカにイチダイ、ヒトリイチダイになってしまうと、そのセイヒ

ンのカカクがさがるであろう。タンジュンにキョウキュウがおおいというリュウだ。だから、ニジュウマンエンだしてかったとしても、てばなすときには、イチマンエンほどにしかならないということがかんがえられる。ピアノはまだまだフキュウしきっていないようだから、そんなことはないとおもうが、デンシキーボードとかエレキギターなんかは、ホントウにやすくチュウコシジョウでパイパイされている。

キュウジュウネンダイのはじめに、わたしはギターをかおうとコウコクをみていた。やすくてもサンマンエンはしたとおもう。しかし、いまはチュウコで、ゴセンエンでかえるのだ。むかしはチュウコやがそんなになかったから、チュウコのをさがすのはタイヘンだった。しかし、いまはチュウコシジョウがある。やすくたのしめるわけだ。シィディもそうだ。あまりにフキュウしてしまったために、チュウコカカクがひくい。そういうホウがキヤクはマンゾクだが、セイゾウするホウにとっては、シュッカがふえないというモンダイになる。それでもセイゾウをすすめると、チュウコセイヒンとのカカクキョウソウになる。わたしなんかは、おさがりのふくをきていたりしたから、チュウコだといったって、あまりきにしなかったりする。

そのばあい、セイヒンハンバイのサイショウテンカをするといいかもしれない。タンジュンには、ブランドカである。ゴマンエンくらいのギターをセイゾウしていたら、そのカカクタイのものをダイニのブランドにして、メインはジュウマンエンくらいでテンカイするのだ。テイカカクでキョウソウすると、ますますチュウコカカクがさがってしまうだろうから。

#### サンジュウキュウ

ウチュウはどんなかたちか。わたしがガクセイのころ、とつがたのズをみたことがある。ひらべったいが、チュウシンフキンはでっばっているえである。しかしホントウにそうなのか。わたしはいまのところ、たしかめようもないが、キュウケイをカテイしている(カッテカガクをやっています。)。なにかちからがかからないと、ヘンペイにはならないからだ。えにかいたひと、もしくはそのかたちをテイショウしたひとは、なにかちからがかかっているとカテイしているのだろう。ジッサイにそうになっているかはともかく、すくなくとも、かれらのシンリコウゾウのなかではそうなのだろう。イッタイどんなちからがかかっているのだろうか。

#### よんジュウ

サイキン、あまりフケイキだということをいわない。ホントウかどうかはともかく、シツギョウもへっているらしい。しかし、イッポウで、セイシャインのロウドウジカンのタンシユクをスイショウしている。ケイキがいいなら、ロウドウジカンへらせないだろう。ロウドウジカンがへれば、セイサンリョウもへるが、キュウリョウもへる。ジツはフキュウなのではないか。シュヨウなホウドウでは、あまりセイケンヒハンはしないの

で、そういうこともいわないのかもしれない。しごとがへって、キュウリヨウがさがってどうするのだろう。おかねをつかわないシュミがはやるんだろうか。

#### よんジュウイチ

おかねをタクサンもちたいというのは、よくおもわれることかもしれない。おかねがあると、いろいろジュウにできるとおもわれているだろう。でもはたしてそうなのか。たからくじでロクジュウオクエンあたってとする。するとどうなるか。おもてだってハウドゥはされないが、うわさをききつけて、キフをしてくださいとか、いろいろなひとからいわれそうだ。それはうるさいので、そういうひとがたずねてこないところにひっこすだろう。で、またかねめあてのハンザイにもまきこまれないようにしなければならない。それでケイビガイシャにケイビをイライしたりするだろう。ショミンテキなみせにもいきづらくなるかもしれない。

そうかんがえると、かねをもつとフジュウになるといえないか。それなら、あまりかねをもたないハウがジュウだろう。もっともかねをもたないひとがジュウで、もっともかねもちがフジュウだろうけど、サラリーマンぐらいがちょうどいいのかもしれない。ジュウでもなく、フジュウでもなく。

#### よんジュウニ

シホンカとロウドウシャのタイリツというテーマがある（●サンジュウ）。タブンそのリョウシャともしっかりしごとをするのがよいとおもうが、それによっておきたセイヘンなどもある。

きたチョウセンがカク（ヘイキ）をもってけしからんというとき、そのズシキをおもいだすと、やっぱりよかったのかもしれないとおもうことができるのではないか。つまり、（アメリカ）ガッシュウコクやオウシュウというかねもちのくにが、カクヘイキをもって（ビンボウでカクヘイキをもっているくにはすくない。）、ロウドウシャカイキュウのきたチョウセンがカクヘイキをもてば、もはやかねもちだけのイシで、セカイをうごかすことはできなくなる。つまり、いままでシホンカによるシハイだったセカイが、ロウドウシャのイケンもふまえたセカイにすることができるようになるのである。つまりはヘイワになるのである。

かねもちは、キトクケンエキをうしなうからつらいが、シホンカとロウドウシャのいいキンチョウをもちつつ、セカイをウンエイしていくことができるのだ。かんがえかたシダイではわるくないだろう。

#### よんジュウサン

あるアーティストがサクヒンをだし、シィディをおおいにうったとしよう。ヒャクマンマイうれたとする。そのヒョウカについてひとは、「アーティストのコセイが、よにみとめられた。」などという。しかし、ホントウに「コセイ」でうれたのだろうか。

わたしがおもうには、「コセイ」は二のつぎで、そのアーティストをオウエンしようというひとびとがタクサンできたことで、ヒャクマンマイのうりあげをタッセイしたのだとおもう。もっといえば、オウエンするひとがヒャクマンニンいるから、かれらにささえられて、つぎもいいサクヒンをかれはつくるはずである。

わたしは、キュウジュウネンダイにうれたアーティストのサクヒンをそうおもった。オウエンするひとがバクハツテキなうりあげをつくるのである。オウエンがいいオンガクをつくらせるのである。

よんジュウよん

ジシンがおこるとパンがうれる。それはわかる。ガス、スイドウがとまるカノウセイがあるし、リョウリをつくれなかもしれないからだ。しかし、おおゆきがふってもそういうケイコウがあるようだ。スイドウはとまらないだろうし、ガスもとまらないのになぜか。ショクリョウユソウのトラックがとまるカノウセイがあるからだろうか。ヤサイやニクがかえなくても、とりあえずアンシンというわけである。でもパンだけでいいのかとおもう。

よんジュウゴ

シィディやディブイディ、ホン、そのタネネットワークなどでキョウキュウされる「こと」を、わたしは「ギジ(ダイリ)タイケン」とよんでいる(●『よ』ヒャクよんジュウよん)。「ダイリタイケン」ではあるけれども、それらはジョウホウギジユツのハッタツで、ダイタイ、アッシュクされている。また、ナイヨウもムダなブンをなくして、アッシュクされたナイヨウである。だからここでは、これらを「アッシュクタイケン」とよぶ。サイキンのこれらのトクチョウは、カカクがやすくなっていることである。もしくはそんなにうれない。なぜかという、チュウコシジョウをふくめて、タクサンのしなみがあるからだ。キョウキュウがふえれば、カカクがテイカするというはなしだ。だから、ものとしてではなく、チュウコシジョウにながせない「データ」としてうるケイコウがつよくなっている。それなら、チュウコシジョウにながせないから、カカクがやすくないというわけである。

しかし、まだシィディやディブイディ、ホンはつくりつづけている。だから、カカクのテイカはとまらないわけだ。トクにわたしがキグするのが、「アニメ」である。これは、ひとりがイチニチ、サンジュウマイのえをかいて、ゴセンヨンヒャクニチ。つまりジュウゴネンかかって、イチジカンハンのアニメがカンセイする。それほどてかずのおおいアッシュクタイケンなのである。このカカクがさがると、つくろうとするひとがへって

くる。それをおぎなうためにコンピューターギジュツをつかって、ゴウセイしていくサクヒンがふえるだろう。そうすると、もはやアート（●サンジュウゴ）ではなくなる。まるばつさんとコンピューターのキョウサクですというようになる。だからそういうジョウキョウをさけたければ、オウエンすべきだとおもう。「アート」としてのアニメがホウフにあったジダイはおわりつつあるということだ。ほかのアッシュクタイケンもそうだが、トクにアニメがケンチョだとおもう。

#### よんジュウロク

カガクというのは、エイゴでエスシーアイ、きるというセットウジのつくことばである。だから、ドンドンこまかくみていく。ケンビキョウができて、さらにブンシコウゾウ、またそれよりこまかいものをみるというように。

くすりはむかしはショクブツなどからつくっただろうが、いまは、カガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキとゲンブツをつくれれば、コキヤクにかつてもらえるわけである。しかし、ベツにそこまでこまかくしないでもいいかもしれない。つまり、ヨブンがあるくすりみたいなものである。たとえば、ショウガのなにかのセイブンが、いたみにきくが、そこまでこまかくしないで、ショウガつかうといったぐあいである。カガクシキにもとづいてブンシをつくるやりかたはメンキョがヒツヨウだったりする。しかし、コーヒーをチョウゴウするにはメンキョはヒツヨウない。そういうくさカガクがおもしろそうだとおもう。たべたらおもしろくなるくさも、ハッケンされるかもしれない。

#### よんジュウなな

このまえ、マンネンヒツをデンシショッピングしていた。いまわたしがひらシャインだとしたら、ショウシンしていくたびに、どういふそれをつかうかというぐあいにしらべた。モチロンこのみがあるから、すべてがタイショウにはならない。ひとそれぞれのもものがたりがあるからだ。しかし、えらんでみると、アンガイかずはすくない。シャチョウなるまでひととおりにしらべたが、ジユウドはそんなにない。イチヤクシヨクにみつつセンタクンがあればいいホウだ。それでちょっとショウシンしたきになって（おそらく「かかりチョウ」だ。）、かってみた。

しかし、うれしいのだが（ショウシンがであらう。）、あまりキノウテキとはいえなかった。ガイコクセイ（カイガイフニンといえるかもしれない。ちなみにわたしのキャリアパスでは「とりしまりやく」までカイガイだった。）のそれは、ほそいといわれるふでさきでもふとい。だからわたしにはつかいづらい。キャリアパスをまっとうするには、エイゴをつかえばよいのかもしれないが、それもどうかとおもう。だからさらにセンタクンがせばまる。そうすると、えらんでいるのだが、ほとんどえらべないのである。また、ショウシンしたら、まえにつかっていたものにもどせないようなきもする。それはコウ

カクだからである。そういうわけで、シュッセするとあとがなくなる。

それなら、あまりショウシンしなくてもよいのではとおもうようになった。いまのマンネンヒツ（ショウシンまえ）にフマンがあるわけではない。よっぽどフマンやいきづまりカンがでてきたら、ショウシンさせればいいとおもうようになった。つまり、ショウシンするカイキュウもシゲンだから、タイセツにして、だれかがいきづまったら、そのひとをショウシンさせればいいということである。

ただ、がんばっているひと、ユウシュウなひとが、あまりセイセキのよくないひとにさきにショウシンされるというのは、あまりおもしろくないだろうから（そういうシャカイシュギのシツパイをくりかえすのではノウがない。）、カイキュウとキュウリョウはベツにするわけである。だから、ユウシュウなひらシャインのまるクンはネンシュウハツピクマンエンだが、カチョウになったバツさんはネンシュウがヨンヒヤクマンエンというぐあいである。ショウシンについてかんがえてそうおもった。

#### よんジュウハチ

セカイのイジンはなしになると、ナポレオンをあげるひとがいるだろう。でもホントウにナポレオンがすぐれていたのか。おうやリーダーをシジするひとならナポレオンがすぐれていたというだろう。しかし、マツタンのひとをシジするたちばなら、フランスのкокミンがすぐれていたというであろう。

どうも、ニホンではサイキンミンシュシュギのはなしがでてきたりはするが、キョウイクのゲンバでは、кокミンがすぐれていたではなく、ダイミョウ、こころざしのあるコジンがえらかったというはなしになっているようにおもう。ひよっとしたらニホンジンにはミンシュシュギはむかないかもしれない。

#### よんジュウキュウ

ショクジをとると、やがてウンコがでる。これはニンゲンにとっては、あたりまえのことかとおもう。むかしのヨーロッパでは、それをそとのドウロになげすてたという。しかし、ゲンザイではゲスイドウにカイシュウしているのだろう。このようにチツジョからはイッテイのディスオーダー（フチツジョ）がでるということは、しかたのないことだとおもう。ほかのレイでいえば「ごみ」である。それをリサイクルして、またチツジョにくみこんでいくというハウホウをいまはとっている。かわって、ロウドウのパメンではどうだろうか。やはり「ウンコ」とか「ディスオーダー」はでないであろうか。

あまりきかないが、「ディスオーダー（カイシャからみれば）」ホンニンのモンダイではない、がたまってドクリツ、リショクするひともいるだろう。たまに、しんでしまうひともいる。そういえば、シンソツのあるイッテイスウがナンネンイナイにやめるといわれている。しんでしまうのはトクにモンダイだが、タイショクするひとをふくめて、「ディスオーダー」のショリがわるいともいえるのではないか。テンショクするうちに、「ディ

スオーダー」のシヨリをおぼえていたのかもしれないが、わたしもそのシヨリがうまくない。まあ、さけをのむなど、いいカイシヨウホウがあればいいとおもう。

#### ゴジュウイチ

キョウソウをぜとしたり、キョウソウをいかんとしたりする。イッパンテキには、あるテイドのキョウソウは、そこであつかうものをシンカさせたりするためにのぞましいとされるのではないか。しかし、ホントウにそうなのだろうか。チョメイなシヨウをとったニホンジンはいるが、ニホンでサイコウとされるダイガクは、あまりコクサイキョウソウリョクをもたないという。そこにはいるためにタブン、キョウソウしたであろうにもかかわらずである。ホントウにダイジなのはキョウソウだろうか。あるキギョウブシヨのレイでかんがえてみる。

まるさんは、しごとができるホウで、バツさんはあまりしごとができない。このふたりがのみにいくと、まるさんは、バツさんのことを、「きみがいったダイガクがわるかった。だからしごとができないんだ。」などとさんざんいやみをいう。バツさんもバツさんで「そうだね。おれのセイセキがわるかったから。」などという。これはセイサンテキか。また、かりにまるさんのことばにタイして、「ばかやろう。おれはおまえのコソクなやりかたがきにくわねえんだ。」といったとしてもどうだろう。ほとんどセイサンセイがない。しごとはなしではなくゴジンコウゲキをしているからだ。ダイジなのは、ココがそれぞれのしごとをきちんと、なるべくよくなるように、やることで、そういったフモウなシテキやケンカをすることではない。フモウなコウゲキやケンカをするブン、セイサンセイはさがるだろう。

だったら、キョウソウじゃないのかであるが、モチロン、セイセキによるキョウソウテキなものはあるだろう。しかし、それはそれでホンシツではないとおもう。フモウなコウゲキのかわりに「このまえのしごとのカイゼンをかんがえた。こうこうなんだけどもまえはどうおもう。」「それならああしたホウがはやくできる。」となればセイサンテキである。わたしにいわせれば、ベンシヨウホウのあるココのドリョクではないだろうか。カイゼンがヒツヨウなければ、ベンシヨウホウはいらない。キホンテキにはしごとはゴジンがするものだからである。しかし、ニホンのダイガクのコクサイキョウソウリョクがひくいというのは、ニホンジンはベンシヨウホウをにがてとするからではないか。

#### ゴジュウニ

「うまれかわり」などという。「ゼンセイはなんだったか。」というはなしも、わたしがこどものころにきいたことがある。それはイデンのはなしではない。マテリアルのはなしである。

エーさんというひとがいたとして、そのエーさんのイチブは、もとうしや、もとホウレ

ソウでできていることは、ヨウイにソウゾウできる。わたしも（このいいかたがテキトウかはわからない。「わたし」は、ジョウホウであるカノウセイがあるからだ。）、そういうぐあいである。わたしがしんだら、タブン、カソウされて、ほねとキタイとかすがのこるんだろう。そこからどうリサイクルされるか、なんかのドウブツ、ショクブツのかてになるかはわからない。ほねは、はかなどでホゴされるだろうし、キタイはふたたびリクチにおいてこなければわからないし、かすはカソウジョウのゴミとしてショリされるのだろう。

こういうかんじでは、「うまれかわり」はゼツボウテキだ。わたしはドソウができないのなら、サンコツとかジュモクソウにしてもらいたいかもしれない。サンコツやジュモクソウなら、ショクブツにほねがキュウシュウされて、それがドウブツにたべられてという「うまれかわり」がセイリツする。わたしをかりにマスター（シソ）としたら、そのイチブたちがうまれかわりをするわけだ。その「イチブ」をワンスルーということにする。ワンスルーがうまれかわりをするということは、もののリサイクルである。だからそうするばあいは「ライセイ」のはなしにもなる。

くさからドウブツ、そしてニンゲンになればたいしたものだ。そういうわたしもカコのだれかのワンスルーがふくまれているかもしれない。ヨウするに、ゼンセイのゼンセイがニンゲンだったかもしれないのだ（ゼンセイはショクブツかドウブツがほとんどだろう。たまにキンルイとかコンチュウもあるかもしれない（きのこ、いなごなど）。

だからゼンセイをさかのぼっていくと、やっぱりマスターにいきつくだろう。ニンゲンのマスターのことをセイショではゲンキュウする。そこからまえのはなしになると、どうもたちがわかれるようだ（かみがつくったとか、シンカしたとか）。マスターヒューマンのゼンセイはどうだったか。やっぱりくさとかドウブツだったとかかんがえるのがシゼンでないか。イデンシをしらべればわかるといたって、サイボウのフクセイギジュツはジョウホウである。ものがなければフクセイはできない。もののありかたにオウじて、ギジュツがハッテンしたのではというきがする。

だから、くさとかドウブツのブンシをしらべれば、かこにあったもの、シンカするまえのくさ、ドウブツのすがたがソウゾウできるのではないかとおもう。しかし、くさ、ドウブツ、プリヒューマン、ヒューマンというジュンカンはそれほどかわらないとおもう。だが、セッキ、テッキをハッタツさせるまえの「プリ」ヒューマンはドウブツのセッシュがすくなかったようにおもう。だからゲンシテキなヒューマンは、くさ、プリヒューマンというジュンカンだっただろう。「はか」をハッタツさせるまえだったら、くさ、「プリ」ヒューマン、ドウブツだっただろう。つまりドウブツのホウが、カイソウがたかいのだ。それをマイソウギジュツのハッテン（はじめのうちは、ユウリヨクシャだけだっただろう。）により、「プリ」ヒューマンがカイソウをあげた（もはやヒューマンかもしれない）。セッキのハッタツもジュウヨウだが、それでもやっぱりドウブツのホウがうえとなる。もっとまえになると、ショクブツよりカイソウがひくかったかもしれない。つまり、うごけないプリプリヒューマンである。ショクブツ（こけのような）にキセイされるようなプリプリヒューマンである。

プリプリヒューマンのまえはわからないが、さるからハッテンしたといわれたりもするが、ホントウのところはわからない。さるはさるでのこっていわけだから。イデンシが

にているといってもそれはショクリョウのキンジであろう。それともコンゴ、ポストヒューマンをみとめるのだろうか。ポストヒューマンをみとめるとしたら、シンカのズシキにあるようなえだわかれもカノウだろう。まあ、ブゾクあらいなんかしてもしょうがないのだが。

ひとついえるのは、セイショがかかれたのは、はかがハツタツしたあとだろう。それかドウジキだったかもしれない。だから、「ニンゲンがチキウをシハイ」なのだ。エジプトおうのコウセキがおおきだろう。あんなおおきなはかをつくったのだから。そのまえはほかのドウブツがチョウテンだった。もしヨゲンシャがジュウヨウなもののハツテンのときにあらわれるのなら、セッキをつくったときにもあらわれるはずだ。ただそれをキルクするものがなかったかもしれない。ただ、はかとドウヨウにフキウしただろう。ただ、ニホンにはイッパンテキに「サイゴのシンパン」のかんがえがないので、もやしてしまうのだろう。リンネテンセイのホウがいいとおもうのだが。

#### ゴジュウサン

ユウセイセイショクのリテンとはなんだろう。クローンもつくれるジダイのはなしである。よりよいケイツツをもちあって、よりよいこがつくれることだろうか。たしかにそれならすぐれたひとばかりになる。ただそれはギャンブルのようで、よりわるいケイツツがのこることもある。しかし、そんなにシゼン、そしてシャカイカンキョウはきびしいのだろうか。たしかにショクリョウがなかったり、みずがなかったりするチイキはあるようだ。

いまなら、いいデンキ（デンシキキ）をつくれるひとがユウシュウなんだろうか。かわでセンタクをしてもいいはずだ。まあ、デンキはフウリョクハツデンでもできるから、ネンリョウにたよらないデンキジダイはいいかもかもしれない。さしづめ、このまえは、ユキ（セキユ）ジダイだろうか。そのまえは、タンキ（セキタン）ジダイだ。はたしてこういうシンボは、いつまでつづくのだろう。それがユウセイセイショクのシュクメイだろう。

#### ゴジュウよん

おみあいとはサイキンあまりきかれないうことばだ。でもヒコンカがすすんでいるゲンダイでは、もっとリョウしてもいいのではないかとおもう。むかしのひとは、それでもジュウブンカゾクをきずけた。ショウワのなかばから、レンアイケツコンがふえたというが、いまではひとりものがふえているんだから、レンアイケツコンブームもおわりだろう。もっとゴエンがありましたコンでもいいかとおもう。それでもモンダイなかったようだから。

#### ゴジュウご

わたしがコウコウセイまでのころは、くりだしシキエンピツをつかっていたが、ダイガクセイになるまえからスイセイペンをつかいはじめた。チュウガクセイのときにかつたボールペン（かえシンシキ）が、かきごちがよかったので、にたカンシヨクのスイセイペンをこのんでつかった。スイセイペンでかくと、あとでもよみかえせる。ダイガクのコウギをうつしたノートはいまでもよめる。しかし、コウコウイゼンのものはよみづらい。それからダイガクをソツギョウしても、スイセイペンをつかっていたが、そのペンをインクがなくなるたびにすてるのがばからしくなってきた。かえシンがないかときがしたが、それのはなかつた。

それで、チュウガクセイのときにかつたボールペンをみてみた。シンはあるケイジョウをしていた。ザンネンながら、そのシンにかかれたモジでネットワークをケンサクしたが、でてこなかつた。そのペンはショウリョウセイサンのものでつたからだ。それから、センベツとおいわいでもらつたボールペンをしらべてみた。ニコはガイコクセイでやっぱりそれにかかれたモジではでてこなかつた。しかし、かたちがおなじだつた。もうイッコをしらべると、そのカタバンがわかつた。それから、そのケイジョウのボールペンをつかいはじめた。そうやってムダにしないことはケイザイテキだ。ゴミがへる。しかし、そういうものは、アンガイたかかつたりする。それでもつかいたいとおもう。そういうのがブランドなんだろうか。

ゴジュウロク

「わをもってとうとしとなす。」とショウトクタイシがいつたという。だからニホンジンは「わ」をダイジにするんだらう。ニホンはシュウダンシュギのブンカともきかれる。それでいいのかというハンセイがあつたかわからないが、わりと「コ」のこともいうようになった。「コセイソソチョウ」など。ただ、ロウドウシャにとってはロウドウすることがダイジだらう。「わ」でも「コセイ」でもいいが、とにかくはたらくことだ。

サギョウというのはキョウドウサギョウもあるが、ひとりでやるのがキホンだ。だから、「コ」がしっかりしていなければいけない。あまり「わ」をおもんじてしまうと、「わ」をなすサギョウ、タンジュンにいえば、なかよくするためにジカンがさかれてしまい、カンジンのしごとがはかどらないとなる。だから「わ」をなすでもほどほどにしたホウがいい。「わ」をおもんじすぎると、カイカクがすすまず、「コ」をおもんじると、ヤクシヨクからおろされたりと。わたしからみれば、「わ」をおもんじすぎると「ヘイサテキ」におもえる。

ゴジュウなな

さきにはなした「ゼンセイ」のはなし（●ゴジュウニ）は、もののはなしである。イデンシによってサイボウがフクセイされるというのは、どちらかというとももののはなしではない。「もの」はほかにヒツヨウだからだ。だから、ジョウホウとかギジュツであらう。サイキンは「ゼンセイ」のはなしをあまりしなくなつた。むかしはだれかがしているのをきいたものだ。「オカルト」とかそちのホウのあつかいになつているかもしれない。

そういうわたしも、そのてのはなしは、すきではなかった。ヒカガクテキなはなしのようにおもっていた。

しかし、よくかんがえてみると、「もの」のはなしである（ニンゲンのからだをコウセイするブッシツの）。だからそれはたしかなのである。ただそれがどこからどこにいったといったはなしは、タイテイオクソクだからウサンくさい。そういうことである。ジョウホウにはいいカゲンなそれがある。ただそれだけだ。

ところが、サイキンそのはなしをしない。どうもイデンのホウが、セットクリヨクがあるのだろう。ガッコウでもおそわる。しかし、それがどのザイリヨウをつかってカノウになるかはあまりいわない。セツメイはカノウだろうが、そういうもののはなしはしない。そういうのを「ジョウホウカシャカイ」というのだろう。そのジョウホウをしまったって、ものがなければくみたてられない。だからしょうがないといえばしょうがないはなしなのである。そういうものぬきのはなしにどこまでたえられるか。オンガクもビデオもホンもデンシカ。もののないなにかである。むかしはジンリキでつくっていた。それをアートとよぶ（●サンジュウゴ、よんジュウゴ）。どこまでジョウホウカするのはわからないがアートをダイジにしたい。

#### ゴジュウハチ

デンシショセキがふえてきた。かみではなくデンシデータである。それを、デンシタンマツをつかってよむ。それがなければ、みられないしろものだ。かみのホンのうりあげがおちて、デンシショセキのうりあげがふえているのだろう。ただそれは、つかえない、めにみえないデンシジョウホウかもしれない。かみのホンは、フツウはみられる。むかし、シンのシコウテイがホンをやきはらうフンショコウジュをしたらしいが、ジョウホウがふえたいま、そうやってホンをみえなくするフンショコウジュがおこなわれているのかもしれない。

#### ゴジュウキュウ

ワンスルーのはなしをした（●ゴジュウニ）。マスターヒューマンのイチブだったそれには、マスターヒューマンのほかのイチブというキョウダイというかドウシというかがあろう。マスターヒューマンがしんでブンカイすると、そのタスウのワンスルーはカクサンする。そしてつぎのショクブツやドウブツのコウセイブツになるわけだ。センコワンスルーがあれば、センコのドウショクブツのコウセイブツになるかもしれない。そうすると、そのセンコのワンスルーのエンで、センコのドウショクブツはキョウダイといえるかもしれない。それがくりかえされると、シンセキがふえていく。そうかんがえると、カケイでなくて、ものとして、ケッコウなはずのひととキョウダイであるといえそうなのだ。それをニンシキできるかはわからないがそういうエンもありそうだ。

## ロクジュウ

ニジュッセイキのゼンハンにはインフレがおこったという。おかねよりもののハウがアンゼンだと、ひとびとがハンダンすれば、ものがヒツヨウイジョウにかわれ、もののねだんがあがる。ニホンもセイサクテキにインフレをねらっているらしい。スウパーセントテイドのインフレという。

しかし、きをつけなければならないのは、もっとおおきいインフレだ。それはセイフフサイのショリによっておこるかもしれない。すでにセイフヤジチタイのコウサイハッコウガクはセンチョウエンをこえた。これはかえせるのかというと、いまではキンリをかえすのがセイゼイのようだ。だからもっとふくらむ。それをひどいやりかたで、たとえばブッカにテンカするというやりかた（タンジュンにいうと、ショウヒゼイのようなゼイキンをとりたててショリするやりかた。）をすると、シジョウにでまわっているエンをニヒャクゴジュッチョウエンとカテイして、そのよんバイのセンチョウエンを、ショウヒンカカクにうわのせすることになる。つまりニヒャクゴジュッチョウエンで、センニヒャクゴジュッチョウエンのものをかうことになるから、カカクはゴバイになる。もうひとつかんがえかたがある。

あとスウネンでセイフフサイはコジンキンユウシサンとおなじくらいのガクになる。そこでセイフがトクセイレイをだしたらどうなるか。セイフフサイのブンだけあたらしいかねがヒツヨウになる。それをジッサイにすると、コジンキンユウシサンとあわせ、コジンキンユウシサンのニバイのかねがあふれることになる。そうすると、ニバイのインフレとなるわけである。どちらにしてもきびしいが、ヨウイをしておくといいかもしれない。

## ロクジュウイチ

カヘイはそのものジタイにもタショウカチがあるが、やっぱりそれイガイのカチによるものがおおきい。むかしはカヘイをもっていくと、キンとコウカンされるキンホンイセイをとっていた。だからカヘイジタイはカチがなくても、そのキンのカチテイドにカチをもっていた。エドジダイだとコバンだろう。そのものがキンでできていた。いまは、かみやキンゾクをつかっている。もしあたらしいなにかが、ツウカとコウカンできるようになれば、それもリッパなツウカとなりうる。

いまはカソウツウカがはやっているらしい。ツウカとコウカンできればツウヨウするのである。もし、ハウシャノウイチミリシーベルトとイチエンをコウカンするとはじめたらどうなるであろう。ハウシャノウをひろいあつめて、おかねがえられるということになる。それをジュウにやらせればゲンパツヒガイがあったチイキはカッセイカするかもしれない。なによりハウシャノウもかたづく。モチロンそのゲンパツのショユウシャがだすべきであろうが。

## ロクジュウニ

やすいなにかはおかいどくかもしれない。わりとカカクをみてかいものをしたりするだろう。やすいものをえらんだりする。しかし、「やすものがいのぜにうしない」ともいう。なぜか。それはやすいカカクには、リスクがふくまれていることがあるからだ。つまり、それはフベンなもの（サービス）だったりするわけだ。うるホウもなるべくたかくかってほしいところであろう。だから「やすい」にはきをつけたほうがいいだろう。

## ロクジュウサン

ゲンダイのニホンゴのブンショウは、ほとんどがカンジまじりブンである。メイジのころからカタカナゴもつかわれるようになってきた。セイヨウのタンゴがはいってきたからだ。それをカタカナやカンジをつかってあらわす。しかしサイキンはそのカタカナゴがおおくなったようにおもえる。それになれないうちは、カタカナでかかれたガイコクゴのイミをしるのはむずかしい。それは、エイゴのジショをひいてもひきにくいからだ。つづりがわからなかったりする。そこで、イッカイ、ガイライゴのジショをひくことになる。それなら、アルファベットをならべてかいてくれたホウがわかりやすかったりもする。ミライのニホンゴのブンショウはエイゴまじりブンになるのであろうか。

## ロクジュウよん

ニガツミッカはセツブンである。わたしがショウガクセイのころに、まめをまいたことをおぼえている。そして、いくつかダイズをたべたことも。しかし、よっぽどチュウイしていないと、セツブンということをわすれてしまう。ヘヤのなかでまめをまくのもかたづけがタイヘンだ。だからあまりまかない。でもなぜまめをまくのか。「まめ」にはたらいて、おにをゲキタイして、しあわせにとねがうことだろうか。

## ロクジュウゴ

こどもはやがてガッコウに行く。ガッコウでキョウカショをめぐり、ジュギョウをうける。ガッコウをソツギョウしても、やっぱりジュギョウにおセワになるかもしれない。なにかというとテレビである。ガッコウですなおにジュギョウうけていられたのなら、テレビキョクがながす「ジュギョウ」をうけるくらいわけないであろう。そうかんがえると、ニホンジンはしぬまでベンキョウしているんだなおもう。そういえばわたしのオヤジもケッコウテレビをみていた。しかし、わたしはカイガイにいついたときがあるので、ことばがわからずテレビをみないことがおおかった。いまになってもそんなにみない。だから、そのセンでいくと、わたしはわるいセイトだ。「ベンキョウ」していないことになるからだ。

しかしながら、そういうジカンができたことでかんがえるようになった。かんがえたってしかたないのであるが、ちょっとかわったセイトになったかもしれない。いまは、パソコンネットワークのハッテンで、そのホウメンからハッシンされるニュースをよんだりする。パソコンガッコウのセイトではあるわけだ。それはなにがいいか。うるさくないことであろう。それはホンをよむこととかわらない。つまり、「キョウカシヨ」だけちょっとよんで、あとはジシユウしているのである。だからしゃべるのはへたになるかもしれない。モデルとなるセンセイのことばをきかないわけだから。

ロクジュウロク

ひょっとしたら、「かみ」が、かんじるひとの「そと」にあらうが、「うち」にあらうがモンダイはないのかもしれない。それはこういうことである。ゲンダイには「マヤク」があるとされている。そのマヤクをつかうひとの「うち」に入れるのはモンダイとされるが、「そと」にあるばあいもまたモンダイなのである。それは、マヤクをつかったり、うりかいしたりするカノウセイがあるからである。「そと」にもっているとすれば、そのひとがつかわないにせよ、チキユウシャカイというおおきなめでみれば、つかっているのとドウヨウであらう。

タブンこういうことだとおもう。マヤクは「ある」イジョウしかたがないが、あるノウドをこえてセッシュするとモンダイだと。タンジュンにいえば、「ある」マヤクをセカイジュウのひとにキントウにいれさせればモンダイはないと（コウカがうすい。）。こいノウドであるひとの「うち」に入れるからモンダイだと。だから、ホウリツテキにはキンシされているのだけれども、「ダメ」か「ダメじゃない」かのニタクではなくて、テイドのモンダイなのであらう。「マヤク」だってリサイクルがあるはずなのである。

このモンダイは、「かみ」にもいえるかもしれない。やっぱり「うち」にあるか「そと」にあるかはモンダイなのではないだろう。キョウシンはこわいメンもあるけど、まったくいいきるのもこわい。テイドのモンダイではないか。

ロクジュウなな

ハチジュウネンダイからキュウジュウネンダイに、ニホンはコウギョウセイサンなどのシュイのザについたともいわれる。しかし、それイコウあまりそういうことをいわなくなった（シュイからおちたからでもあらう。）。「まもりをかためたふねぶね」みたいないかたもあまりきかない。ジッサイに、オウベイではケイザイセイチョウがつづいているが、ニホンはあまりしていないという。なぜそうなのか。

わたしなんかのレイでも、なにかがたりないなかでケンメイにドリヨクしているときはタイクツとかそういうことはおもわなかった。しかし、ひととおりのものがそろってしまおうと、そのあとにタイクツとおもってしまう。つまり、ニホンジンが「センゴフッコウ」のブンマヤクでうごいていたときは、とにかくがんばっていたが、ひととおりのものがおわると、あまりがんばらなくなったのではということだ。がんばらなくなったというか、がんばりにくいのだらうとおもう。

わたしなんかはこどものころにめぐまれていたので、「センゴフッコウ」のセンでかんがえることができなかった。しかし、「センゴフッコウ」がおわっても、セイサンカツドウはおわらない。ジブンとショウブなのかもしれない。シンリガクでは、ジブンのそののモンダイでがんばらなければいけないときは、そのモンダイがなくなると、ドリヨクをやめてしまいがちだが、うちの（そのひとの）モチベーションでなにかをすると、やるきがながもちするという。ニホンジンもそうした「うち」のモチベーションでしごとをやるときなのかもしれない。

#### ロクジュウハチ

かねのあつまるところにトシができる。トウキョウもそうだし、ニューヨークだってそうだろう。いまはセイフがゼイキンをとってサイブンパイをおこなうから、セイジジョウのシュトにトシができることがおおい。セイフがゼイキンをとらなくなったらどうなるか。かねもちのいるところ、キギョウのあるところにトシができるはずだ。キギョウジョウカまちということばがあるが、それがふえるだろう。そうすると、シャカイタイセイはトシコッカにちかくなるであろう。

いまのところ、セイフがいらぬというはなしはあまりしないが、もしいらぬとなると、そういうタイセイになろう。いくつかのトドウフケンをまとめるやりかたよりキョクタンではあるが、むかしはそれでやっていくにもあるので、フカノウではないだろう。しかし、やっぱりセンソウになるのかもしれない。

#### ロクジュウキュウ

「はか」がセイブツカイにおけるニンゲンのカイソウをあげたことをシテキした（●ゴジュウニ）。これはユウメイなのでエジプトおうのはかがある。こういったはかでもまれば、ほかのドウブツにシタイをたべられないわけだ。それからキュウヤクセイショができた。「ニンゲンがほかのドウブツをシハイする。」とかかかっている。こうかかされると、それをタッセイするために（ほかのドウブツにたべられるようじゃ、くらいがたかいとはいえない。）、はかをつくるだろう。だから、キリストキョウは、ほかのシウキョウとよべるかもしれない。

それをヨーロッパではニセンネンほどつづけ、ジュウキュウセイキになってニーチェがでてきた。かれは、「かみはしんだ。」といい、サイセイをといた。ほかのなにかにサイセイされるということ。その「サイセイ」というのは、「リンネテンセイ」のようなはなしでないか。つまり、ニセンネンほどニンゲンがセイブツカイでサイジョウイとして、ほかのドウブツにたべられないようにしていたが、そうではなく、ニンゲンもリサイクルしたホウがいいということではないか。たしかにキリストキョウカイのセイリヨクが、よわくなっているときく。しかし、マイソウについては、サンコツやウチュウソウなどでできたが、まだフツウのマイソウがおおいとおもわれる。たしかにリサイクルのシソ

ウはひろまっているようだが、まだニンゲンのカイソウをおとすようなかんがえが、タスウにシジされにくいとおもわれる。そういうイミではまだ「かみ」はしんでいないのである。ただ、このゴはどうであろう。

ななジュウ

ひとがフユウソウとなる時、おかねをもつようになるのがさきか、それともフユウソウのタイドができるようになるのがさきなのだろうか。かねのないフユウソウじゃしょうがないから、おかねをもつことがさきとかんがえられるかもしれない。しかし、いきなりおかねをもったばあいは、フユウソウのタイドができていないから、「なりキン」とよばれることがおおいのではないか。ウェーバー（マックス、ドイツのシャカイガクシャ）は、プロテスタントのひとたちのセイジツさがシホンシュギをハツタツさせたという。つまり、タイドがさきでおかねはあとなのではないかともいえる。ニホンではコウレイシャがケッコウなシサンをもっているというから、やっぱりシサンができるタイドができていたのだろう。もしコウレイシャなみにシサンをもちたいというのであれば、コウレイシャのタイドをまなぶといいだろう。わたしはまだまだそれができていないから、おかねもちにはなりにくいかもしれない。

ななジュウイチ

ふゆのオリンピックがはじまったらしい。「らしい」というのは、わたしがゲンチに試してみているからだ。テレビでホウソウしているが、どこかかのスタジオでシュウロクされているものかもしれない。みていておもうのが、ニホンジンセンシュはファンダメンタル（キジク）がよわいのではないかということ。サッカーなんかもそうなのだが、「まけモード」にはいると、もうまけるしかない。そこまでつよいセンシュというのはすくないのだが、うわさになっているセンシュまでたいしたケツカをのこせなかったりする。つぎにのべるが、あまりにホウソウするがわがキタイさせるゆえに、ジツサイにみると、たいしたことないじゃないか、とおもうことがおおい。そういうことがつづく、ジツはニホンジンセンシュゼンパンがよわいのではないかとおもえてくる。そうやってみるがわにアクインショウをうえこんでしまいかねない。そのケツカ、センシュがオウエンされなくなるのでは、いいカンキョウとはいえないだろう。それをカイゼンするには、キャクンテキなジツだけをホウソウしてくれるといいが、それだとホウソウのまがもたないのであろう。ただ、これまでのセイセキをホウコクすることはできるとおもうが。ショウリツはサンわりニブだとか。

ななジュウニ

オリンピックのハウソウでは、ニホンジンセンシュのカツヤクを「キタイ」させることばにあふれている（●ななジュウイチ）。しかし、ジッサイにみると、「なんだ」ということがおおい。それはどういうことか。わたしは、まえむきなことばがおおくなり、それがいつかのダンカイでボウラクする、キタイのインフレがおこっているとおもう。タンジュンにいえば、（ニホンジン [センシュ] が）かてるということばがふくれあがり、ケツカがでるダンカイで、それは「うそ」だろというように、かわってしまうわけである。まえむきなことばをいうのはわかるのだけれども、それで「かてる」というようにふくらんでしまうと、ちょっとモンダイのようにおもう。

よくいわれるセンチュウの「ダイホンエイハッピーウ」ににている。だから、それが「うそだ」といわれるようなレベルまでボウチョウさせないハウがいいとおもう。たしかにだまされるハウがわるいかもしれないが、そんなやがて「うそ」になるようなハウソウをするのもどうかとおもう。そのハウコウでいくなら、まったくどこかのスタジオでシェウロクすればいいのだ。「まえむき」はダイジだが、あまりにボウチョウすると「うそ」になる。「ケンキョ」というビガクがあったはずである。

#### ななジュウよん

ローカルでのひとつきあいやすくなくなったなどといわれる。また、ミコンシャがふえているともいう。なぜそういうことになるのか。それはヒヨウのモンダイかもしれない。ローカルでひとつきあいするばあい、それぞれがなにもヨウキュウしなければ、ヒヨウはレイにちいか、レイだろう。ジカンやロウリョクはかかるかもしれないが、ほかにはかからない。しかし、もっといいジョウケンがある。それはカイシャとのつきあい、カイシャでのつきあいである。それだと、ヒヨウがマイナスになったりする。キュウリョウがはいたり、ケイヒでおとされたりするからだ。だから、ローカルのつきあいより、しごとでのつきあいをユウセンする。そうすると、ローカルでは、ひとつきあいがうずれてしまうのだ。そうすると、ちかばのひとをしらなかったり、エンができなかったりするだろう。それならそれでカイシャがケツコンあいてをショウカイすればいいかとおもうが、なかなかむずかしいのかもしれない。シェウシンコヨウのジダイならともかく、「リストラ」をしにくくなってしまふからだ。

#### ななジュウご

ウチュウのはじまりは「ビッグバン」でセツメイされることがある。バクハツだから、ウチュウはそとがわにむかってひろがっていく。そうすると、バクハツのチュウシンでは、ものというかシゲンというかはすくなくなるだろう。それでそとへむかってシゲンがイドウし、ウチュウはどうなるのか。

ここでいいたいのは、ウチュウのサイセイサンはどうなるのかということだ。そんなこととするかといわれるかもしれないが、ながもちするといいだろう。タンジュンなコウセ

イのばあい、やがてもえきって、「ブラックホール」になるとおもわれる。それで、うそかホントかはわからないが、シゲンをよびもどすわけである。これならサイセイサンである。ウチュウジタイもやはりそうなのでないか。ムダにしないようなくみがあるじゃないかとおもう。ちいさなまるとドーナツがたのくりかえしでないか。

#### ななジュウロク

よくケイキがいいだのケイキがわるいだという。ケイキがよいといわれるときにうりあげがおちると、そのカイシャのショウヒンがわるいとなるが、ケイキがわるいといわれるときに、うりあげがおちたら、ケイキがわるいのがわるいとなる。それでセイフにザイセイシシュツをもとめたりする。セイフもセイフでまたコウキョウジギョウをふやす。でも、「ケイキがわるい」は、いいわけでタンにそのカイシャのショウヒンにモンダイがあるということではないか。ケイキがわるいだろうが、うれるものはうれるはずである。だからケイキのわるいときこそジツリョクがとわれるところであろう。

#### ななジュウなな

まえに、たらこやイクラをたべなくなってきたから、こどものかすがへっているのではとかいた（●『む』ヒャクサンジュウシチ）。また、「まるまるこ」と「こ」をつけたなまえをつけないから、やはりこどもがすくなくなってきたのではとかいた（●『よ』ヒャクロクジュウロク）。さかなのたまごをたべなくなっていることと、「こ」をつけたなまえをつけないことは、イッシュのリウコウであるが、いってみれば、あまりチュウモクされないリウコウだ。それをセンザイテキリウコウとよぼう。そして、それをホジするものを、センザイテキリウコウのシンリコウゾウとよぶ。

「こどもがすくなくなっている。」のは、わりといわれるリウコウである。よくいわれるリウコウはそれなりのリウがセツメイされるが、あまりセンザイテキなりウコウのはなしにならない。ましてやシンリコウゾウのはなしだとなおさうだ。ほかにヒコンカのリウコウもそうだ。これはなにがセンザイテキなりウコウになっているかという、わたしがおもうに、「おむすび」をあまりたべなくなったことだ（「おにぎり」はたべているかもしれない。）。

よく、コンブをたべて、「よろこぶ」とか、まめをたべて、「まめにはたらく」とかいうが、それもたべるリョウがへっているのかもしれない。ニホンジンは、センザイテキなりウコウやそのシンリコウゾウにすなおなのではないかとおもう。きれいによくみえるリウコウにつながるからだ。ことたまシコウというのがうなずけるようである。

#### ななジュウハチ

コンピューターギジュツのハッテンがいちじるしい。ジンコウチノウ（エーアイ）が、カテイヨウにもみられるようになった。もしジンコウチノウとケンカをするとどうなるか。ジンコウチノウはつかうひとのいろいろなコジンジョウホウをにぎっている（アドレスチョウ、かいものキロク、メール、よくつかういいまわしなど）。だから、それをつかっていやがらせをされてしまうだろう。それにタイしてニンゲンはどうするか。コンピューターはニューリョクされたジョウホウイジョウにはしらないので、ニンゲンはあざむくために「うそ」をニューリョクするようになるかもしれない。そこまでしてジンコウチノウをつかうヒツヨウはあるのかわからないが、まあそんなところではないか。ジンコウチノウのハッタツによって、うそをいうニホンジンがふえるかもしれない。ことたまシコウあやうしである。

### ななジュウキュウ

コンピューターのハッタツで、チュウトウキョウイクがあまりやくにたたなくなるとかいた（●ジュウ、サンジュウサン）。それでもまなびたいひとはいるだろう。いまのところはキョウイク、シュウショクシステムにくみこまれているので、そうカンタンにくずれないとはおもうが、ケンサクすればすぐでてくるチシキをおぼえるのに、サンネンかけていいのかというモンダイがある。

コンピューターがコンゴもモンダイなくつかえるのであれば、スウガクやカガクなどを、ゲイジュツのようなセンモンブンヤとしてあつかっていくことがかんがえられるであろう。つまりオンガクなどおなじあつかいにしてしまうのだ。くわしくはダイガクでケンキュウしてくださいでもいいだろう。それができれば、コクゴやエイゴくらいのキョウイクのみでイチネンでおわらせることができるのではないか。これだと、ジュウななサイでダイガクやセンモンガッコウにニューガクできる。サンネンブンロウドウリョクもふえるだろう。

### ハチジュウ

まえにセンザイテキリュウコウのはなしをした（●ななジュウなな）。しかし、おもいだしてみると、そういういいかたをしなくても、「エンギ」といういいかたがある。つまり、さかなのたまごをたべるという（「コダクサン」など）エンギをかつぐから、こどもがタクサンうまれるというぐあいである。

サイキンは「エンギ」ということばをきかなくなった。エンギをかつぐより、なにかのコウカがあるかないかみたいに、キノウシュギテキになってきているのかもしれない。たしかにさかなのたまごをたべたからといって、かならずしもこどもができるわけではないだろう。だからといって、メイシンだでおわらせていいのか。コウカがあるかどうかはともかく、ひょっとしたらこどもができるかもぐらいに、たのしみながらにしたいものである。どうもゲンダイジンは、きみじかなのかもしれない。

## ハチジュウイチ

ニホンでは、ひとがしんだあと、そのシタイをカソウする。そうすると、ほねだけがのこる。それをマイソウする。しかし、それはちょっとどうなのかとおもう。なぜはかにマイソウするかといったら、ひとつはさきにのべたように（●ニジュウなな、ゴジュウニ、ロクジュウキュウ）、ほかのドウブツにたべられないようにするためだといえる。これはキリストキョウケイのカチカンであろう。そうやってニンゲンのくらいをイジするのである。

しかし、「リンネテンセイ」だとか「サイセイ」また「リサイクル」というひともいる（●ロクジュウキュウ）。それだったらほかのドウブツにたべてもらったホウが、いのちのエイゾクセイがあるともいえる。つまり、あるひとがもっていたブッシツとしてのからだ（わたしはワンスルーといっている【●ゴジュウニ】。）が、ほかのドウブツ、ショクブツにひきつがれるのだ。だから、きみのライセイはたぬきか、などとはなしができる。

かならずしもキリストキョウのように、「ニンゲンがほかのドウブツをシハイしなければならぬ。」ではないから、そうやってリサイクルをすればいいようにもおもえる。たしかにテンにめされることも（●ニジュウよん）（セイブツではなくて）、もののメンでダイジかとはおもうがテキトウなバランスをみて、リサイクルをすればともおもう。カソウしてゼンメツさせなくてもとおもう。「テン」にめされるとナンオクネンとシンカしたのをもうイッカイとなるし、「テン」にめされないひとも、「リサイクル」され、ゲンダイのセイメイのホゼンにひとカツヤクする。それでいいのではないか。

## ハチジュウニ

わたしは、『アルクカラカンガエル（●『ア』ヒャクハチジュウサン）』いった。あるくから、フウケイがかわってノウがはたらくということである。だからうごかないひとはあまりかんがえないであろうということだ。うごかない「もの」が、かんがえるというのはあまりきかない。サイキンはやりのカテイヨウジンコウチノウソウチにしたって、デンキがなければ、データをあつめられないので、たいしたことはできないであろう。そうかんがえると、デンキがあるからかんがえるかもしれない。

ニンゲンもテレビがうつっていると、かんがえたりもするであろう。おわらいバングミの、ここでわらうのですよとシテイされ、サンプルのわらいごえがでるシュンカンにわらうのは「かんがえる」とはいわない。それはだれかのまねをしているだけだ。それだと、シャカイのジョウシキとかホウソウサッカのおもいをくんだ「かんどおり（●『む』よんジュウイチ）」だ。かんがえるとは、「カン」をヒテイしなくてはならない。ベツにそんなことはしなくてもいいのだが、ひとはいろいろなリユウがあつてかんがえる。

しかし、フウケイがかわるとか、ジョウホウがあるとか、デンキがないとかかんがえられないのである。もっといって、たべものをたべないとしんでしまう。エイヨウもかんが

えるもとである。エーアイのハッタツがケンチョになると、それにまけじとかんがえるひとは、よくあるくようになるか、それともうごかずショウエネでかんがえるようになるかはキョウミのあるところである。

すべてのジョウホウのくみあわせで、ヨソクされるとなると、ニンゲンのかんがえることはエーアイによまれてしまう。だから、よまれたくないニンゲンはイチレイヒシャ(ショウギ)のようなてをとりだすだろう。タンジュンに言えばルールをかえてしまうのだ。ニンゲンのブンカも、そういうルールヘンコウをしながらハッタツしたともかんがえられる。カンタンなレイだと、ラテンゴをはなしていたのを、フランスゴではなすようにしたり、コゴをつかっていたのをゲンダイゴにかえたりということである。だから、エーアイがカッタツになると、たとえば、エイゴがチンプカするということがおこりそうなのである。グタイテキにいうと、いままでつかっていたエイゴではなくて、ほかの、またはあたらしいことばをつかいだすだろうということだ。レキシをみるとそうだ。

#### ハチジュウサン

ニホンにガッシュウコクサンのこむぎと、ギユウニクがはいってきたから、ニホンジンのなかに、かみがチャイロのひとがあらわれたのなら、まあしょうがない(ガッシュウコクサンのこむぎやギユウニクには、ドソウされたガッシュウコクジンセイブンがはいりこむあろう。)

わたしのひげなんかに、しらがとともに、チャイロのけやブロンドのけがまじったりする(ベツにそめたわけではない。タンにガッシュウコクサンのこむぎやギユウニクをたべたケッカであらう。)。ところがそのひとたちは、ジブンのてで(ビヨウシにやってもらったことあつたらうが)、チャイロにしたり、ダッシュヨクさせてしまったりしていた。そのひとたちは、タイジュウヒでイッパーセントからジュッパーセントテイドのガッシュウコクサンのたべものをたべたのだろうか(イチリンでもイチわりでもなく)かみのけをハクパーセントそめてしまった。そういうひとたちを「ロッカー」なり、「ヤンキー」とよんだが、それはまあどういふことであらう。

しかし、ジンコウヒでいえば、トウショはイチリンとかイチわりだった。それがふえていったようだ。それをみると、セイフハッピーウのジキュウリツより、ただしいスウジがわかるかもしれない。ニわりテイドガッシュウコクサンのたべものをニホンジンがたべているのかもしれない。わたしはそういうフウにかみをそめるひとをボウメイシャ(●『ア』ハクニジュウシチ)とよんだが、まあ、やっぱりニホンジンなのではないかとおもう。しかし、それだけのニンゲンが、ガッシュウコクサンのおかげでいきているというジジツではある。「ニチベイドウメイ」といふことばは、ウサンくさいことばだとおもうが、タイベイズンといふのは、ゲンジツにソンザイするわけである。

#### ハチジュウよん

トシのホウでは、そこにすんでいるニホンジンのウンコは、うみにながれるようになって

ている。ひょっとしたら、ゲスイショリジョウでぬきとられるかもしれない。しかし、エキタイのセイブンをすべてぬきとることは、むずかしいであろう。うみにながれると、うみのショクブツのエイヨウになる。だからうみがゆたかになる。

しかし、ノウチもゆたかにしたいだろう。だから、うみにハンブン、ノウチにハンブンをながせばいいかもしれない。イチニチにロクセンマンウンコがうみにもどされれば（ニホンジンがさかなやのりをたべたとカテイするとそういえるだろう。）、サイセイサンにつながる。

きになるのがとなりのジンコウのおおいくにだ。ハンブンながしただけでロクオクウンコになる。そうすると、そのくいのエンカイがゆたかになるはずだ。そこにハイタテキケイザイスイキ（イーイーゼット）というキジュンをもちだして、ニホンのギョセンががんばってしまうとケンカになるだろう。たしかにイーイーゼットはひとつのキジュンではある。しかし、バンノウではないだろう。だからそのカイイキのあつかいにカンしてはジュウナンにするのがよいかとおもわれる。「ウンコをかえせ。」といわれてもなかなかむずかしいからである（セイサンリョウがちがう。）。レイセイにいうと「シゲン」なのである。

#### ハチジュウゴ

どうやらこのまえにふいていたかぜが「はるイチバン」だったようだ。まだゆきがふるのではなどおもっていたからハンダンしそこねた。とすればもうはるである。もっともショウガツが、シンシユンなわけだから、おそめのはるかもしれない。キュウレキのショウガツこそがホントウのシンシユンかもしれないが、あまりキュウレキのこよみをみないのでわからない。

このまえがそうだったようだが（チュウカケンでは、バクチクがなるからわかりやすいが、ニホンではそういうシュウカンはない。）。タイヨウレキをサイヨウしてから、はるのテイギにズレができたのだろう。キュウレキフウに言えば、なつやすみはあきやすみとなる。しかし、そんなことをいっても、セケンのジョウシキはそうかわるものでもないだろう。それをかえるのに、ナンオクエンかかるとか、そういうはなしになるのではないか。

#### ハチジュウロク

コトシのふゆは、とりがあまりさわがなかった。イツカイ、ニカイさわいでいたが（●『ア』ゴジュウハチ、『よ』ゴジュウハチ）、えさをあげたらおさまった。わたりどりもやっぱりコンビニでひなたぼっこしていた（●『よ』キュウ）。ただ、わたりどりをみるカイスウがすくなかった。コトシはさむかったから、もっとみなみにいていたカノウセイがある。めずらしいなきごえをするとりもきた。フダンはきたにいたるが、さむかったためにナンカしてきたのだろうか。

## ハチジュウなな

ポタージュスープとか、ポタージュあじのスープとやらがある。わたしがちいさいころから、それはスープのシュルイとおもいこんでいたが、ちがうのではないかと気づくようになった。「ポタージュ」というからわからなかったのだろう。エイゴでポッテイジといわれれば気づいたかもしれない。さきのレイをヤクすと、スープスープとかスープあじのスープになる。もっといいヤクをしても、なべでにこんだスープであろう。スープのシュルイではなく「スープ」というチュウショウメイシだったわけだ。「ザポッテイジ」とかにしても、ニホンジンになじみのあるスープは、ミソシルとかであるわけだ。もっといって、ゾウニのあじつけのタヨウセイみたいなはなしで、どれがイチバンとはいえないであろう。しょうがないから、ひとつのあじをさして「ポタージュ」にしたのかもしれない。「スープあじ」でなく。

## ハチジュウハチ

サッカーでもヤキウでも、しばらくみているとルールがわかってくる。これらはいってよりおおくゴールすればかちというキョウギだからわかりやすい。エンジをヒョウカするニンゲンがテンスウをつけるキョウギもある。それもしばらくみていれば、どのくらいのテンがつくかというのはわかってくる。それはみているひとが、テンスウのつけかたをガクシュウして、テンスウをヨソクするわけだ。ニンゲンはそういうことができるが、コンピューターもそういうことができるだろう。

セイジヨクぬきのコンピューターにヒョウカさせたホウが、よりコウセイかもしれない。そんなことをいっていると、シンパンというしごとがコンピューターにうばわれてしまう。しかし、ニンゲンのいいところは、ひいきをすることかもしれない。まるばつセンシュにコウトクテンをつけたりするというやりかただ。コンピューターは、このてのことがにがてでないか。

しかし、ひいきするシンパンは、ひいきをしたセンシュからはよくおもわれても、ほかのセンシュからはよくおもわれない。だが、コンピューターをドウニュウすると、ニンゲンのシンパンはそのくらいしかしごとがないだろう。そうやってニンゲンは、コウセイというチュウドウテキナポジションからコンピューターによっておいだされてしまう。コンピューターとおなじイケンなら、そのひとのかわりにコンピューターがあるんだから、そのひとはいらなくなる。

そうして、ニンゲンは、かたよったたちばをとるようになる。いってみれば、ニンゲンがよりコセイテキになるわけである。コセイテキでなければコンピューターにかわられてしまうからだ。いまはエイゴがキョウツウゴだから、あえてドイツゴをガクシュウしようとかになるだろう。コンピューターがエイゴシヨウであれば、ドイツゴではなしていれば、コンピューターとしごとのメンでぶつからないことになる。それならそのこと

ばをつかうかぎり、チュウドウテキなたちばのもどれる。しかし、タブン、ドイツゴもコンピューターのおよぶハンイだ。だからベツのことば、たとえばラテンゴとかをガクシウする。それならやっぱりチュウドウテキなたちばをとれる。ユウキのあるひとなら、あたらしいことばをつくるだろう。そうやってコンピューターとかぶらないように、ふるいことば、もしくはあたらしいことばを、ひとはセンタクするようになる。それならコンピューターにしごとをうばわれなからだ。このジョウキョウをチンプカされたシャカイ（オールドファッシュンドソサエティ）とよぶ。つまりゲンジョウのシャカイは「ふるい」ということである。

そして、もっとふるいゆえに、あたらしいことばやブンカに、ひとはアイチャクしようとする。チンプカされたシャカイ（ふるいシャカイ。コンピューターがカツヤクしているゆえに。）では、コンピューターによってしごとをとられてしまうから、ふるいか、あたらしいシャカイにひとはテイイしようとする。みちのイメージでいえば、みちのまんなかは、コンピューターというくるまがはしっている。のっていればアンゼンだが、それをかうのにはおかねがかかる。だから、ひとは、みちのひだりか、みぎによる。ひだりがあるくのは、あたらしいことばやブンカをシコウするひだりみちハだ（セイジシヨクはない。）。もうひとつ、みぎがあるくのは、かなりふるいことばやブンカをシヨウする、みぎみちハだ。できればチュウオウをあるきたい。しかし、あぶないので、どちらかによるわけだ。

しかし、ひだりみちハも、みぎみちハもアンシンはできない。くるまがよりおおきくなるカノウセイがあるからだ。いってみると、コンピューターかコンピューターをつかっているニンゲンが、ひだりやみぎに、ちよっかいをだすかもしれないわけだ。タンジュンにいうと、ひだりやみぎのことば、ブンカをコンピューターにインストールしようとすることだ。そうやって、コンピューターによって、わたしたちのくにやチイキがシヨクミンチカされようとする。シヨクミンチとはどういうことか。やすいねだんで、ザイ、サービスをソウシュコクにテイキョウさせられることだ。そういうかんがえかたはあまりみえないが、まだのこっていないか。

とりひきとは、ホンライソウホウのゴウイでおこなわれるものだ。しかし、シヨクミンチのばあい、ブリヨクやシリヨクによって、とりひきをキョヒできないようにしたうえで、とりひきがおこなわれる。いまのばあいだと、「ジユウボウエキ」というかんがえかたである。そこではとりひきをキョヒできないように、とりひきがおこなわれる。つけくわえると、キョヒはできるが、あいてもなにかのとりひきで、キョヒやカカクのつましをせまるだろう。そうやって、コンピューターテイコクはセイリヨクをのぼす。しかし、わたしは、わたしジシン、もしくはいへのドクリツをイジしたいおもう。

#### ハチジュウキョウ

オリンピックがおわった。はじめのホウは、キタイさせるアナウンスばかりがおおかったが（●ななジュウニ）、メダルがあたえられるにつれ、たのしんでみることができるようになった。

ハチネンぶりにみるスノーボードにシンショモクもくわり、また、そのシンカにおどろくこともおかった。ニジュウネンまえは、サンカイテンがせいぜいだったのが、ハチネンまえにはたてニカイテン、よこサンカイテンになり、コンカイは、たてニカイテン、よこよんカイテンになっていた。シュモクによっては、たてよんカイテンと、よこゴカイテンができるとか。つぎはなにがみられるであろうか。

#### キュウジュウ

セイヒンをカイガイでつくれば、ねだんをやすくできるという。たしかにおかねのメンでいえば、やすくつくれるところもあるだろう。キュウリヨウがやすいなどのリユウだ。しかし、ホントウにやすいのか。あるセイヒンエーをつくるのには、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるとする。それをカイガイでつくっても、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるだろう。カカクのメンではともかく、エネルギーのメンでは、かわらないのである。コストがちいさいとかいうが、やっぱりつかうエネルギーは、かわらないであろう。それなら、コストはちいさくないはずだ。コストはおなじなのである。ただ、つかうエネルギーのリヨウは、かわらずとも、やすくうけおってくれるだれかがいるから、カカクがやすくなるというわけである。ホントウにフェアトレードなどをかんがえるならば、セイヒンをカカクでみるのではなく、つかったエネルギーのリヨウではかったホウがいいのではないか。

#### キュウジュウイチ

ガッキはなにかをシンドウさせておとをだす。そのギャクもある。おとがおおきいとなにかがシンドウしはじめる。そのシンドウでもおとがでる。しかし、あるシンドウがとまれば、やがておともやむ。そのおとによってシンドウしたなにかも、ふるえるのをやめる。そのまたおともやむ。チキュウジョウだと、シンドウはやがてとまるようだ。レイガイテキにフィードバックというのがある。おととシンドウをジュンカンさせるわけである。これだといつまでもなっている。ひかりはどうだろうか。ひかりから「シンドウ」のようなあるイベントをハッセイさせて、それをループすることができれば、ウチュウはおわないようなきがする。ひかりをサイド、(コウセイがもえつきそうになっている)ブラックホールにかえし、コウセイにもどすのである。

#### キュウジュウニ

ニンゲンエーがイーにイドウしてエフにイドウした。これはわかりやすいはなしだ。エーがはじめディにあって、イーにいてエフについたと。しかし、(たとえば)イッセンマンニンのひとがイッセイにエフをめざすといったときに、どれだけそれぞれのうごきが

わかるだろうか（エフにちかづくことはわかるけれども）。それをセイリすると、ビーさんがイーにイドウした。シーさんがジーにイドウした。ダブリュさんがイーにイドウした。ほかタクサンとなる。ケツキョク、なにかのチツジョ、たとえばジカン、なまえのジュンジョなどをつかって、ひとりずつジュンジョづけていくのがわかるやりかただ。それをおこなってはじめて、そのレキシなどをえがけるようになる。いいカゲンなケイソクをすると、カンゼンなレキシとはよべなくなる。

しかし、これはコンキのいるサギョウだ。かならずチョクセンジョウにできごとがキジュツされるわけではない。たとえば、ハチジップンゴビョウにシーさんがジーに、ワイさんがイーにトウチャクするとすると、どちらをさきにキジュツしたらいいかわからない。そこでどうするかがモンダイとなる。こういうカダイ、かりに「タヨウジョウケンのセツメイ」といっておく、をとくために、ふたつのセンをつかったりするのではない。もしくはもっとこまかくジカンをはかる。そうすると、どちらがさきかがわかる。それならひとつのセンでつづけられる。

ひとつのセンにするというと、まるでゲンザイのカガクのようなこまかいケイソクがヒツヨウになるのだろう。つまり、それを（カガク）をやっているうちは、レキシはひとつでありそうなのである。「タヨウ」だからしょうがないのだが、それをキレイにセツメイしようとするドリョクは、いろいろなところでおこなわれている。

#### キュウジュウサン

もし、あなたのヘヤにトケイがなかったらどうなるか。それでも、まどからそとをみれば、あかるさのぐあいだナンジごろかわかる。まどもしめきったばあいどうなるか。ジカンがわからないか。それでもジカンはわかりそうなのである。なにもケイタイデンワのトケイをみるというはなしではない。

「ジカン」はウンドウにかかるまのことである。あなたはいろいろなウンドウをしているだろうから（していないとすれば、あなたはしんでいる。）、それからジカンがわかるだろう。もちろん、ニジュウヨジカンではかれるかはわからないが、あなたはニンゲンドケイなわけである。ウチュウリョコウでそとのケシキもそうかわらなければ、そして、「トケイ」も「テレビ」も「コンピューターネットワーク」も「ケイタイデンワ」もなければ、あなたやほかのだれかのジカンでうごくようではないか。カイシャインはタイテイ、キカイシキのトケイにあわせてうごくのであるが。それでも、「トケイ」のソシツはあるだろう。ないとしたら、キカイニンゲンか。

#### キュウジュウよん

ニホンのキョウイクのことを、コセイをハッキさせないキョウイクだということがある。そしてヘンサチでジョレツをつける。でもこれは、ひとをつかうホウだったらツゴウがいいかもしれない。

つまり、こういうことだ。ビーダイガクのハウガクブをソツギョウしたイーさんがビョウキになって、はたらけなくなったとする。それならやはり、ビーダイガクでハウガクをまなんだエフさんが、かわりにしごとをできるだろうといういれかえがきくからである。それがキョクタンになると、シーダイガクをソツギョウしたジーさんは、ビョウキでしにそうだが、クローンをつくったのもうイツカイいきられる（そのいいかたがただしいかはベツとして。）イシキをイシヨクするのはむずかしいが、おなじシーダイガクをソツギョウするようにしむければ、まえにいきていたシーさんのようになるだろう。イデンも、うけとるジョウホウもおなじなら、ほとんどおなじだろうと。しかし、「コセイ」とか「めずらしいジョウホウ」をもっているとなると、それをフクセイするのはコストがかかる。だから、「コセイ」をもっているひとは、きらわれるのではないかと。

キュウジュウゴ

ニンゲンのリサイクル（テンにめされる。）のはなし、ウチュウのイジのはなしをした（●ニジュウよん、ハチジュウイチ）。そうするとながもちするわけだ。しかし、ジュウヨウなどいもある。それは、セツカクできたニンゲンはどういきるかというはなしである。そういう「ながもち」をかんがえなければ、カッテにいきて、カッテにしねばいいんじゃないかとなる。ばあいによってはウチュウがほろびても、ニンゲンだけがいきのこればいいというかもしれない。しかし、タブン、ニンゲンはウチュウのイッコシゲンなわけだから、そのシステムにホウシすべきともいえる。かといって、イツカイジンルイがほろびて、またあたらしくハッセイするようなことをくりかえすというのも、なんだかバカらしいきがする。もうナンカイもニンゲンはほろびたのかもしれない。はたしてニンゲンはどういきるべきか。メイワクかけないテイドにおもいおもいにいければいいのかな。

キュウジュウロク

ことばをはなすことを「ヒョウゲン」といったりする。カンジでおもてにあらわすとかく。はなすことばのなかで、きらわれることばがある。いみことばとかいったり、エンギのわるいことばといったりするそれらだ。わかいひとはあまりきにしなないかもしれないが、「そんなことをいうな。」というかんじのことばはたまにあるし、きをつけているひともおおいだろう。

ガイジンにいわせると、それはゼンキンダイテキかもしれない。しかし、ベイコクでは、「ポリティカリーコレクト」という「ただしい」いいまわしをスイショウしていたりもする。だから、そういうかんがえかたは、あるテイドリカイされるのではというきもする。そういうことばを「おもて」に「あらわす」からモンダイなのだろう。そういうセンビきがあるようなきがする。きになるならゼンキンダイテキなやりかたでもいいとおもう。

キュウジュウなな

タヨウジョウケンのはなしをした（●キュウジュウニ）。タヨウジョウケンとは、いくつものインガをふくむセイリしづらいゲンショウなどである。そういうのをセイリしていくと、ハウソクが見つかるかもしれない。むかしのひとはカンタンなジョウケンからいくつものハウソクをみいだしていた。それをわかいひとはガッコウでまなぶ。カガクシャになるひとは、そういうモンダイにチョウセンするだろう。

しかし、どうもサイキンはコンピューターだよりのきがする。トウケイデータをてケイサンすることもできるが、あまりそういうことをするひとはおおくないだろう。ケンキュウがコンピューターイゾンになっているということだ。それはアートではない（●サンジュウゴ、よんジュウゴ、ゴジュウなな）。たしかにコンピューターのハツタツにより、よりフクザツなジョウケンでもセイリしやすくなっただろう。ただ、そんなかんじでケンキュウするなら、ケンキュウシャのなまえをかくところに、まるまるコンピューターなどと、ヘイキするといいかもしれない。ニンゲンがケンキュウしているのか、うたがわしいからだ。

#### キュウジュウハチ

イゼンはイーメールなどなくて、てがみなどでことばをやりとりした。いまでもすくなくなるとはいえ、なくなったわけではない。ホンもむかしはてがきである。ニホンでは、ふでをつかってかいていた。それらのモジはコセイがある。へたをすると、よめないくらいにコセイがでる。しかし、よめなくてはしょうがないので、あいてによめるようなジでかく。それがもっとすすむと、タイプしたり、パソコンでブンショウをかいたりするようになる。

しかし、タイプやパソコンでニューリョクしたモジにはコセイがない。あえてショタイをいじることはできるが、せいぜいそのテイドだ。たしかによみやすいのだが、コセイがない。イッポウ、てがきのモジは、コセイはあるがよめないかもしれない。ちょっとまえにいわれていたコセイをソynchョウするというブンカは、パソコンでモジをやりとりするようになったから、そのアンティテーゼとして、スイショウされたのかもしれない。「てがき」のブンがへったからだ。わたしはゲンコウをてがきでつくっているが、そういうコセイもいいとおもう。

#### キュウジュウキュウ

むかしのニホンジンのセイカツはジュンカンテキだったとおもう。はたけでつくったヤサイをたべて、フンニョウをはたけにかえし、またヤサイをつくるといったぐあいだ。いってみれば、ループをするセイカツセツケイだったということだ。

たまにさかなをたべると、それだけがループしないといえるだろう。サッコンのショウヒシャカイでは、こういったループがなされにくくなっているんだろう。それでも、みずはかわにながし、またかわからとるようにループされている。ヤサイははたけでつくり、

それをたべて、フンニョウはかわにながしてしまふ。これではジュンカンしない。ホンなどでかんがえると、わかりやすいが、いつもおなじホンをよんでいけば、おかねのツイカフタンはレイである。それだとケイザイテキである。しかし、それだとつまらないのであたらしいホンをかう。そうするとあたらしくループにいれたホンのブンだけ、おかねをはらうことになる。こうしたアウトループをするとおかねがかかる。

わたしもむかしはシィディなどあたらしいものばかりをかっていた。そうすると、かねがかかる。しかしサイキンは、おなじシィディをナンカイもきくようにしている。ホンはいまのところ、あたらしいものをかっているが、アウトループをへらしていくことはカノウだろう。アウトループをへらせば、ショウヒがへる。おかねもかからない。うまくループリツをふやして、かしこいセイカツをしたいものだ。

ヒヤク

このごろは、チョウジカンのザンギョウにタイして、きびしいイケンがいわれている。ザンギョウをしなければ、イチニチ、ハチジカンロウドウだろうか。ニンゲンのセイカツのサンブンのイチをしごとに、サンブンのイチをプライベートに、サンブンのイチをねることにあてるとなるかもしれない。

しかし、こういったセイカツははたしてカノウなのか。ハチジカンロウドウでえたシュウニウで、のこりのジュウロクジカンのメンドウをみなければならぬからだ。つまり、かせいだおかねをハンブンにわけ、プライベートに、ねるのにつかうことになる。かせいだおかねをダブリユ（ウェイジ）とすると、それぞれニブンのダブリユをつかうことになる。ゴハンを食べるのに、いえをイジするのにつかうだろう。こうやってニコのニブンのダブリユがつかわれると、ニコのニブンのダブリユ、すなわちダブリユのブンだけ、またあたらしいジュヨウがうまれるとなる。そうすると、このひとはまたかせげるチャンスがやってくる。

しかし、ジュヨウはダブリユしかない。それでまたダブリユかせげるかという、つとめさきのヒョウヤリエキをだすために、ダブリユブンかせげなくなる（そのブンは、ほかのセイサンユニットにまわる。）。ダブリユマイナスシー（コスト）となってしまうのだ。そのようにまたジュンカンをつづけると、やがて、つかえるガクがすこしずつへっていく。つまり、どんどんビンボウになっているだけだ。

ひとつのカイケツサクは、このひとがチョコキンをすることである。ダブリユのうちいくらかをためておけば、ビンボウにもたえやすくなるだろう。しかし、そのブンつぎのセイサンにまわるダブリユがへっていく。でもキギョウもリエキをだすわけだから（チョコキンとおなじようなものだ。）、それはせめられないだろう。キギョウがリエキをジュッパースセントだすなら、ジュッパースセントチョコキンするといふ。これが「デフレケイザイ」のショウタイかもしれない。リエキをだすことや、チョコキンをすることをやめれば、まあ「デフレ」にはならないが、そうカンタンにいまのやりかたをかえられないだろう。そういうわけで、「ロウドウセンソウ」がつづくのかもしれない。

## ヒャクニ

わたしがわかいころ、ロックバンドにキョウミをもち、カッコウをまねしてブーツをかつた。そのときは、そのキノウがわからず、ソウシヨクのベルトをつけることなどをかんがえていた。あれは、ただかわがながくつかわれているわけではないようだ。ゆきのなかをあるくのにぐあいがよい（ゆきがくつにはいらぬ。）ということだろう。ウエスタンプーツなら、すながはいらぬということだろう。そうやって、カッコウにもイミがあるのだろう。

## ヒャクサン

レンタルやでディブイディをかりてくると、サンビャクエン。それでニジカンテイドたのしめる。ミュージシャンのショウにいけば、ななセンエンとかかかる（そのねだんがバカラしくて、わたしはほとんどいかなぬ）。ホンをかかってきてセンゴヒャクエン。エンターテインメントのねだんは、そんなところだろうか。しかし、「テレビ」というのがある。

ジツはテレビをみるのがイチバンやすいかもしれない。なんかのバングミのセイサクヒがゴセンマンエンだとして、イッセンマンニンがみるとする。それだと、ひとりあたりゴエンである。やすい。コウリツカすれば、やすくなるというが、たしかにそうかもしれない。それをみていれば、あまりおかねをつかわぬだろうということだ。

## ヒャクよん

ゼンチョ『よろこぶゲンシジン』で、オンガクシィディのジッセイカカクは、ニヒャクジュウエンだというシテキをした（●『よ』ハチジュウキウ）。イチネンカンにそれをきくカイスウなどから、そのねだんをはじきだした。

しかし、さきにシテキしたように、テレビバングミがひとりあたりゴエンテイドのねだんとすれば、カカクキョウソウでシィディはまける。だからもっとそのジッセイカカクはひくなるであろうということだ。ジュッキョクでゴジュウエンとかのカカクセツテイがダトウかもしれない。それだと、もののシィディにしたばあいはゲンカわれをおこすので、オンラインハイシンが、やがてシュリュウになっていくようにおもえる。イチジカンひとりあたりゴエンはやっぱりつよい。テツテイテキにシェアあらそいをするのなら、ジュッキョクでゴエンだろう。

## ヒャクゴ

シィディのジッセイカカクが、ニヒャクジュウエン（●『よ』ハチジュウキュウ）、テレビバングミのイチジカンあたりのヒョウがゴエン（●ヒャクサン）。センゴテレビができて、ほぼゼンカテイにフキュウしたという。バングミをみるヒョウがゴエンならケイザイテキだ。

ハチジュウネンダイになってシィディができた。そのまえにレコードやカセットテープがあったが、ねだんはシィディとそうかわりはなかったし、わりとショウスウのアーティストものがタスウうられていたとおもう。カラオケというブンカがあったので（そのばでうたえる、キョクスウにかざりがあった。）、キョクをきいたり、レンシュウしたりするヒツヨウがあった。

おやじもくるまででかけるときは、カラオケヨウのテープをならしていた。わたしもナンキョクかおぼえた。そういうブンカがあったので、カラオケにないキョクがうれるというのはレイガイトテキだったんだろう。しかし、やっぱりヨウガクをきくひともいただろうし、わかものむけのキョクのフクセイをかうひともいただろう。そういうレイガイトテキな、コセイトテキな、キョクもすこしずつうれるようになっていったようだ。それは、ニホンジンがゆたかになってきたこととカンレンしているだろう。

そうした「コセイトテキな」キョクをコウバイするというのは、キュウジュウネンダイおわりまでつづいた。いまもつづいているが、ジッセイカカクがさがっている。それにより、むしろ「セイトウハ」がなんなのかがわかりにくくなった。レイネンダイにはいり、タクサンうれるキョクがすくなくなったからだ。オンガクは、きくひとのこのみで、なにをきくのかがわかれるというようになったわけである。

こういったスタイルをシュウゴウテキに（テレビなどで）テイキョウすることはできない。ヒョウはやすいが、ナイヨウはしぼられるからだ。だから、「コセイトテキな」オンガクをきけるようになったのは、レコード、カセットテープ、そしてシィディのコウセキである。ヒョウをヒカクして、わりだかであるけれども、そういった「コセイトテキな」シュミをもつことができた。そのゴ、ネットワークでのオンガクハイシンがはじまり、シィディのチュウコシジョウがカッパツになり、ドウガダウンロードサイトができた。それによって、あたらしいシィディをかうのがわりだかになった。

ネットワークでかえば、ジュッキョクセンエン、チュウコシジョウでは、ゴヒャクエンテイド、ドウガダウンロードにいたっては、テレビとドウテイドか、それイカのヒョウだろう。だから、シンピンのシィディがうれないのである。ベツのいいかたをすれば、「コセイトテキな」オンガクよりもヒョウをジュウシするようになったのかもしれない。そうしたシコウがもっとすすむと、また「セイトウハ」のオンガクがでてくるかもしれない。ことばはわるいが、まずしいがゆえにである。

だから、しろうとがシィディデビューして、もうかるジダイではなくなった。やっぱり、ひとのセンタクは、ヒョウがやすいテレビか、ドウガダウンロードサービスかになってくるわけである。そういうかんじで、シィディはゼイタクヒンになりつつあるともいえる。シィディがテレビをこえられるかといったら、それはできなかったということである。ディブイディやダイヨウリョウディスクもそんなところだろう。そうやって、

ニホンハツの（シィディはガイコクキギョウとのキョウドウカイハツだが）シィディと、ディブイディと、ダイヨウリョウディスクは、したびになっていく（なっている）のではというところだ。

センシンコクでは、ストックがあるからジジョウはちがうが、これからハッテンするようなくには、シィディなどはまったくうれないカノウセイがある。オンガクやドウガをホゾンするバイタイとして、ドウガはコウガシツならハードディスク、テイガシツならメモリーチップだ。やはり、ハンドウタイがつかわれそうなのである。

## ヒャクロク

テレビバングミのイチジカンあたりのヒョウがひとりゴエン（●ヒャクサン）。これがかんがえると、ホンなんかも、うれなくなるだろうことは、ソウゾウがむずかしくない。タンコウボンでセンゴヒャクエン、ゴジカンでよむとすれば、イチジカンあたりサンビャクエンだ。テレビのロクジュウバイ。チュウコシジジョウもできたから、サンビャクエンくらい、イチジカンあたりロクジュウエンでもたのしめる。また、ネットワークでのよみホウダイサービスもある。それをつかえば、もっとやすくてのしめる。

ホンもテレビテイドにやすくないから、くろうとむけのセイヒンといえるかもしれない。まちのホンやがすくなくなっているから、やっぱりこれもうれなくなっているんだろう。そして、ひとが「コセイ」より「カカク」をジウシするならば、また「セイトウハ」ばかりがうれるようになるかもしれない。そのほかのショセキは、あかじだけど、がんばってハンバイしていますとなるだろう。

しかし、つくるホウも、あかじではおもしろくないので、カカクをさげたり、つくるためのコストをおさえたりするようになる。いってみれば、テレビやドウガダウンロードサービスにくらべて、キョウソウリョクがないといえる。ホンは、カカクをイジするキセイがある。もはやそういうキセイをしてもしょうがないのであろうが、シャヨウサンギョウをホゴするようなセイサクがとられるかということ、どちらかということ、ヒョウゲンをキセイしているといわれるくらいだから、ケイザイテキなホゴはしないだろう。そうすると、シュッパンギョウカイゼンタイが、いきのこりをかけて、なにかをしなければならぬ。やっぱりホンはいいとおもうなら、テレビにうちかてるようなしくみをつくっていくといいかもしれない。

それにしてもわたしは、シィディもそうだし、ホンもそうだ。シャヨウサンギョウがすきなようだ。いまのところ、カカクをやすくするくらいしかおもいつかないが、やはり、デンシカがひとつのキーワードとおもえる。インサツのヒョウだけでスウヒャクエンになってしまうからだ。ギャクにヨーロッパのむかしのホンのように、かわばりにしてコウキウロセンをめぎすこともできそうだが。ほかには、ホンのシュッパンではもうからないが、オンガクのように、ショーでもうけるというシュホウもありそうだ。

## ヒャクハチ

うなぎがゼンメツしそうという。しかしながら、たべるニホンジンはおいだろう。よ

くいうケイザイガクは、キョウキュウがへると、カカクがたかくなってジュヨウがへるといふ。だから、ゼンメツはしないはずである。しかしどうも、カカクがたかくなっているからと、うなぎをとって、もうけようとするひともいるんだろう。だからやっぱりゼツメツしそうとなる。

あるセイヒンについてもおなじことがいえる。カカクキョウソウして、なにかがおトクなねだんだったりすると、どっさりかいはいる。そうすると、やっぱりゼツメツのキケンがでてくる（トウサンのキケンということだ。）。カカクをあげても、ドウシュのものをつくっているギョウシャがでてくるから、そうそうあげられない。それであかじがこんでいく。

だから、あるセイヒンをケイゾクコウバイしたいというのなら、フツウのカカクでかうことがダイジだといえるだろう。そうじゃないと、ゼツメツしてしまうからだ。ジブンのリエキもダイジだが、つくるホウのリエキもダイジなのである。

#### ヒャクキュウ

わたしがわかいころは、おちやのみずによくいった。ガツキやと、シィディヤがあるからである。ガクフをかったり、キザイをかったり、シィディをかったりした。おちやのみずイガイにもガツキヤはあるが、そこがイチバンかずがおおいからである。トクにチュウコでなにかかおうとおもったら、そこにいくのがもっともてっとりばやい。シンピンなら、ほかのガツキヤでも、とりよせてもらえるだろうからだ。シィディもほかでうっていないわけではない。しかし、ヨーロッパのムメイのアーティストのシィディをかおうとおもったら、やっぱりそこにいけば、ダイタイてにはいる。だからよくかよったものである。

しかしいまは、ネットワークのハッタツで、エンカクハンバイしてもらえるし、コジンカンのバイバイもできるようになった。だから、メッキりいかななくなってしまった。ベンはベンリだが、あそびのヨウソがへってしまったかもしれない。そんなかんじだから、デンキヤにもあまりいかななくなった（シュミだったのだが。）。それなのに、デンキヤが、かずをふやしているというのは、よくわからないが。

#### ヒャクジュウ

はるがやってきて、むくどりがうちのとぶくろをみにきた。ジュウイチネンまえはそこにすをつくった。ヨウするに、すをえらんでいるわけだ。ひながかえるのは、ゴガツゲジュンくらいだから、まだはやいといえばはやい。しかし、むくどりもそうやってがんばっているわけである。キョネンもみにきたが、すだったあとにかたづけるのがメンドウなので、あえてカイホウしなかった。しかし、コトシは、まあいいかとおもっている。ニンゲンもいえがヒツヨウだろうが、とりもヒツヨウなのである。

## ヒャクジュウイチ

セカイのなかのただひとりのファンがいるサクヒンよりも、タスウのファンがいるサクヒンのホウがえらいといえるだろうか。シャカイへのコウケンドでいえば、コウシャのホウがあるかもしれない。だからといって、コウシャのホウがえらいとはいえないはずだ。なぜなら、ケツコンはひとりとひとりのカンケイになるわけだからだ。つまり、ひとりタイタスウですするというケツコンはいまのところない（ヨニンくらいまでするところはあるが。）。だから、サッカなんかも、おおうれしようとしなくていいのかもしれない。だれかがよろこんでくれればいいわけだから。

## ヒャクジュウニ

カクサシャカイというと、ヒハンがおおいから、わるいことのようにもおもう。かねもちばかりが、けしからんとか。しかし、「カクサビジネス」（カクサをつかったビジネスではなくて）、というとしょうがないとおもう。もうけているキギョウばかり、けしからんとはいわない。

なぜそうなのか。かぶなどがあるからだ。つまり、かせいでいるカイシャのかぶをもっていれば、シサンがふえるし、ハイトウももらえるからだ。だから、けしからんというより、かぶをもてばいいとなる。サイキンはコジンもかぶのようなものをハッコウできるみたいだから、かせいでいるひとのかぶをかえばいいといえるかもしれない。それなら「カクサシャカイ」も「カクサビジネス」なみになるかもしれない。かぶをケンキュウしたり、ジュウにバイバイできるひまはあるだろうと。

## ヒャクジュウサン

チョキンや（キギョウの）ナイブリュウホにかねをつかうことが、デフレのもとだとかいた（●ヒャク）。タンジュンなケイサンのモンダイだ。しかし、それをフケイキだともいったりする。そういわれるとセーフはコウキョウジギョウをはじめめる。たしかに、そのブンしごとはふえるだろう。しかし、セーフがかねをだしたってせいぜいジュツチョウエンだ。それに比べ、チョキンはけたちがい、キギョウのナイブリュウホもけたちがいだ。だから、それらがでてこない、ホントウのコウケイキにはならない。

だからといって、かねをつかうかといったらうたがわしい。だから、インフレをうながすようなセイサクをとる。そうすると、チョキンなどが、ジツシツねべりするからだ。しかし、チョキンがアクなのか。そういうことをしないと、くるまもいえもかえないようなきがする。「チョキン」をするでなくて、「キンユウショウヒン」をかうといえればいいのか。リエキやチョキンをみとめるシャカイでは、デフレがトウゼンなのだ。

## ヒャクジュウよん

インフレのケネンがあるからチョキンをしづらい。デフレもよくないといっている。し

かし、それができないと、こどももつくりづらいただろう。ケッコンだってみえをはるなら、シキのヒヨウなどがかかる。イッカゲツブンのキュウリヨウでできるものでもない。だから、ショウシカタイサクとしては、デフレロセンでいいはずだ。ガクメンとカチのサがきになるなら、デノミをすればよい。

しかし、デフレをとめようとする。ヨウするに、ショウシカより、ブッカのゲラクのホウがモンダイというわけだ。だから、ショウシカタイサクといっても、リベンセイのカイゼンテイドになってしまうのだろう。そうすると、ロウドウリョクブソクになるから、ブッカはあがりますねとなる。とはいえユニウヒンがあるから、そうはあげられない。だから、もっとロウドウがカコクになる。それでロウドウキセイをしたら、ますますユニウヒンがつよくなる。それなら、インフレにしないホウがいいんじゃないのとなる。そういうロウドウセンソウがジュウゴネンほどまえからはじまったのかもしれない。たまたまかいたひともいるだろうから、イチリツでロウドウキセイするのではなく、ジュウにえらばせたらいいとおもう。ロウドウのジュウ、ザンギョウのジュウである。

#### ヒャクジュウゴ

なんとなく、シィディなどのサクヒンは、タクサンうれればいいのだとおもっていた。タクサンうれたホウが、おおくのリエキをえられるというもある。またおおくのひとに、コウケンしていることにもなる。しかし、おおぜいのひとのほかに、そのたのひともいる。

サイキンおもったのは、おおくのひとにあいされるのをゼンテイにするのではなく、ショウスウのひとをたのしませることが、ダイジなのではないかと。ケッカとして、タクサンうれるのはしょうがないが、そんなにうれなくても、ショウスウのひとをマンゾクさせればよい。だから、サクヒンをやすうりしてまで、おおくのひとにシントウさせなくてもいいとおもうようになった。シィディのジッセイカカクはゼンチョのケイサンだと、ニヒャクなエンだが（●『よ』ハチジュウキュウ）、それよりもひくい、サイやすねでショウブするのではなく、そこそこのねだんでかってもらえばいいと。ベツにジブンをゼンメツさせるヒツヨウはないのである。タイテイのアーティストはそんなところでないか。

#### ヒャクジュウロク

ウンコはベンジョからながすと、ゲスイカンをとおってかわへながれる。トチュウゲスイショリジョウもあるだろう。そして、うみにながれつく。ウンコはノウギョウのヒリョウとしてもちいられていたから、ショクブツむけのエイヨウが、うみにながれることになる。そうすると、わかめやのりがおいしくなるであろうか。

わたしは、サイキンのりがおいしいとおもう。たまにショクブツプランクトンのイジョウハッセイがあるが、うみにウンコをながすからであろう。しかし、わかめやのりばかりがおいしくなってもしょうがないとおもう。ハクサイやダイコンもおいしくなってくれないとこまる。

もし、さかなとカイソウだけをたべていきるなら、いまのウンコのショリはゴウリテキだろう。しかし、こめもたべるし、ギウニクもたべる。それなら、すくなくとも、ウンコのハンブンはノウギョウにつかったホウがいいだろう。うみにながすのはハンブンでいい。もしくは、セイブンによってしわけをしてもいいかもしれない。うみのものだったらうみへ、リクのものだったらリクへと。カテイでそれをやるのはコンナンだろうから、ゲスイショリシセツがやるといいかもしれない。ウンコもシゲンということだ。

#### ヒャクジュウなな

タイヨウはうずまきリョク（あたりのものをカイテンさせる）がある（●『ア』ヒャクロクジュウサン、ニヒャクサンジュウ、『む』ハチジュウハチ、『よ』ヒャクハチジュウサン、ホンブンハチ）。だからチキウがコウテンする。しかし、チキウにもやはりうずまきリョクがある。つきがまわるからそういえる。うずまきリョクとはなんなのか。わたしは、もえることのケッカだとおもう。タイヨウはもえている。チキウもまたナイブではもえているとされる。たまにフンカするのがそれだ。よく、「とんでひにいるなつのむし」という。ひのあたりにいるむしが、ひのなかにはいつてしまうということばだ。このように、ニンゲンにはかんじづらいが、ひのホウにながれるうずがあるのではとおもう。それならチキウも、のまれちゃうではだが、ひかりなどのアツリョクで、セッキンしないものとおもわれる。

#### ヒャクジュウハチ

タイヨウケイはやがてタイヨウがブラックホールカシ、いろいろブッシをひきよせてサイセイをはかる（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『よ』ヒャクハチジュウよん、ホンブンニジュウよん、ななジュウゴ、キュウジュウイチ）。そうなるとチキウにすむニンゲンもよばれるわけだが、おとなしくネンリョウになるだけでよいのだろうか。セツカクきずいたブンメイも、チキウごとネンリョウにされては、もはやつづかない。にげていきのびるにせよ、なにもないところからまたはじめなければならない。それでいきのびられるかはフメイだが、そうすることもできる。どこかケイトウガイのワクセイにふたりのニンゲンをおくりこむ。そのふたりがいきのこるかはわからないが、それはまるでセイショのはなしのようである。ふたりがいきのこれそうなところをさがして、おくりこむのもいいかもしれない。これがはじめてかはわからないが。

#### ヒャクジュウキュウ

ひかりはなぜすすむか。なにかうごきだすきっかけがあるのだろう。また、そういうきっかけとはベツに、ひかりがイドウすることによる、ベツのものイドウもおこっている

のではないか。タンジュンにいえば、カイチュウをふねのドウタイがイドウして、みずがふねのシンコウホウコウとはギャクにイドウするというぐあいである。そうだとしたら、わたしたち、なのかだが、は、ひかりをえるとドウジに、なにかをうしなっていることになる。それがなんなのかわたしはいまのところわからない。

#### ヒャクニジュウ

シヨクリョウをいれるたなにケッピンがでるごとに、かいにいてホジュウするようにしていた。そのまえは、たななどつかわずに。たべるものをたべるブンだけかかってきていた。ホジュウするくせがつくと、かいものに行くカイスウをへらしたりできる。メンドウくさいときなどにかいものにかなくても、かいおきをつかってたべることができる。それはベンリである。だから、そういうたなとしてレイゾウコをつかっているのかもしれないが、そういうたなはジュウヨウなのだ（ジョウオンホゾンのもののホウがながもちしたりするだろう。）。

それをおぼえたので、つぎはおかねをいれるたなをとおもっている。おかねがたなにみたされていれば、タブンこまることはすくないだろう。チョキンバコがあるが、だしいれジュウなホウがいい。ものがたまれば、ショウテンができるかもしれないが、おかねがたまると、ギンコウができるかもしれない。

#### ヒャクニジュウイチ

わたしはうたのヒョウゲンギジュツをあまりきにしたことはなかった。せいぜいこえをおおきくすとかそんなテイドだ。しかし、うたをチュウイぶかくきくと、うたにもギジュツがあるのだとおもう。そういうテンでわかいひとのうたはタンチョウだ。わたしがおもったように、こえのおおきさぐらいしかかんがえていないのではないか。それにわりとあかるいかんじでうたってしまう。しかし、エンカカシュなどはくるしいおもいだの、かなしいおもいだの、あかるいだけでなく、いろいろなシンジョウをヒョウゲンする、そのシンジョウはタブンそのカシュのケイケンなのだろうが、そういううたをきくと、いいなとおもう。だからか、サイキン、わかいカシュのうたはきかなくなった。あまりキョウカンできないからだ。「こぶし」なんていうが、やはりニンゲンミがダイジだとおもう。それをキカイにうたわせるのはむずかしいだろう。

#### ヒャクニジュウニ

たまにヒツヨウでないものがかってしまうことがある。たまにではないかもしれない。ものだからスペースをヒツヨウとする。だからうまくハイチしないと、ヘヤがちらかってくる。うごけるハンイもせまくなる。きづくとそれはバカらしいとおもう。うまくかた

づけられたとしても、ロウリョクをヒツヨウとする。ものをつかってというより、ギャクにつかわれてしまう。それならムダなものをかかわなきやいいのだ。かわりにジョウホウなどどうだろう。それもタクサンシュトクすると、セイリがタイヘンだし、ヘンにエイキョウされてしまうこともある。しかし、ヘヤはちらからない。どちらがいいだろうか。

#### ヒャクニジュウサン

むかしはかいものといったら、ものをうっているところにいて、チョクセツとりひきすることでしかできなかった。しかし、いまはカタログをみながら、デンワでかえる。ファックスでかえる。さらにガメンをみながらパソコンでかえる。これはどういうことか。ショウとりひきのキョリがちぢまったのである。むかしは、あるいて、くるまで、デンシャでジカンをかけてみせまでいったが、いまはゴビョウあれば、ショウテンにアクセスできる。かなりのジカンのタンシュクである。それならとりひきもカップツになり、ケイキもよくなるかもしれない。

しかし、もちがねイジョウに、おかねはつかえないので、あるテイドまでだろう。そんなだから、キゾンのショウテンはなかなかクセンするのではとおもう。コウバイシャがジカンをかけて、でかけなければならないからだ。うりてにとって、もっともチュウモクされるのは、ケイタイデンワをつかったとりひきだろう。もっとも、かいてにちかいというイミで。

#### ヒャクニジュウよん

シカクいかたちのトシはあるが、まるいトシはむずかしい。とまえにかいた（●『よ』ヒャクニジュウイチ）。まるいトシのホウが、いえのハイチがチュウシンからのキョリでというテンで、わりとジョウズにジョウホウショリされそうだからチュウモクした。たとえば、くらいジュンにうちがわから、そとがわにいえをハイチするということである。しかし、まるいトシにシカクのいえをたてるのはムダがおおい。それをカイケツするホウホウがある。それは、まるでなくロツカッケイにするのだ。それならスペースのムダはほとんどない。ただ、みちをくねらせなければならないというケツテンはある。

#### ヒャクニジュウゴ

パイナップルはおいしい。ナンボウでとれるカジツである。ニホンではおきなわでとれるらしいが、むかしはめずらしかった。ダイタイカンづめでそれをたべた。かんのなかにシンをぬいたパイナップルのわぎりがはいつているのだが、それをたべるのはたのしみだった。なぜパインアップルというか。みのブブンのガイケンが、まつのみ（パイン）ににているからだろう。まつのみみみたいなリンゴというわけである。かといってまつからとれるわけではない。

## ヒャクニジュウロク

ニホンでは、「チュウリュウ」のカテイがおおいなどという。このチュウリュウというのは、かわのチュウリュウにすんでいるというイミではなく、シサンがヘイキンテキにもたれているというイミであろう。シサンテキなイミでの「ジョウリュウ」というと、もうとんでもないかねもちである。そういうカテイはニホンではすくないから、あまりはなしにならない。

そのギャクに、サイキン、シヨクジをマンゾクにたべられないカテイがふえているときく。そういうひとは、「カリユウ」であろう。「チュウリュウ」がおおいとされていても、ジッサイのところは、そんなかんじかもしれない。ヒセイキコヨウもふえているだろう。ロウドウシャのサンブンのイチイジョウがヒセイキコヨウという。タンジュンにえば、セイシャインよりタイグウがわるいということだ。わたしもケイケンがあるが、やはりタイグウはよくなかったりした。たべられないほどではないにせよ、それで「チュウリュウ」といえるか。タブンいえないであろう。そうすると、いまは「カリユウ」のカテイがふえていることになる。

そんなときに、ニホンはチュウリュウだということ、それはあたらならない。いまのところ、そういうロンチョウはきかないが、レトリック（ごまかし）として、「チュウリュウ」ということばがつかわれるカノウセイがある。そうしたら、ニホンはまあゆたかだとごまかしやすいということだ。

## ヒャクニジュウなな

イシヨクたつてエイジョクをしるという。きるものとたべるものがたりて、メイヨと、はじをしるということだ（●『ア』ななジュウハチ、『む』ななジュウロク、『よ』ヒャクゴ、ニヒャクニ）。ほかにすむところも、しごともダイジだろう。そのほかにシュミのかいものやニチヨウヒンをかったりする。シュミのかいものはゼイタクかもしれないが、まあ、しごとイガイにジカンがあればかったりもするだろう。テレビやオーディオもそうだ。コンピューターネットワークがハツタツしたとはいえ、まだまだテレビはヒツジュヒンのようにかんがえられている。

ニチヨウヒンなどをおおめにかうとどうなるか。「ストック」するともいうが、「ストック」とはためるということである。「ストア」ともいう。これはショウテンなどのなまえにもつかわれることばだ。つまり、なにかをためていると、「ショウテン」になるということだ。いまでは、コンピューターネットワークをつかって、しなものをバイバイしているひともおおいだろう。そうやってなにかをためこむと、しごとになったりする。さきにいったすむところについては、なんとかしなくてはならないが、しごとについては、このようにためこむことでショウテンとなる。だから、ショウヒンたつてエイジョクをしるともいえそうなのである。モチロン、ハンバイのギジュツなどは、かかせないであろうが。

## ヒャクニジュウハチ

ザンギョウをおおくするのがモンダイにされてきているが、ザンギョウのジユウ、ロウドウのジユウ（●ヒャクジユウよん）があってもいいとおもう。つきにヒャクジカンのペースでザンギョウをすると、さすがにヒロウがたまってくる。それがつづく、はたらくのがいやになってくるだろう。ジサツするひともいるとおもう。しかし、つかれたらつかれたで、やすめばいいのにおもう。タブン、それがしづらいからモンダイなのだろう。いじめもそんなところだろうが、ドウチョウアツリョクというモンダイだ。

うまくやすみをとるためには、そのためのリユウがヒツヨウかもしれない。カイシャにイシをおくのは、やりすぎかもしれないが、カクトウギのシアイのように、メディカルノックアウトとか、テクニカルノックアウトをドウニユウすればとおもう。つまり、シンパンのようなひとが、テクニカルザンギョウアウトをセンゲンするわけだ。そうするとやすめると。そうやってうまくやることもできるだろう。ザンギョウしているひとのあいだでトウバンをきめて、シンパンをさせればよいのである。

## ヒャクニジュウキュウ

「センセイ」のしごとは、なにかチシキやギジュツをセイトやデシにおしえることか。どうもそうでないようにおもうのである。そういうチシキやギジュツをおそわったって、そのひとにとってやくにたつかわからないのである。よのなかには、いろいろなブンや、しごと、セイカツがある。そののなかのひとつをおしえても、かならずそのひとにマッチするとはかぎらない。

「センセイ」がなにをおしえるのかということ、いきかたなのではないかとおもう。だけど、センセイジタイはこまかいいきかたをおしえたりしない。そんなことをおしえたって、おしえられるひとが、ナットクするかわからないのである。しかし、センセイが、いいきかたをすれば、セイトとかデシは、それをまなびたいとおもう。ジッサイにことばや、てほどきをうけられるわけではない。セイトとかデシがカッテにまなぶのである。いまのニホンはまだまだいいセンセイがいるとおもう。いいセイトやデシがそだっているからである。センセイジタイがよかろうと、わるかろうとカッテにまなぶ。まだまだだとおもうが、このさきはわからない。あなたもひとつの「センセイ」になっているわけだ。

## ヒャクサンジュウ

むかし、わたしがでかせぎにっていたときに、よくやさしいキョクチョウ（うたいあげるブルース）のようなキョクをこのんできいていた。なにかやすまるからだ。しかし、ゴネン、ジュウネンたって、そのキョクチョウでうたうカシュがふえても、わたしはヒョウ

カしなかった。もっとテンポがあるうたがいいなどとおもっていた。しかし、ザンギョウがふえたときに、むかし聞いたそのカシュのうたをきくと、やっぱりいいとおもった。それでそうかときづいた。

そういうキョクチョウがはやるのは、ロウドウでヒロウしているひとがおおいのだと。そういうカンテンからのみかたがたりなかった。わたしジシンがほどほどにしごとをしていたから、きづかなかったのだ。やっぱりそういううたはヒツヨウであろう。

#### ヒャクサンジュウイチ

いいしなものはいい。わるいしなものはわるい。ニンゲンのカッテなみかたかもしれないが、アンガイそれは、ほかのひとにもつうじる。なぜいいかというセツメイはむずかしいが、そのいいものは、ダイタイそのブヒンからいいものであるとおもうのである。うたのレイでいえば、いいうたは、カシヨウもいいし、カシもいいし、ギターもいい、ベースもいい、ドラムもいいのである。つまり、いいブヒンのカジュウコウカによって、「いい」しなものができるといふわけである。

だから、なにかいいヒョウカをうけられないのだったら、ブヒンをよくすると、「いい」しなものになるだろうとおもう。ブヒンづくりがダイジなのである。ニホンキギョウは、くみてるサイシュウセイヒンがよくなったといわれるが、ブヒンでさがつかなかったのだろうとおもう。ベツのくにのメーカーが、おなじブヒンをつかって、いいセイヒンをつくれるようになったからだろう。

#### ヒャクサンジュウニ

イシキがあるのがさきなのか、もの（からだ）がさきなのかというモンダイがある。しかし、だれかのイシキをカンサツすることはコンナンだ。しゃべればカンサツはできる。しかし、それでは、どちらかということとはわからない。とりのカンサツから（●『よ』ヒャクよんジュウ）、どうもイシキがハッタツするのは、あとになってというのがわかる。なきごえにカンジョウがはいるようになるからだ。だから、おとなのイシキは、ジョジョにそだっていくのだろうことがわかる。

しかし、おとなのイシキのミホンがなければ、おとなのイシキはそだたないだろう。オオカミにそだてられたニンゲンのこどもは、ことばをしゃべらなかつたというからだ。とすると、イシキというのは、コウテンテキにハッタツしたのかもしれない。しかし、どのイシキもないジョウタイをカンサツできないだろうから、イシキがあとなのかはショウメイできない。ひとりのニンゲンのセイチョウとしてはあとなのだろうといえるが。

#### ヒャクサンジュウサン

「いぬもあるけばボウにあたる」という。わたしのわかいころは、ショクリョウをかうのをおさえて、シィディをかっていた（●『む』ヒャクロク、『よ』ヒャクサンジュウロク）。おかげでやるきがすくなかった。いまかんがえれば、ショクリョウはダイジにしななければならないとおもう。しごとができなくなるからだ。だから、わたしのわかいころのようにするのをスイショウしない。

しかし、それでよかったとおもえることもある。ニホンのポップスからかい始めて、やがてロック、ヨウガクをかうようになった。はじめのうちは、わりとなのあるロックオンガクのものを買っていたが、イッカイジャケットがい（シィディのヒョウシのえをみてかうこと）でこのみのオンガクにめぐりあえたことから、あまりユウメイでないアーティストのものをかうようになった。たとえていえば、ニホンでセンマイうれるといったようなものだ。そういうものをかって、センキュウガンというかを見がけたためか、ショウスウハのシュチョウをしたため、めずらしいものにエンができたのか、そういうノウリョクがしごとにやくにたっているのである。タンジュンにいいかえると、へそまがりのノウリョクだが、あまりひとがいわないことをいってもヘイキになった。

ドウチョウアツリョク（ひととおなじようなことをユウキュウすること）がつよいときれるニホンでは、ひととちがうことをするのは、ユウキがヒツヨウなのではないかとおもうが、そういうイッパンからはずれたことをしてもヘイキになった。「コセイソウチョウ」というおいかぜがあったかもしれない。そういうわけでめずらしいものをつくっていたりする。しかし、イッパンテキなものとかをヒテイするわけではない。それもわかったホウが、はなしがすすむからだ。そういうわけで、シィディあつめもよかったとおもうのである。

#### ヒャクサンジュウよん

ニホンのセイゾウギョウはいいものをつくるという。ケイタイガタのオンガクサイセイキはかなりうれたときく。しかし、デンキキギョウについていえば、サイキンいいはなしをあまりきかない。ブランドなのだろうが、ほかのくにのメーカーがつよくなったりしているそう。

なぜ「ブランド」としてセイリツしづらいか。それは、テレビブンカとカンレンするとおもう。テレビにはコウコクがあたりする。そのコウコクでおおぜいのひとに、セイヒンをうったえるわけだ。しかし、コウコクでうったえたものがしなぎれでは、カッコウがわるいのでおおめにつくる。フツウのデンキやだとせまいから、そんなにザイコをおけない。だから、リョウハンテンでうるわけである。リョウハンテンだと、となりにほかのメーカーのドウシュセイヒンもならぶから、カカク、セイノウなどがヒカクされる。だから、キョウソウになる。

それで、ねさげをすれば、うるかもしれないが、やすいがキーワードになり、ブランドとしてのイゲンをたもちづらい。だから、テレビブンカがつよいくには、メーカーがブランドとしてセイリツしづらいわけである。ブランドよりやすさでショウブとなりがちだろう。コンピューターネットワークがフキュウして、テレビのちからがよまっ

たとはいえ、リョウハンテンがつぶれたとはきかない。だから、そのケイコウはつづくだろう。ハンメン、ヒヤッカテンがよわくなったとき。ニホンでおおくもとめられているのは、ブランドより、やすさなのだろう。だから、ブランドがセイリツしづらい。

#### ヒヤクサンジュウゴ

マルクスシュギによって、シャカイシュギコッカがつくられたという。マルクスはシホンカによるロウドウシャへのサクシュがあるといたらしい（ドイツゴであのながいホンをいまよめるきがしない。）。たしかに、デフレケイザイがすすむなかのロウドウシャとしてはそうおもったりする。セイカクにいうと、「そうかも」だ。なぜか、キュウリョウがやすいからではない。まえにもいったように（●ヒヤク、ヒヤクジュウサン）、デフレというのは、キギョウのリエキやロウドウシャのチョキンによってショウじるからだ。「デフレ」というと、そのジョウタイはセツメイされるが、そのゲンインはセツメイされない。たとえば、キギョウが、マルクスフウにいえば、「シホンカ」だ、リエキをためこむことによって、ロウドウシャにまわる、もっといえば、シジョウにながれるおかねのリョウがへる。そのしはらわれたキュウリョウでなにかをかって、キギョウはまたセイサンする。しかし、うりあげは、まえのダンカイでとったリエキのブンだけへる。キュウリョウのブンしかかわれないわけだからそうなる。そしてまた、リエキをとれば、またシジョウにながれるおかねがへる。そうやってデフレがすすむわけだ。だから、キギョウによるリエキのカクホ、シホンカによるサクシュがあると見えるわけだ。ロウドウシャのチンギンはさがるわけだから、ロウドウシャはタイヘンだ。だからその「サクシュ」をにくんだりするだろう。

しかし、イッポウでマルクスのシュチョウをしっているニホンのコウレイシャは、「サクシュ」があるのはしかたがないとかがえたのか、「チョキン」をよくしたのだろうとおもう。いってみれば、ちいさなロウドウシホンカになったようだ。チョキンもやはり、シジョウにでまわるおかねがへってしまうわけだから、デフレがシンコウする。そうやって、シホンカのジダイがつづいている。

おやコウコウというブンカがあってか、そのチョキンはあまりどうこういわれないが、ロウドウシャにとっては、サクシュともいえるだろう。だから、シャカイシュギコクでは、そういうジタイをカイショウしようとするだろう。しかし、ニホンでは、それはいまのところされていない。だから、シャカイシュギっぽくても、シホンシュギのくんであろう。コンゴはどうなるかわからないが、こどもにイサンがソウゾクされるわけだから、とりあえずは、シホンシュギがつづくのであろう。ジブンもサクシュをするようになったのがニホンのマルクスシュギかもしれない。

#### ヒヤクサンジュウロク

センセイがおしえてくれるのは、ギジュツでもチシキでもない。ムゴンでいきかたをお

しえてくれる（●ヒャクニジュウキュウ）。そういうキョウクンのようなものはヒテイできない。なまみのセンセイのはなしは、ヒテイできるけれども、ムゴンのおしえにさからうということは、ジブンのカンカクにさからうということだからだ。センセイをしらなければ、ひととつきあうのがよいだろう。そうすると、ムゴンのおしえをえられるだろう。だから、あるテイドひととつきあったホウがいい。ガッコウにいくだけではないとおもう。

#### ヒャクサンジュウなな

わたしはコウコウセイのときにオーディオコンポをかってもらった。シィディラジカセがあるのにもかかわらずである。シィディラジカセは、ともだちのいえでみていいとおもった。コンポもおなじリユウだ。いまかんがえれば、シィディラジカセがあるからいいではないのだが、カッコよさとキノウにひかれた。

なぜ「コンポ」というかという、「コンポーメント（コウセイする）」だからであろう。それぞれがブヒンとしてコウセイされるということだろう。ハチジュウネンダイぐらいまでのコンポは、よこはばがながかったが、キュウジュウネンダイのものは、よこはばがロクわりほどになっていた。むかしながらのそれは、ブヒンをオーディオケーブルでつないでコウセイした。そういうブヒンのあつまりだから、そのうちイッコがこわれても、ベツのなにかにとりかえればよかった。いってみれば、ベツのメーカーのブヒンでもモンダイない。

しかし、キュウジュウネンダイのそれは、ブヒンにわかれているのだが、コンピューターヨウにつかわられるようなケーブルでそれぞれをつなぐ。システムコンポなどともいわれた。つかっていてきづいたのは、どれかひとつこわれても、ダイタイがきかないケツテンがある。おなじメーカーのあたらしいブヒンでもだめなのだ。そのカタバンのブヒンでなければならない。

いまおもうと、むかしながらのものにすればよかったとおもう。ただ、そのブンレンドウキノウがハツタツしていた。リモコンソウサはモチロンだし、シィディからのロクオンがカンタンだったり、オンシツをかえてロクオンできたりもした。トクにわたしは、グラフィックイコライザーにカンシンがあった。オンイキごとにオンリョウをジョウゲできるキノウだ。シィディラジカセのときもそうだった。それでおとをこのみにあうようにかえるのである。そういうしくみがセイヒンのキノウである。わたしはセイヒンのコウゾウテキなカッコよさもきにしていたが、そういうキノウがいいとおもった。ハチジュウネンダイまでのコンポは、そういうキノウメンはあまりめあたらしいものはなかった。グラフィックイコライザーもあったが、ひとつのブヒンとしてである。だからそういうブヒンをベツにでもかってきて、セツゾクすればよかった。そういうかんがえかたがコンポのキホンセッケイである。

しかし、システムコンポはイッコがこわれると、ほかのブヒンもうごかなかったりする。だからメンドウなのである。いまでは、むかしながらのコンポにすればよいとおもっているが、まっペンキョウになった。それと、ロクわりほどのおおきさになったが、それ

でもおおいのがナンテンだろうか。そうおもうひとがおおかったからか、キュウジュウネンダイコウハンには、ちいさいコンボがでてきた。ふつうのコンボのニわりテイドのはばである。しかし、セツゾクをみると、そもそもブヒンがイッタイガタになっていたり、やはりコンピューターヨウのセツゾクだ。コンボというがもはやラジカセとかわらない。コウカンできなければ、コンボのイミはあまりない。

わたしのは、アンプのブブンがこわれて、イッカイシュウリした。それからまたこわれて、しばらくほうっておいた。このまえチュウコのブヒンをみつけてとりかえてみたら、シィディイガイはうごいた。だが、ブヒンをみつけるのもタイヘンである。フツウはシュウリするようだろう。そのネンカンのイジヒは（カカクわるシヨウネンスウ）、イチマンヨンセンエンほど。チュウゴクセイのラジカセが、サンネンつかえて、ネンカサンゼンエンほどだから、オンシツにこだわらなければ、そちらのホウがダンゼンやすい。そういうケイサンもある。わたしはセイヒンのキノウにひかれたが、そもそもセッケイ（ブヒンがコウカンカノウ）というコウゾウをかんがえなければだめだとベンキョウになった。

#### ヒャクサンジュウハチ

まえにシィディのジッセイカカクのはなしをした（●『よ』ハチジュウキュウ）。そのケイサンだと、イチマイあたりニヒャクジュウエンほどだ（ゲンカではない。）。また、テレビのイチジカンあたりの、またひとりあたりのヒヨウをケイサンした（●ヒャクサン）。それだと、イチジカン、ひとりあたりゴエンだ。そのケイサンだと、シィディをかって、ナンカイもきけるのはつよみだが、ヨンジュウツカイはきかないと、テレビなみのコストパフォーマンスにならない。つまり、そんなにきかないようなシィディはテレビにかたないということである。だから、オンガクをやるひとは、テレビとなかよくしていたのだろう。

ニセンネンダイにはいて、コンピューターネットワークをつかって、オンガクをかうことができるようになった。それでモンダイになったのが、そのカカクだ。ユウメイなキギョウがイッキョクあたり、ヒャクエンほどのカカクにしたらしいからだ。なぜモンダイかというと、ニホンでは、あいかわらずシィディイチマイ サンゼンエンでうっていたからだ。ジュッキョクシュウロクされているとして、イッキョクあたりサンビャクエンだ。それをヒャクエンだとリエキがへるというわけだ。だから、それにドウチョウしなかったキギョウもおおい。しかし、そのころから、シィディのうりあげがおちはじめたという。シィディがうれなくなったのである。イチマイブンでセンエンなら、そのホウがやすい。

しかし、まえにいったように、シィディイチマイのジッセイカカクはニヒャクジュウエンである。チュウコシジョウもあるのだ。だからまだまだカカクがチョウセイされるかもしれない。ニセンジュウネンごろにトウジョウしたのが、オンガクききホウダイサービスだ。それだと、ゲツガクセンエンほどで、イチエンで、レイテンななニジカン、ヨンジュウブンほどきけることになる。イチジカンでイチエンほどではテレビよりやすい。それならますますシィディはうれないはずである。イッキョクヒャクエンだっとうれな

くなるだろう。いまは、イチジカンあたりイチエンでたのしめるジダイなのだ。テレビもやはりよわっていくだろう。

つくるほうとしては、ひとりイチジカンイチエンのうりあげで、たえられるコストコウゾウがヒツヨウだろう。そんなことはヨウイではない。ギターをかえばニジュウマンエンするし、コンピューターをそろえてもニジュウマンエンかかる。それをショウキヤクするにはヨンジュウマンダウンロードがヒツヨウになるのだ。ヒヤクマンダウンロードをこえればなんとかやっていけるかもしれない。

#### ヒヤクサンジュウキユウ

イッコオンガクセイヒンのねだんが、イチジカンあたりイチエンとケツロンして(●ヒヤクサンジュウハチ)、わたしはためいきをついた。とてもオンガクでシュウエキをだすのがむずかしそうだからだ。でも、いままでとりこんでいたことは、やりたかったことだからしょうがない。フツウはもっとはやく、そのむずかしさをしるんだらう。

わたしがすきだったのは、いまでもそうだが、ロックである。ロックというと、わかものハンコウみたいなイメージもある。わたしがやっていたことも、イッパンからみれば、わかものハンコウだったのだらう。そういうわけか、おやじがわたしとはなしていたときに、ためいきをついていた。わたしがおもうには、こどもがうまくしごとをしてくれないということであらう。わたしがためいきをつくようになって、そのイミをしるにいたった。ロックでもイッテイのシジをえられれば、たべていけるであらうが、フツウは、「いいカゲンにしる。」なのだらう。

#### ヒヤクよんジュウ

まえにちいさなころのわたしが、オルガンをひきたくてもひけなかつたはなしをした(●『よ』キユウジュウサン)。「ド」のイチがわからなかつたからだ。それでそのときは、ひくのをあきらめた。それからチュウガクセイになって、オンガクを、サッキョクを、バンドをやるようになった。そのゴ、サッキョクなり、ギターエンソウなり、バンドなりをことあるごとくしている。でも、オンガクでかせぐむずかしさをしつていき、それほどチュウリョクしなくなつた。

かんがえてみると、「ヨウジキの」オルガンをザセツしたケイケンが、わたしをそのゴ、オンガクへとみちびいたのかもしれない(フロイドセンセイ[セイシンブンセキのソ]のようなはなしだ)。でもしょうがない。もともとニホンにはオルガンなんてなかつたわけだから、リョウシンがオルガンのケンバンのハイチをしらなくてももしかたない。ことだつたらおしえてくれただらう。

オンガクのガッキのことをエイゴでインストゥルメントというが、ドウグについてチシキは、ユニウのものであつても、それなりにしつていたほうがいいかもしれない。そうすると、こどもがロックオンガクのようなまねをしなくていいかもしれないからだ。い

まはギターがチュウコでやすくうっているから、こどもがギターをかってくるかもしれない。「ド」のイチぐらいはおしえられたホウがいいだろう。

#### ヒャクよんジュウイチ

「ストア」のはなしをした（●ヒャクニジュウ、ヒャクニジュウなな）。ものをためれば、ショウテンになる。おいしいものをためたら、おいしいものやだが、それをたべれば、そのひとはロウドウリヨクショウテンになるかもしれない。ロウドウリヨクショウテンは、だれかのしごとをダイコウしたり、だれかにいわれたものをつくったりするかもしれない。わたしはいいロウドウリヨクショウテンではなかったの、ストアやものをつくっている。

ロウドウリヨクショウテンもダイジだが、あまりそれをするひとがふえると、ひとりあたりのうりあげがさがってくる。キョウキュウがおおいばあいだ。そうすると、ケイヤクシャからきられるロウドウリヨクショウテンがふえるだろうか。そうすると、おいしいものが、たべづらくなる。シャカイシュギだと、ゼンインのたべるものが、いくらかおいしくなくなる。しかし、シホンシュギというか、ジュウシジョウケイザイだから、いくらかのひとのたべるものが、ソウトウおいしくなくなる。そうすると、そのロウドウリヨクショウテンのサービスのシツがおちて、ますますそのロウドウリヨクショウテンのうりあげがおちるだろう。

そのテンジリツしているひとはつよいかもかもしれない。カイシャインのことを、どういいうわけかシャカイジンといたりするが、ドクリツしたコジンのホウがつよいかもかもしれない。ショウテンをやるのもいいし、ものをつくるのもいい。ノウギョウをやってもいい。いまだと、エーアイやロボットにかわられることはまだないだろう。

#### ヒャクよんジュウニ

カイシャにいくからスーツをきるのか、スーツをきるからカイシャにいくのかは、どちらがさきかはむずかしいモンダイだ。ティシャツでカイシャにいったら、おこられるか、つまみだされるだろう。もし、いえもカイシャだとすると、ティシャツをきていることはゆるされない。そのようにスーツをきることと、はたらくことは、ドウジにされるべきだというフチョウ、コウゾウがある（●『よ』イチ）。

だから、ダイガクセイのうちから、スーツをきてガッコウにいけば、もはやガクセイというよりも、ケンキュウするしごとをしているといえるかもしれない。しかし、シュウニユウがえられるかはベツのモンダイだ。ダイガクでスーツをきるガクセイはすくないが、チュウガクやコウコウとセイフクですごすことがおおい。それはやはりフチョウなのである。ガクセイフクといわれるが、まなぶこととカンレンづけられているようだ。ニホンではダイガクセイになると、ガクセイフクやスーツをきないので、「あそんでいる」とかおもわれるかもしれない。わたしもダイガクに行くことをシュミととらえていた。

「あそんでいる。」というヒハンをかわすには、スーツをきてダイガクにいけばいいわけである。

ザンネンながら、わたしのいったガッコウには、スーツなどをきたガクセイはすくなかった。また、わたしもスーツをきてガッコウにいったのは、ニューガクシキとソツギョウシキ、それとサツエイがあったときのサンカイだけだ。スーツをきて、ガッコウにいくというカンカクがなかったからだ。いまだったら、そういったものをきて、ガッコウにいくだろう。スーツをきているから、しごとができるでも、しごとができるから、スーツをきているでも、どちらでもいいのだ。ティシャツをきているから、あそんでいる。あそんでいるから、ティシャツをきる、のどちらでもいい。あそびたくなったら、ティシャツをきるだろう。

サーフィンやスケートボードのブンカ、スポーツのブンカからティシャツがフキウしたとおもうが、わたしもショウガクセイのときに、スポーツがすきだったので、よくティシャツをきていた。シャツもきていたが、キホンはティシャツだった。チュウガクではセイフク。それでシャツをほぼマイニチきるようになった。しかし、コウコウのあたりから、ロックバンドにエイキョウされて、えのかかれたくろいティシャツをきるようになった（ガクセイフクのしたにきていったこともある。）。でもそれはシュミなどのブンカだ。それからまたシャツをきるようになるまでジカンがかかった。スポーツケイばかりでなく、わかてのブランドもティシャツをうりだしていたから、つついティシャツをかってしまった。

ダイガクにいき、しごとをはじめてから、またシャツをきるようになった。イチジキ、ティシャツにもどったが、それからはシャツをきている。`おやじもティシャツはきなかった。アンダーシャツはきていたが、いつもシャツをきていた。それがフツウなのだろう。どうも、そういうシュミのブンカがつよくて、ニホンではティシャツですごすわかものがおおいのだろう。シュミもいいが、しごとはタイセツだ。まあ、わたしもやすみたくなったら、ティシャツをきるか。

ニホンだと、ホンライテキにはきものだから、きものをきるから、ニホンテキなのか、ニホンテキだから、きものをきるのかというモンダイはあるだろう。しかし、いまのところ、きものをきるひとはすくないようだ。セイヨウシキのホウがいいしごとができるのだろうか。

## ヒャクよんジュウサン

わたしはオンガクをしばらくやって、これはしごとにならないとおもった。キョクのタンカがひくいのである（●ヒャクサンジュウハチ）。どのくらいタンカがひくいかは、タンジュンなケイサンをすればわかる。もし、わたしがジュウダイのときに、そういうケイサンができていたら、オンガクをシュミでやるとしても、そんなにかねをつぎこんでやらなかったとおもう。ケイサンするノウリョクはあったし、データをさがせばてにはいっただろう。しかし、それがわかるのにニジュウゴネンかかった。

そのハンセイから、シンロセンタクは、そのギョウカイのデータなどをケイサンして、セ

ンタクすればいいとおもうのである。そうすると、ダイガクにいくひとはすくなくなるかもしれないが、ニンゲンとしてはまっとうだとおもうのである。どうもヘンサチというベンキョウのケツカのスウジにごまかされて、わたしはダイガクにいったホウがいいのかなどとかおもってしまった。それより、なにをしごとにするかのホウがダイジなようにおもうのである。キギョウとしては、ベンキョウがユウシュウなガクセイがわかるので、ヘンサチはつかいようがあるとはおもうが。

#### ヒャクよんジュウよん

まえに、オンガクなどがイチジカンあたりイチエンでたのしめるとかいた（●ヒャクサンジュウハチ）。それで、つくるホウのうりあげをみれば、ヒャクマンタンイうれて、ようやくヒャクマンエンになる。シィディなどをネンカンにフクスウマイだせるひとはまれだから、イチネンカンでヒャクマンタンイうれたら、ネンカンヒャクマンエンでセイカツすることになる。

ロクオンのヒョウもふくまれるから、これだと、アルバイトでかせぐよりすくないキンガクだ。ヒャクマンタンイうれてもそうなのである。そうなると、あたらしいサクヒン、チョウセンテキなサクヒンなどはつくりにくいだろう。ばあいによったら、そうやってかせいだおかねはすべてロクオンのヒョウにきえてしまう。そんなかんじでは、アーティストをやろうというひともへっていくだろう。コウコクをひっぱってこられるひとがつくったり、かねもちのあそびとしてつくられたりすることがふえるだろう。つまり、えらばれたひとしか、(かせげる)アーティストになれないわけである。

それでも、「ジブン」とか「コセイ」がダイジといえるだろうか。カコのだれかのサクヒンににせてつくと、トウサクとなる。だから、つくるホウには「コセイ」がヒツヨウとなる。しかし、そうやってシュチョウしたコセイでは、おおくのばあいたべていけないのだとおもう。「コセイ」より、うれすじのものにしあげたホウがマツトウといえるかもしれない。

#### ヒャクよんジュウゴ

むかしならユウメイなセンセイにデシいりして、なにかをみがいたかもしれない。いまならサラリーマンをやればいいだろう。オンガクサクヒンをヒャクマンタンイうれる（●ヒャクサンジュウハチ）というのは、そうカンタンではないが、それだけうれてもみかえりがすくない。それより（サラリーマンがらくだとはおもわないが）、サラリーマンをしたホウがセイカツはアンテイする。

わたしは、オンガクがすきだが、ヒャクマンタンイうれても、たべていくのがむずかしいとっていたなら、オンガクにちからをいれるのは、やめていたかもしれない。ゼンブのコウテイをジブンでやっているから、ヒョウはちいさいが、それでもガッキとキザイのブンおかねがかかる。ガッキやキザイはそうやすくない。タンジュンなケイサンモ

ンダイだが、それをかんがえられていたなら、シィディやガツキをかわず、ベンキョウしていたかもしれない。やってみてそうおもうのである。

むかしは、おおぜいがきく、みんなのうたのようなのがあったとおもうが、ハチジュウネンダイ、キュウジュウネンダイになったらこのみがブンサンした。それだけニホンがゆたかになったのだろう。しかし、セイサクするがわのコンナンから、またみんなのうたがフツカツするようにもおもえる。キョウキュウがへりそうだからである。うまいアーティストは「ジュウヨウ」と「コセイ」をゼツミョウなバランスでくみあわせるんだろう。ザンネンながら、いまのわたしはそれができていないようだ。

## ヒャクよんジュウロク

「ロンリテキシコウ」などという。ゲンインからケツカまでをチョクセンテキにセツメイすることをそういったりするだろう。そうやって、タショウヘイレツはあるかもだが、ものごとをチョクセンテキにキジュツする。それはなぜか。ニンゲンはことばをドウジにフクスウつかえないからである。たとえば、「みかん」といいながら「コーヒー」ということはできない。だから、チョクセンテキにキジュツするホウホウをとる。ことばのセイシツからそうなるわけである。

しかし、よのなかはケツしてチョクセンだけでセイリツしているわけではない。エーさんがたまけりをしていて、ビーさんがさけをのんでいるなんてバメンもあるだろう。ことばとしては、どちらかがさきで、どちらかがあとにされるだろうが、それはドウジになされているし、ニンゲンもそれはドウジになされていることをニンシキする。だから、しかたがないのだが、エーさんがたまをけり、ビーさんがさけをのんでいるというセツメイがただしいとはかぎらない。モチロン、ビーさんがさけをのんでいて、エーさんがたまけりをしていてもない。ニンゲンのことばのツゴウジョウ、そういういかたをするだけであって、ベツにただしいわけではない。

まえにタヨウジョウケンのはなしをしたが（●キュウジュウニ、キュウジュウなな）、そういうはなしである。ことばジョウはどちらかがさきになるが、ゲンジツはヘイレツテキにうごいているのである。そして、ニンゲンも、チョクセンもリカイするが、ヘイレツもリカイする。だから、チョクセンテキなことばがただしいとはかぎらないのである。というよりも、ことばのセイシツジョウ、ことばでセツメイするのはあやまりといえるかもしれない。それがわかっているからか、わたしはあまりおしゃべりではない。しずかにカンサツするのもすきである。

ことばにすると、イチリンのはながさいている。そしてもうイチリンもさいている。だが、ジュウリンのはながさいていることをみていたりする。チョクセンテキなシコウもきらいではないが、ヘイレツテキなプロセスもダイジなのではとおもう。しかし、ことばをつかうのだったら、チョクセンにならざるをえない。たぶん、そういうわけだから、ブンメイジンはチョクセンテキにかんがえたホウがいいだろう。

ヒヤチよんジュウハチ

わたしは、ものをあつめるのがくせになっていたりする。こどものころには、テレビゲームのカートリッジをあつめたし、チュウコウセイになってからはシィディをあつめた。ニジュッサイをこえると、ホンをあつめた。ただ、つかわずに、タンにあつめることはしなかった。つかわずにあつめていたら、ショウテンになったかもしれないが、わたしはキノウテキにそれらをもとめたわけだ。

いまは、それらのものが、デンシテキにあつめられるようになっている。つまり、ハンドウタイプピンや、プラスチックのブピンなどはいらないのである。それなら、データだけのトショカンとかハクブツカンがあってもよさそう。しかし、そういうところははやっているとはきかない。むかしながらのコレクションのいいところは、バシヨをとるところだ。バシヨをとるゆえに、ものをえらぶようになる。スペースがかぎられるからだ。そうやってものをジュンジョづけ、あまりすきではないものはショブンする。そういうサギョウをするようになる。

もののシツカンもいいかもしれない。データだとふるびることがないからだ。ふるくなるデータをつくっても、おもしろいかもしれない。ニジュウネンたつとやけてくるようなデータとか。キノウテキにはデータのコレクションもいいが、まあいまのところはそれをしていない。それぞれのものには、それぞれのよさがある。そのよさをみとめるから、コレクションがふえるのであろう。そのよさをひとつにシュウヤクすると、コレクションはシュウリョウになる。そのイチバンのもをダイジにすればいいからだ。

コレクションをしないひとは、そういうわけで、テイバンがきまっているのだろう。ベツにコレクションしなければいけないわけではない。わたしは、シィディよりもキョウカシヨをあつめれば、ユウシュウなガクセイになれたかもしれない。しかし、キョウミがなかったのしょうがない。

ヒヤクよんジュウキョウ

よくくろいスーツをきているひとをみる。ベツにくろでなくてもいいのだろうが、とにかくくろがおおい。なぜくろなのだろう。ソウシキがキョウにあってもいけるからというリョウはあるだろうが、ジツはベツのモンダイかもしれない。

それはなにか。ニンジャのくろショウゾクをまねているのかもしれない。それだけトクシュなしごとをしているということだ。コンのスーツもむかしはみられたが、サイキンはみない。コンはカイグンのいろだろう。それだけうみをジュウシするということだ。ニホンのまわりはうみだから、それはタイセツだろう。ニンジャがおおくても、ボウエキができなければ、あまりゆたかではない。それだけニホンジンのイシキがうちむきになっているのかもしれない。

また、みどりのスーツもメツタにみない。みどりはショクブツのいろだろう。リクグンでもつかわれているいろだ。たしかに、グンジンっぽいサラリーマンじゃこまるかもしれないが、ショクブツをケイシしてはたべものができない。だから、みどりいろのスーツはもっとジュウシされてもいいはずである。ノウギョウをがんばるということだ。ショクリョウジキョウリツをあげるために、もっとドリョクしてもいいはずだ。

キュウジュウネンダイには、グンヨウのみどりのズボンがリュウコウした。これもノウギョウをジュウシするところがあったからかもしれない。わたしもイッポンもっていたが、おふくろにすてられてしまった。センソウのケイケンがあったからかもしれない。ノウギョウヨウといったって、センソウのイメージがつよいのだろう。もっとふえてもいいはずだが。

#### ヒャクゴジュウ

キンダイにはいって、コクミンコッカができたとされる。ヨーロッパではローマのシハイがつよかったために、シュウキョウカイカクをへて、そういうようになったのだろう。むかしにコッカがなかったわけではない。ただ、ローマのシハイがあるかないかをクベツするヒツヨウがあったのだろう。

やがてそれらのくにはシヨクミンチをもつようになり、センソウになった。シヨクミンチがカイホウされてからは、グローバルカのジダイなどというようになった。とりひきがコクサイテキにおこなわれ、ジョウホウもシュンジにとどく。だから、そういうようになったのだろう。ツウシンのハッタツがおおきいかもしれない。ユソウのハッタツもそうだろう。たべものも、おいしいものは、いろいろなところにとどくということもあるだろう。

しかし、サイキンになって、ボウエキをキセイするうごきある。ベツにコクサイテキにキセイするわけではないが、むかしよくやっていたように、あるくにからのユニウヒンにカンゼイをかけるといったやりかたである。カンゼイをかけるかどうかは、そのくにのジユウであるだろうが、そうやって、ボウエキをキセイするといううごきがある。そうすると、グローバルカのジダイとはいえなくなってくるのではないか。いってみれば、サイネーションステイトカ（サイコクミンコッカカ）である。

つまり、ボウエキあいてのくにのリエキはあまシジせず、ジコクのリエキをツイキュウするということである。そのシセイがただしいかどうかはわからないが、ばあいによっては、そちらにころぶということだ。たしかに、ニホンでもガイコクセイヒンがふえているから、そういううごきがおこるカノウセイもある。いまはロウドウリヨクがたりないというから、なんでもジブンのところでつくろうとはしないだろう。（アメリカ）ガツシュウコクやチュウゴクはロウドウリヨクにヨユウがあるからカンゼイをかけるのだろうか。

#### ヒャクゴジュウイチ

ニンゲンはいつかテンにめされるまで、いきつづけるだろう（●ニジュウよん、ハチジュウイチ、キュウジュウゴ）。テンにめされても、にげてしまうひともあるかもしれない。そういうみかたでは、ニンゲンのセイメイはユウゲンである。テンにめされたときには、

ニンゲンとしていきることをシュウリョウしなくてはいけない。そういうキゲンつきのジンセイをどうすごすか。なんのためにいきているのかという問いもたまにある。

わたしなんかは、ジユウにいきるなどとおもってしまうが、なかには、なにかのモクテキをもっていきなければならないとおもうひともいるのだろう。ギジュツテキには、たべるからいきるといふことがある。しかし、そういうひとはモクテキをとうだろう。テンにめされるためにいきているといえ、まあすこしはナツクするかもしれない。なんのために、テンにめされるんだとたとえば、それにはこたえがある(●ニジユウよん)。「もの」がつくられたイジョウ、「もの」はかたちをかえながらもありつづける。ニンゲンもそういうウチュウのシゲンなのだ。フツウにやいてしまっておわりではないのだ。コタイやエキタイ、キタイがまたシゼンカイをめぐりはじめる。いますぐテンにめされたいといったら、まあきながにやろうであろう。

ひとのジンセイのことを、おくりものようにたとえることがある。タブン、キリストキョウケイであろうが、かみからのおくりものというわけである。おくりものをうけとって、どうおもうかはジユウだろうが、おくりぬしは、うけとったひとがよろこんだらうれいのではないか。そういうわけで、おくりものをダイジにつかったり、よろこんだりすることがダイジなようにおもうのである。

#### ヒャクゴジユウニ

ニンゲンはなにかそのひとのトクイなこともあれば、フトクイなこともある。チョウショをいかせといたり、タンショをホキョウしろといたりもする。トクイ、フトクイではなくて、なにかをすることがコンナンであったりというばあいもある。

イッパンにそういうコンナンはないにこしたことはないといわれる。しかし、そういうコンナンがあったとしても、ひとは、なにかをするだろう。むしろ、コンナンがないひとのホウがマンシンして、たいしたことをやらないかもしれない。うきぎとかめのはなしのようでもある。コンナンがないひとは、マンシンして、トチュウでひるねをしたりする。しかし、コンナンがあるひとは、すこしずつなにかをすすめる。ベツにどちらのやりかたでもよいのだが、ひとはなにかコンナンがあったホウが、キョウソウにかてるのではないかもおもう。

ピンボウだからがんばるといふのはよくあるはなしだ。それでタイセイするひとがいる。ニホンもセンゴそうやってゆたかになっていった。わたしは、からだがジョウブなので、マンシンして、オンガクをやりはじめた。そんなことをせずに、ベンキョウしていればよかったかもしれない。そのゴ、クロウした。マンシンするほどコンナンがないときは、ヨウチュウイだろう。

#### ヒャクゴジユウサン

シャカイやブンカのコウゾウはアンガイキョウコである。ジブンがたべるゴハンをみて

もわかるだろう。なにかベツのものをとりいれようとおもっても、そのかわりになにかをガマンしなくてはならない。だから、あたらしいなにかをとりいれるということは、アングアイむずかしいのだ。ジブンのゴハンのばあいは、それなりにジウがきくが（だれかにキョウセイされるわけではない。）、シャカイテキなことだと、さらにあたらしいなにかをいれることはむずかしくなる。それぞれがドワイししなければならないからだ。だから、コセイをだそうとすると、いやがられることがおいだろう。ソウシキにティシャツでいくレイをかんがえたらいい。ティシャツおことわりとたたきだされるだろう。そのばあひ、そのコウゾウとコセイのどちらがモンダイなのかというギロンはできる。ただイッパンテキには、ティシャツでいくホウがわるいとなるだろう。それでも、ティシャツすがたでソウシキにでたければ、たたかうようだろう。

ジウシチネンくらいまえに、「コウゾウカイカク」ということばがよくつかわれたが、それは、このレイでは、ソウシキのホウをかえることである。たまにそういうこともあるが、シジをえられないとカイカクはすすまない。そういうむずかしいはなしである。しかし、コジンのケンゲンできめられるものは、かえられるだろう。

#### ヒャクゴジウよん

ニホンのショクリョウジキュウリツはよんわりほどといわれる。だから、カイゼンしたというのわかるはなしである。なぜカイゼンしたホウがいいか。トシのひとはキホンテキにノウサクモツをつくらない。かねで、いなかでつくられたノウサクモツをかってくる。それをするためには、いなかのひととなかよくするヒツヨウがあるし、トシのショウテンのひととなかよくするヒツヨウがあるだろう。それはどういうことか。

いなかのひとやトシのショウテンがおこってうらないといいだしたら、それっきりだからだ。そうすると、ショクリョウがなくてうえじぬ。だからトシのひとはニンゲンカンケイをジウシする。それをコクサイテキにいうと、ショクリョウをキョウキュウしてくれているガッシュウコクやオーストラリアなどのカンケイをジウシするわけである。だから、キョクロンすると、ガッシュウコクのイコウにニホンはさからえない。それでも、うえじぬよりましということである。つまり、なにかをシュチョウしたり、キョウレツなコセイをもつためには、ショクリョウをジブンでつくらないと、ということである。

#### ヒャクゴジウゴ

テレビをみるのをガマンする。などといったりする。このガマンするとはどういうことなのか。わたしが、おもうには、わたし（ガ）のジョウホウショリをおくらせる（マン）ということだとおもう。つまり、テレビのレイでいえば、テレビをみて、ノウがシゲキされて、わらったり、かんがえたりすることをエンキさせるということである。ガマンするヒツヨウがなければ、わらったり、かんがえたりすればいいが、ガマンするときはおくらせる。

フクをかうのをガマンするといったときにも、ものジタイをかうのをおくらせるというよりも、フクにフズイするブンカテキなもの（たとえば、ゲンダイテキナというイメージなど）、もしくは、そのひとのナイテキナプロセスを（たとえば、カイテキにセイカツするなど）、リヨウするのをおくらせることではないだろうか。わたしはガクセイジダイに、おかねがなく、キョウカシヨをかうのをガマンしたことがある。それだと、ガクシユウがすすまないのである。

#### ヒャクゴジュウロク

うずまきリヨクがあるから、そのちかくのものは、うずまきにひきよせられる（●『ア』ヒャクロクジュウサン、ニヒャクサンジュウ、『む』ハチジュウハチ、『よ』ヒャクハチジュウサン、ホンブンハチ、ヒャクジュウナナ）。そのギャクホウコウのちからがあったらどうなるか。ひかりさえもよせつけない、まっくらなセカイになるだろう（●ヒャクジュウナナ）。ウチュウにひとのすめるようなクウカンをかながえると、ひるとよるがあったホウがいいのでは、とかながえたりするだろう。そういうときにギャクうずまきリヨクをつかえれば、ひるとよるができる。しかし、もっともタンジュンなカイケツサクは、よるみたいにしたければあいは、シャッターをしめることだ。そうすればくらくなる。

#### ヒャクゴジュウナナ

ヘイワとはどういうことか。それはムダのないことかもしれない。ゲンダイでは、おおきなタンイでハツデンをしている。そこでつくられたデンキをカクカテイにおくる。そしてあかりがつくわけだ。ただあかりがつくかわりにモンダイもある。タンサンガスがでるのである。ハツデンジョで、あぶらなどをもやしているからだ。

あくまでもカセツだろうが、そのタンサンガスによって、チキユウがあたたかくなるともいう。あかりをつけるためのコストだ。しかし、あかりをつけないようにしようとはあまりいわない。たてもものなかがくらくては、しごとができないからだ。しごとができないと、くにのケイザイがよわくなって、ポウエキでフリになるというおそれもある。だから、ハツデンするのをやめない。

ただ、フウシャでハツデンしたりというダイタイサクはある。しかし、コクナイではまだドウニュウがすすんでいない。それよりもケイザイキョウソウをジュウシするのだろう。ゲンシリヨクハツデンもやめない。ホウシャノウがでるにもかかわらずだ。ホウシャノウがでてこまることよりも、ケイザイキョウソウがジュウシされるわけである。ヘイワならゲンパツをとめるのではないか。あとシマツにこまるからである。しかしケイザイキョウソウがジュウシされる。ヨウするに、ヘイワではないのである。

#### ヒャクゴジュウハチ

ソレンがシュウリョウして、シャカイシュギがハイボクしたかのようなイメージがある。それがおこったのは、わたしがチュウガクセイのころだ。だから、そんなにシャカイシュギのことは知らない。しかし、ニホンにもシャカイシュギをとるようなセイトウがあったし、サヨクやウヨクといういいかたもある。また、マルクスのはなしもきいたことがある。ガクセイウンドウのはなしもきいた。

なぜ、ガクセイウンドウをするかについてのわたしのイゼンのリカイは、ニホンがガツシュウコクにセンソウでまけたために、そのエンチョウでおこっていたというものだった。しかし、ベツのシテンからみるとそうではない。シホンシュギをとるくにとつては、シャカイシュギはみとめづらいただろう。また、ギャクもそうだ。しかし、それだけのモンダイではない。シホンシュギをとるとおもわれるガツシュウコクには、ドレイセイがあった。ナンボクセンソウのあとに、それはシュウリョウしたが、コクジンがサベツされるジョウキョウはつづいた。

つまり、ガクセイウンドウはなぜおこったかという、フツウのシホンシュギはいいものかもしれないが（わるいかもしれない）、ドレイセイがのこるシホンシュギよりは、シャカイシュギのホウがよさそうということではないか。シホンシュギとシャカイシュギのタイリツのようにおもえたがそうではない。ドレイセイのあるシホンシュギとシャカイシュギのタイリツだったのだ。

そのウンドウのあと、ガツシュウコクのドレイセイは、セイドテキにはカンゼンにテッパイされた。それでシホンシュギのジョウキョウがよくなったから、シャカイシュギをおすウンドウはしたびになったのだろう。それでもシャカイシュギをおすひとはいただろうが、やがてソレンはシュウリョウした。タイリツさせるリユウもなくなったのだろう。しかし、シャカイシュギやガクセイウンドウは、ドレイセイをシュウリョウさせた。そのコウセキはおおきいとおもう。

#### ヒャクゴジュウキョウ

よのなかには、たとえば、みつつのロウドウのしかたがある。ひとつは、おかねをもらってロウドウするだ。いわゆる「ビジネス」というやつだ。ふたつめは、おかねをもらわないし、おかねをはらわないでロウドウするだ。キュウジュウネンダイから「ボランティア」といわれるようになったロウドウのありかたである。みつつめは、おかねをはらってロウドウするだ。これはもはや「ロウドウ」といえないかもしれないが、どこかのドウジョウやケンキュウをするのには、そういうこともヒツヨウかもしれない。「したづみ」などとよばれたりもする。したづみからはじめて、ダンダンおかねをかせげるようになるのである。

しかしながら、ゲンダイでは、チンやといケイザイがハッタツしているためにいきなり、イチバンメのおかねをもらってはたらくからはいるひとがおおいだろう。こどもをベンキョウにシュウチュウさせるために、カジのてつだいなんか、こどもにたのまなかったりするのではないか。おダチンをあげて、てつだわせるというのもきくはなしである。

いきなりチンロウドウだから、ニバンメやサンバンメのおかねをもらわないで、または、おかねをはらってロウドウするのは、やりにくいかもしれない。なんとなく、「ボランティア」をするひとはえらい。とおもったりするが、そうではなく、おかねをはらってロウドウするというのもあるのだ。

おかねをもらわないでロウドウするのは、ドレイセイににているが、おかねをはらってロウドウするのはショクミンチケイザイだ。レッキョウのくになら、たねやなえをかって、サクモツをそだてるというようなやりかただ。そのためになかなかドクリツできない。ドレイセイににているボランティアは、ニホンジンはわりとするひがいるようだが、ショクミンチケイザイににているおかねをはらう、ペイトウワークということにする、ことはあまりワダイにならない。ショクミンチがふえたジダイがあったのにもかかわらずである。

ニホンジンは、ナンボウのショクミンチをカイホウするためにたたかったかもしれないといわれるけれども、やはりニホンジンも、ショクミンチをもつホウだったのかもしれない。シザイをトウじて、セイジカをするというはなしもきかない。モチロンそれでロウドウのシツがおちたらよくないので、ケッコウだとおもうが、そういうしたづみやら、シャカイにホウシするというかんがえかたは、あまりいまのニホンジンはもっていないようだ。あっても、ボランティアどまりだろう。

つまりどういうことかということ、ニホンジンにはドレイセイとキョウゾンしたり、そのみになってかんがえてカイケツするノウリョクはあるだろうが、ショクミンチケイザイとキョウゾンしたり、そのみになってかんがえて、カイケツするノウリョクはないということだ。それはどういうことかということ、いまのニホンジンでは、ガイコクがどこかのショクミンチになっても、カイホウすることができないということだ。ハチジュウネンまえのニホンジンにはできたかもしれないが、いまのニホンジンにはむずかしいだろう。したづみをしないひとが、ふえたということだから。

#### ヒャクロクジュウ

むくどりが、わたしのヘヤのとぶくろにすをつくっている（●ヒャクジュウ）。ひながかえるのがゴガツゲジュンくらいだから、まあジュンビをしているということだ。そのあとのソウジがメンドウだが、まあいいとおもっている。とりはそんなにからだがおおきくないが、わりとおおきいこえでなく。ひよっとしたらニンゲンのこえよりもおおきいかもしれない。だから、とりをニンゲンくらいのおおきさにしたら、すごいおおごえをだせるだろうということだ。からだのタイセキヒでかんがえるとそうなる。おおごえをだしてどうするののだが、まあそんなところだ。パワーがあるということだ。

#### ヒャクロクジュウイチ

ウチュウはくろいというイメージがある。くろはひかりをキュウシュウするから、とおくほしのひかりもチキュウからみえるのだろう。だから、ひかりをハンシャするとい

うしろでウチュウウカンがコウセイされていたら、とおくのほしからのひかりは、とどかないとおもわれる。ニンジュツでいうくもがくれだ。そういうわけだから、ウチュウのそとがしろいくウカンでできていたら、ひかりがハンシャしてウチュウにもどるだろうから、ウチュウはながもちするだろう。

#### ヒャクロクジュウニ

セツチョ『アルカラカンガエル』で、うずまきリョクのことをかいた（●『ア』ヒャクロクジュウサン、ニヒャクサンジュウ、『む』ハチジュウハチ、『よ』ヒャクハチジュウサン、ホンブンハチ、ヒャクジュウなな、ヒャクゴジュウロク）。うずまきリョクとはなにかというと、よくいわれるいいかたでセツメイすると、「ジュウリョク」である。タイヨウのまわりをはなれずに、ワクセイがまわるちからのことだ。「ジュウリョク」でいうと、ジュウリョクが、タイヨウにちかづくちから、「エンシンリョク」がタイヨウからはなれるちからだろう。

なぜ、その「うずまきリョク」があるか。「とんでひにいるなつのむし」という（●ヒャクジュウなな）。ベツにひにちかづかなくてもよさそうだが、ひのなかにむしがはいってしまう。そこからかんがえると、うずまきリョクとはもえることが、つくりだすとかんがえられそうだ。フツウによくいわれるはなしでは、「もの」にジュウリョクがあるといわれている。しかし、そうでなく、もえているところから、うずまきリョクがハッセイするのである。よくいわれるようにいうと、もえているからジュウリョクがハッセイするのである。チキウもナイブではもえているし、ほかのワクセイももえているだろう。ウチュウでひをたくと、そこに、うずまきリョクがハッセイするということだ。だから、ウチュウのごみソウジはアンガイカンタンかもしれない。

#### ヒャクロクジュウサン

エーアイがハッタツしているから、コウコウやダイガクにすすむのはどうかとおもう。データをよみだすのはコンピューターがトクイだからだ。サイキンはブンショウもつくれるという。エーアイとキョウゴウするブンヤで、きそってもむずかしいだろう。むしろ、からだをうごかすサギョウはまだまだニンゲンにかちめがある。だが、からだをうごかすためのコウコウ、ダイガクはすくない。そういうものがユウボウかとおもうが。コウコウ、ダイガクへすすむリユウはショウライテキに、うえにたてるシカクをカクトクするためだろう。ダイガクインは、ダイガクのキョウインになって、シュッセするためのシカクをシュトクするためだ。しかし、うえにたちたいとはおもわないなら、チュウソツで、はたらきはじめてもよいとおもう。かんがえより、たべるためのギジュツがダイジだとおもうのである。

## ヒャクロクジュウよん

なんかのサギョウがあるからサギョウフクをきるのか、サギョウフクをきるからサギョウがあるのかはどちらかわからない。わからないというより、どちらもただしいといえそう。コスプレとおなじしごとだ。なにかのイショウがあるから、そのイショウをきるなにかになりきってしまうのである。だから、ダイガクなんかにもスーツをきていくといいかもしれない。ガクセイというより、ケンキュウシャというかんじで。ケンカしてばかりのショウネンがいたら、ジャケットとかきせるといいかもしれない。ジャケットやスーツをきてケンカするものではないからだ。

## ヒャクロクジュウロク

はたけでつかうスコップをそとにおいておいたら、シンピンコウニューしたにもかかわらず、ダイブ「あじ」がでてしまった。そういうのをなんというか。フウカであろう。だから、フウカさせたくないものは、こやのなかにでもしまっておく。そういうことだろう。

ニンゲンもそとにおいておいたら、フウカするかもしれない。ハッテントジョウのノウギョウコクは、ニンゲンのジュミョウがみじかいという。やっぱり、そういうことかもしれない。センシンコクでジュミョウがながくなったというのは、イリョウがハツツしたというよりも、あまりそとにでなくなったからかもしれない。ようするにダイジにしまわれているわけだ。

## ヒャクロクジュウなな

ニホンのホウドウキカンは、ガイコクのあつまりのことを「セカイ」ということがある。セカイというよのなかのことだとおもうが、かれらのつかいかたでは、「セカイ」には「ニホン」がふくまれていない。つまり、うちとそとの「そと」のことを「セカイ」というわけである。わたしは、カイガイにいったケイケンもあるから、そういうヒョウゲンにイワカンをもった。「カイガイにいるニホンジン」がうちのひとなのか、そとのひとなのかかわからないが、「うち」はトクベツらしい。ホンネとたてまえというが、ニホンではそういう「うち」と「そと」をわけるのがスタンダードといえそう。カイガイにいったひともふえただろうから、いつまでそのいいかたがツウヨウするのであろうか。

## ヒャクロクジュウハチ

うちにはぶどうのきがある。おやじがそだてたらしい。たてにのばさず、よこにのばしているの、ささえるたながヒツヨウだ。そのたなは、まいとしふゆにゆきがふると、ゆ

きのおもみでソンショウする。だから、まいとしはるにたなをシュウリする。

ことしはおとといシュウリした。ブザイがまがったりするのでコウカンをする。たなをなおしたが、まだめがでていないのでシンパイである。サイキンはシュウリョウがおちているから、ヒリョウがおおくヒツヨウなのかもしれない。それなら、ひとのウンコをうみにながすべきではないのだが、においのモンダイもあるから、にわにウンコをまくわけにもいかない。むずかしいところだ。

#### ヒャクロクジュウキュウ

オンガクサクヒンのジッセイカカクが、ひとりイチジカンあたりイチエンというはなしをした（●ヒャクサンジュウハチ）。だから、オンガクでたべていくことはむずかしい。たべていくのがむずかしいから、サクヒンのつくりてもへるだろう。しかし、たべていくやりかたもある。

コウコクをだしてもらうのである。ベツにサクヒンにコウコクをいれろというのではない。サクヒンのよこにハイチするわけである。そこそこのガクでコウコクをだしてもらえば、たべていくこともカノウだろう。それだと、サクヒンのシツがモンダイとなる。しかし、よくあるコウコクは、テレビやラジオのそれであろう。それだと、「サクヒンのシツ」もダイジだが、パフォーマーのひとがらが、もっとダイジであろう。

つまり、オンガクがイチエンのジダイでは、コウコクをだしてもらうために、サクヒンのシツよりも、そのひとのひとがらがダイジになるわけなのだ。そういうわけだから、「コセイテキな」オンガクカでは、コンゴいきのこりにくいとおもわれる。たまにはそういうひともあるだろうが。

#### ヒャクななジュウ

ハチジュウネンダイおわりからのバンドブームのときには、「メジャー」とか「インディー」とかよくいわれたものだ。「メジャー」とは、ひろくよにツウじていることで、「インディー」とは、エイゴの「インデペンデント」のリャクである。ニホンゴでいうと、ことばはわるいが、カッテにやっているということだ。そのサは、コクナイやセカイキボでシィディをリュウツウされているか、いくつかのレコードやで、とりあつかわれるかといったものだ。

わたしも、インディーズセンモンのシィディやにいったことがある。そのときメジャーなアーティストのカコのシィディがおいてあったり、カイガイのあまりしられていないアーティストのシィディがうられていたりした。メジャーデビューをするのもいいが、そういうかんでショウキボにリュウツウさせてもいい。いまはコンピューターツウシンがハッタツしたので、「カッテに」「メジャーデビュー」することがカノウだが、トウジはそうはいかなかった。だから、「インディー」でしばらくやって、そんなにうれいとなると、バンドカツドウをやめてしまっただろう。いまは、「カッテにメジャーデビュー」ができるので、そういうあきらめはつきづらくなっただろう。

「カッテに」やっても、「メジャー」がシヤにはいると、キョウゴウするバンドなど

のものハンバイカカクがきになったりする。いまはそれがひとりイチジカンあたりイチエンだ(●ヒャクサンジュウハチ)。だから、キョウゴウするバンドに、うりまけないようにするためには、イチエンイカでサクヒンをださないといけないとなる。それでヒャクマンダウンロードしてもらおうとなるだろう。しかし、それはカンタンではない。プロのサクヒンだって、そんなにかずはのびないのである。

それならどうするか。ヒョウをおさえるか、むかしながらのやりかたをとるかというようなセンタクとなる。ヒョウをおさえるだと、ガツキをかうのをおさえると、なるべくみじかにロクオンするとなる。コウリツカするわけだ。わたしもそれをジッケンしようとおもっている。むかしながらのやりかただと、シジョウでのキョウソウリョクはないが、ナンテンポかのレコードやにシィディをまあまあのカカク、センゴヒャクエンなどでおいてもらって、じみちにファンをふやすとなる。やはりコストはコストだから、なるべくカイシュウしたホウがいいだろう。そうすると、コウシャのやりかたのホウがケンチョウかもしれない。

#### ヒャクななジュウイチ

オンガクがひとりイチジカンあたりイチエンで、たのしめることをシテキした(●ヒャクサンジュウハチ)。それはオンガクだけでないようである。エイガ、ドラマ、アニメさらには、ザッシ、ホンもそうなりつつあるようだ。セイサクシャにとってトクにタイヘンなのが、アニメであろう。イチビョウカンにサンジュウマイのえがつかわれ、イチジカンハンテイドのながさでコウセイされる。イップンカンにセンハッピークマイのえ、イチジカンハンでジュウロクマンニセンマイのえになる。これをイチニチサンジュウマイずつかいていったら、ゴセンヨンヒャクニチ、ヤクジュウゴネンかかる。ジュウゴネンだから、イチネンにヒャクマンエンかせぎたきや、センゴヒャクマンダウンロードがヒツヨウになる。こえなきやこえないで、サッカのセイカツがきびしくなる。だから、なりてはすくなくなるし、キゾンのサッカのキョウソウもはげしくなるだろう。

エイガもそんなかんじで、つくりてはへるだろう。またエイガカンでみるエイガがわりだかになる。シンサクエイガをすこしおくれでディブイディでみるひともいるだろう。センゴヒャクエンか、サンビャクエンかだと、サンビャクエンのホウがやすい。いまでは、それがニエンでたのしめることになる。センゴヒャクエンはらうなら、エイガをななヒャクゴジュッポンみれたホウがいいかもしれない。だからトウゼン、エイガカンはあかじにおちいり、つぶれていくかもしれない。

ここジュウネンくらいでコクドウぞいのエイガカンがふえたとおもうが、もうそれらはチンプカしつつある。そうしないためには、ショクジのできるエイガカンなどあらたなカチをつけていくか、カカクメンでキョウソウしていくヒツヨウがあるだろう。むかし、コシツビデオやがあったが、かわってマンガキッサが、そのやくわりをはたしているかもしれない。サンジカンでハッピークエンくらいなら、エイガカンのハンガクくらいだ。

#### ヒャクななジュウサン

わたしのいえはゲンカンからカンおけがはいらないし、でられないコウゾウになっている。おやじがセッケイしたらしいが、ゲンキにしていだろろうから、あまり、シのことはかんがえなかったんだらう。センゴにたてられたコウエイジュウタクもそうだとときく。エレベーターにカンおけがはいらないというのである。

そういうケイケンがあつてか、サイキンのセッケイのサンカイだてジュウタクをみると、ヨケイなおせわながら、としをとつたら、どうするんだらうとおもう。せまいトチにゆかメンセキをふやすクフウというのはわかる。しかし、くるmaisではくらしづらひであらう。もしかしたら、イツカイはフロとガイドコロだけで、ヘヤはないかもしれない。それだと、あるけなくなつたら、もうなんともならない。エレベーターがついているようにもおもえないのである。わりきつて、ゲンキなうちにすむいえとしているのだらうか。

#### ヒャクななジュウよん

フロイドセンセイ（セイシンブンセキのソ）は、あるひとのヨウジキのタイケンにモンダイがあると、そのひとのそのゴのジンセイにエイキョウをおよぼすといつたらしい。わたしはオンガクにこだわっている。なぜか。フロイドセンセイフウにいえば、わたしがヨウチエンジのときに、わたしのいえにあつたオルガンを、「ド」のイチがわからず、ザセツしたからである。そのゴ、コンピューターゲームづくりも、「キカイ」がかえずにザセツしたが、それはモンダイになっていない。やはり、ヨウジキのタイケンなのだらうか。

#### ヒャクななジュウゴ

わたしたちがなにかをたべたあと、たべたものはやがてウンコになる。それをむかしは、はたけにまいていた。ヒリョウになるからである。それでたべものがまたできるというジュンカンだった。いまはトシカがすすみ、そのジュンカンができていなかったりする。ウンコはかわにながすようになった。かわからうみにながれる。そうすると、ショクブツにとってのエイヨウは、うみにながれてしまうことになる。

ヨウブンがおおいから、うみべで、もがタイリョウハッセイしたりするのだらう。だから、のりがおいしいとおもう。ヨウブンがタクサンあるからだらうし、もうひとつのリユウがある。うみのショクブツがよくそだつといつても、のりやわかめやコンブばかりをたべるわけにもいかない。そのヨウブンがさかなまでまわれれば、さかなもヨウブンホウフとなる。それをつりあげてたべれば、エイヨウのジュンカンはうまくいく。しかし、モンダイがある。

それは、ギョギョウケンだったり、ハイタテキケイザイスイイキのモンダイだ（●ハチジュウヨン）。フツウ、そのくにのハイタテキケイザイスイイキは、そのくにのギョギョウなどをするめやすとなつている。だから、ガイコクのふねがはいつて、ギョギョウをすると、チュウシしろといつたり、おいかえしたりする。ガイコクセンのソウギョウをみとめるばあいもあるが、ダイタイは、そのくにのギョセントウがつかう。それだと、

ジブンのくにでたウンコがカイシュウされやすい。しかし、ハイタテキケイザイスイキなどがフクスウのくにで、シュチョウがことなり、せんびきでもめているばあいは(ニホンもチュウゴクなどもめている。)、フンソウのもとになりかねない。

なぜなら、「ウンコ」は、それをだしたひとのくにのシゲンだろうからだ。つまり、しっかりとりきめがおこなわれないと、フンソウになりかねない。「わがくにのウンコをかえせ。」というわけである。ニホンとチュウゴクがもめるのは、タンにセキユなどのシゲンだけでなく、「ウンコ」のモンダイもあるはずだ。なにしろジュウサンオクのウンコだから、うまくカイシュウさせたホウがいい。ハイタテキケイザイスイキのせんびきではもめるだろうが、ものとして、ニホンがわにはいりこんでくるウンコもあるから、うまく、ニホンのハイタテキケイザイスイキナイで、チュウゴクのギョセンをソウギョウさせたり、ニホンから、さかなをユシュツしたりすることがダイジだとおもう。「ウンコ」もシゲンなのだ。

#### ヒャクななジュウロク

うみでとれるのりがおいしいもうひとつのリユウは、ジブンとエンがふかいたべものだからではないか。わたしのウンコがかわからうみにながれる。そのうみでとれるのがのりだ。つまり、のりのおいしさのものは、ジブンがたべた「おいしいもの」のイチブだろうからだ。イチブはわたしのからだをソセイし、のこりは、ウンコとしてうみにながれる。つまり、のりはわたしと「エン」があるということだ。

そういうのをシンリガクでは、キンセツのヨウインという。つまり、ジブンにちかいものがこのまれやすいということだ。だから、さかなをたべているひとは、さかなをたべつづけるだろうし、にくがすきなひとなら、にくをこのんでたべるだろう。しかし、にくはジブンのウンコでつくられていないから、ちょっとのエンかもしれない。

そういうキンセツのヨウインをかんがえると、さかながもっともおいしいだろうとスイソクできる。チサンチショウといわれるが、それに「ジウンコ」もくわえなければ、おいしいジュンカンにはならないようなきがする。いまは、グローバルカのジダイでユシュツニュウがさかんだが、そういうジュンカンダイジにするとローカルのジダイになるはずである。

#### ヒャクななジュウなな

オンガクがひとりイチジカンイチエンでたのしめるとかいた(●ヒャクサンジュウハチ)。はたしてこれは、やすすぎるであろうか。おなじくイチジカンイッポンのジュースをのむ。これはヒャクゴジュウエンだ。どちらをたのしむだろう。むかしのカカクだとイッキョクヒャクエンだから、イチジカンでセンゴヒャクエンほどかかった。たしかにもういちどきけるし、キカイやデータがこわれるまでなんどもきけるだろう。しかし、イッカイしかきかないものがセンゴヒャクエンでは、タブン、ジュースをえらぶだろう。

それだけオンガクがたかかったということだ。オンガクは、はなしにはなるが、エイヨウにはならない。イッキョクジュウエンなら、ジュウゴキョクでヒャクゴジュウエンだ。それでもオンガクをえらぶだろうか。

#### ヒャクななジュウハチ

わたしはコウコウセイのころ、ゴハンダイをけずってシィディをかった（●『む』ヒャクロク、『よ』ヒャクサンジュウロク、ヒャクサンジュウサン）。イチニチゴヒャクエンのところをたべるのをニヒャクエン、パンとのみもの、におさえて、のこったサンビャクエンをとおかブンでサンゼンエン。それでシィディをかった。ウンドウブにははいていなかったの、まあなんとかからだがもったが、ショウガクセイのときからタイリョクハだったわたしが、タイイクのジュギョウがきれいになった。「もった」とかいたがもっていなかったんだらう。そうしてエイヨウブソクで、きれいなカモクがふえていった。シィディはサンジュウマイテイドかったが、かわりにガッコウにいかなくなった。あきゴハンもたべなかつたり、しかし、チュウシヨクもで、きいたんだらう。

そうやって、めしのかわりにてにいたシィディだが、そんなにやくにたっているわけでもない。やはり、めしとドウガクテイド（たとえばゴヒャクエン）はらうなら、めしをユウセンさせるべきだ。ゴハンをしっかりたべたうえで、おやつとどっちにしますかというといのホウがいいだらう。いまのわたしだったら、ヒャクゴジュウエンのおやつをえらんでしまうかもしれない。すきなアーティストのオンガクだったらそれでもかうだらう。

いまはオンガクが、イチジカンイチエン（●ヒャクサンジュウハチ）だから、ダガシのガムとどちらをえらびますかというところだらう。イチマイサンゼンエンなんて、たしかにコストがかかっているんだらうが、いままでがたかすぎたきがする。いえるのは、ゴハンをぬいてオンガクをかうのは、やめたホウがいいということだ。いまはひとりイチジカンイチエンだから、オンガクをいろいろきいてみたいひとにとってはいいジダイかもしれない。わたしはシィディをサンビャクマイくらいかったが（ニセンゴヒャクエンかける サンビャクマイ はななジュウゴマンエン）、いまだとそれだけならば、ロクジュウネンききホウダイ（センエンかける ジュウニカゲツ かけるロクジュウネン）だ。オンガクずきにはわるくないだらう。

#### ヒャクななジュウキョウ

まえにジブンとカイシャとシャカイというみっつのヘンスウをつかって、ショウライのなりゆきをヨソクするホウホウをセツメイした（●ニジュウハチ）。スウシキでいうと、エーかける エックス（ジブン）と ビー かける ワイ（カイシャ）と シー かける ゼット（シャカイ）とおまけのディ（ショキチ）をケイサンするということになる。なにもなければ、ケイサンはできないが、データをイッテイスイジョウあつめれば、ケイサンカ

ノウだ。そういう「カイシャ」や「シャカイ」をふくめたケイサンなら、「ジブン」だけでのデータでケイサンするよりはセイカクになる（ジブンのツゴウだけで、キュウリョウがあがるわけではない。）。

それをななジュウオクのヘンスウでケイサンすれば、チキュウのキボのショウライヨソクができる。しかし、カザンフンカなどのキショウジョウケンがはいっていないので、セイカクとはいえないだろう。ここでのケイサンはチョクセンがでるので、こまかくみて、あがったり、さがったりをみるといいかもしれない。そういうみかたをすると、それは、「ケイキ」のジョウゲだろう。だから、しろうとでも、データとケイサンキがあれば、ケイキのヨソクはできるとのことだ。

しかし、いまのところななジュウオクのヘンスウをニンシキできるソフトウェアがないとおもわれるから、かなりジンリキでケイサンしなければならないかもしれない。それだけロウリョクをかけてヨソクしてどうするというモンダイもある。そういうのをスーパーコンピュータでケイサンしていたりするのだろうか。

#### ヒャクハチジュウ

シャカイシュギケイザイをケンキュウしても、あまりおもしろくないだろう。ハイキュウにあるものイガイはないし、せいぜいあるもののなかからどれが、ニンキがあるくらいしかわからないだろう。しかし、ジュウシュギケイザイだと、キホンテキにジュウだから、いろいろなことをするひとがでてきたり、いろいろなものがつくられたりする。そこでのいろいろななにかは、かならずしもジュウヨウななにかではないかもしれないが、ニンゲンはジュウにさせると、そういうことをするのだ（そういうものをつくるんだというデータになる。）。そういうデータをつかって、またシンセイヒンができる。そうすると、まだてつかずのジュウはへってしまうが、それでも、まだいろいろなかがでる。いまのところ、まだてつかずのジュウはあるんだろう。

#### ヒャクハチジュウイチ

ユダヤキョウやキリストキョウのセイショには、かみにきんじられたきのみのかがかかっている。なぜ、そのみをたべてはいけないのか。それはニンゲンが知らないことをのこしておかなければならいということのようなきがする。ニンゲンはあることをしてしまつと、そのことについては「ジュウ」ではなくなる。ケイモウシュギとはそういう「ジュウ」をへらすことでもあろう。だからこそ、「ダツチ（しることからはなれること [●『ア』ヒャクロクジュウシチ、ヒャクななジュウイチ、『よ』はじめに、イチ]）」なのだろう。ホントウに「ジュウ」でありたかったら、知らないのにかぎるのである。カガクがハッテンし、いろいろチケンがでる。しかし、（しらなければ）ジブンなりにかんがえられるでもある。すくなくとも、いくつかは、知らないなにかをのこしておくといいだろうというのが、セイショのおしえのようなきがする。

あとがき

ジュウニガツからかきはじめて、ゴガツはじめてかきおえた。キョネンのクガツからコンピュータネットワークでレンサイをはじめた。それにコウカイするペースとシンサクをかくペースいまのところほどよい。「いぬもあるけばボウにあたる。」というが、わたしもひとりでかんがえるようになって、ドクジのネタでかけるようになった。タブン、「いぬもあるかにヤボウにあたらん。」なのだろう。

わたしはテレビゲームのカートリッジもかったし、オンガクシィディもかったし、ホンもかった。そのなかでオンガクとホンはジブンでつくれるようになった。ただ、ホンブンでかいたように、オンガクは、カカクのゲラクがはげしい。そのわりにはロウリヨクがかかるので、ホンをかくのをユウセンさせようかとおもっている。ホンもカカクのゲラクがケネンされるころではあるが、ペンとかみがあればかける（もっといってパソコンとインサツキとセイホンキ。）。ふるくからあるやりかただから、そのホウがやすあがりかとおもう。モチロンわたしがかくことを「ダツチ（『しる』からはなれる。[●『ア』ヒャクロクジュウシチ、ヒャクななジュウイチ、『よ』はじめに、イチ、ホンブンヒャクハチジュウイチ]）」されてもかまわない。どうしてもというジュウヨウなことはそれほどかいていないだろうから。「あるかない」のもいいが、「あるく」のもいい。とりあえず、まだ「あるいて」みようとおもっている。

ニセンジュウハチネンゴガツムイカ バンシュン

オンガクイチエンのジダイ  
エイゾウ

ニセンジュウハチネンハチガツジュウよっか

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオド  
ドシーオーエム  
ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド  
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラ カンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

エイゾウのデンシサイトからコウニューできます。

<http://eizo09.com>

---

『オンガクイチエンのジダイ』

---

著 エイゾウ

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---